

山梨県甲府市

甲府城下町遺跡（日向町遺跡第2地点）

—山梨県北口駐車場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—



2004・3
山梨県教育委員会
山梨県土地開発公社

山梨県甲府市

甲府城下町遺跡（日向町遺跡第2地点）

—山梨県北口駐車場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2004・3

山梨県教育委員会
山梨県土地開発公社



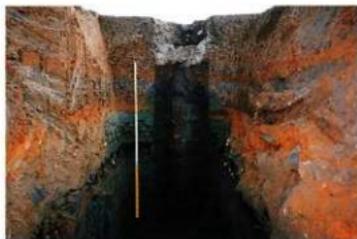
第1号井戸半截状況



第2号井戸半截状況



第6号井戸完掘状況



第2号井戸検出状況



第4号井戸半截状況



第4号井戸完掘状況



第4号井戸桐木検出状況



第5号井戸半截状況



第6号井戸半截状況



第3号溝状遺構横列検出状況



第4号溝状遺構遺物出土状況



第7号溝状遺構完備状況



第4号溝状遺構北端部断面



第4号溝状遺構炭化材検出状況



第7a、b号溝状遺構瓦出土状況



第5号溝状遺構遺物出土状況



第5号井戸出土状況・第6号土坑完備状況



第2・3号暗渠完備状況



第2・5・6号井戸出土遺物



第3号井戸出土遺物



第4号清状遺構出土遺物(1)



第4号清状遺構出土遺物(2)



第4号溝状遺構出土遺物(3)



第4号溝状遺構出土遺物(4)



第5・7号溝状遺構出土遺物



第7号土坑・第2号暗渠出土遺物

序

甲府城下町遺跡（日向町遺跡第2地点）の所在する甲府駅北口一帯は、中世戦国期の武田信虎・信玄・勝頼親子三代の時代には、鵜踰ヶ崎館（国史跡武田氏館跡）を拠点に開かれた城下の東南端にあたり、近世には県指定史跡甲府城の城下となり、追手門に近い位置にあたることから武家地として土地利用が幕末までなされた地域であります。

今回の甲府城下町遺跡（日向町遺跡第2地点）の発掘調査は、山梨県北口駐車場建設に伴い、その事前調査として2001（平成13）年度に行われました。調査の結果、井戸跡、溝状遺構、墓坑などをはじめ中世から近代に属する遺構・遺物を検出することができました。中世では16世紀後半の墓坑や溝状遺構などが散在的に分布し、積極的な土地利用が見られない状況を確認することができました。また、江戸時代では、武家屋敷の境界と考えられる溝状遺構や井戸など、甲府勤番支配が配置された18世紀中葉から幕末までの遺構が中心に検出され、大量に出土した近世の陶磁器とともに甲府城下町における生活の実態を解明する上で欠かせない資料を得ることができました。本書に掲載しておりますこれらの調査結果は、学術的価値が非常に高く、中世城下町に始まり近世・近代都市へと発展したこの地の歴史の変遷過程の解明にも大いに役立つ資料になることと思います。

本報告書が多くの方々に研究学習資料としてご活用いただければ幸甚であります。

末筆ながら、種々ご協力賜りました関係機関各位、地元の方々並びに直接調査、整理に従事していただいた方々に厚く御礼申し上げます。

2004年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 渡 辺 誠

例 言

1. 本報告書は、2000年度に実施した山梨県甲府市北口2丁目11に所在する甲府城下町遺跡（日向町遺跡第2地点）の発掘調査報告書である。
2. 本調査は、山梨県北口駐車場建設に伴う事前調査であり、山梨県土地開発公社より委託を受け、山梨県埋蔵文化財センターが調査を実施したものである。
3. 発掘調査および出土品の整理は、山梨県埋蔵文化財センターが行い、小林広和、保坂和博、楠間美季江が担当した。
4. 本報告書の編集および執筆は、保坂和博が担当した。関連科学については、第IV章自然科学分析をパリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。
5. 本報告書作成のための主な作業分担は下記のとおりである。

遺構写真撮影	小林広和、楠間美季江
遺物写真撮影	清水 守、保坂和博
遺物洗浄	真道みゆき、長谷川りん、福島祥子、保坂信明、山本三重子、渡辺旭光
遺物注記・接合・復元	梶原初美、佐野真雪、平川涼子、望月厚子
実測・拓本・トレース	
遺構トレース	佐野真雪、平川涼子
図版作成	保坂和博、佐野真雪、平川涼子
写真図版作成	保坂和博
表作成	保坂和博、佐野真雪
6. 発掘調査および整理事業において下記の業務を委託した。

樹種・種実同定、動・植物遺存体同定、花粉分析、漆器製作技法	パリノ・サーヴェイ株式会社
基準杭測量	昭和測量株式会社
7. 本報告書にかかる出土品および記録図面、写真等は一括して山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。
8. 本遺跡の発掘調査および報告書作成に関わる組織は下記のとおりである。

調査主体	山梨県教育委員会
調査機関	山梨県埋蔵文化財センター
調査担当者	小林広和、楠間美季江
整理担当者	保坂和博（主任文化財主事）
発掘作業員	有泉弘巳、石川友子、石川久子、石川正明、今村貞雄、奥山宗石、加藤秀代、神沢正孝、河野逸広、小林伝三、小林松生、座間昭子、真道みゆき、手塚房子、手塚盛明、長谷川りん、花形三男、深沢芳邦、福島祥子、保坂信明、宮沢初恵、三枝千穂美、向井毅毅春、守屋敏子、山本三重子、横山英藤、渡辺旭光
整理作業員	基礎整理：真道みゆき、長谷川りん、福島祥子、保坂信明、山本三重子、渡辺旭光 報告書作成：梶原初美、佐野真雪、平川涼子、望月厚子
9. 発掘調査から報告書作成にいたる過程で、下記の諸氏、諸機関から多大なるご教示、ご協力を賜った。記して謝意を表す次第である。（順不同・敬称略）
甲府市教育委員会（志村憲一、佐々木満）、パリノ・サーヴェイ株式会社、昭和測量株式会社、清水 守
10. 本報告の遺跡名について
当初、本建設事業地内の遺跡名は甲府市における遺跡台帳と照らし合わせて「甲府城下町遺跡」として進めてきたが、他の周辺遺跡の多くの名称が「甲府城下町遺跡」であり混同を防ぐため、隣接地で埋蔵文化財センターが調査した日向町遺跡の第2地点として本報告では遺跡名を加筆記載することとした。

凡 例

1. 掲載した図面の縮尺は、原則として次のとおりである。

<遺構>

遺構全体図：1/250 井戸・土坑・ピット：1/40 溝状遺構：1/70（2・3・4・7号平面・エレベーション図：1/140） 暗渠：1/60

<遺物>

磁器・陶器・石器・土器：1/3 土製品1/3 瓦：1/4 石製品1/3 木製品：1/4
金属製品：1/3（鉄貨：2/3）

2. 遺物図版中の表記は次のとおりである。

- a. 回転復元実測した陶磁器については、口縁部または底部の中心線と接する箇所を切断して示した。
b. 遺物図版中以下のようにスクリーントーンを使用した。

木製品炭化範囲： 木製品断面： 陶器・土器煤付着範囲：
木製品漆塗面： 石製品断面： 土器・土製品・瓦・石製品欠損部：

3. 遺構図版中の表記は次のとおりである。

- a. 遺構図・全体図などに示した方位は、国土座標による真北である。
b. 遺構図の断面図等にある数値は、標高を示す。
c. 遺構図版中の遺物番号は、遺物図版番号・遺物観察表番号と一致している。
d. 遺構図版中以下のようなスクリーントーンを使用した。

地山： 礫集中検出地点： 炭化材集中検出地点：
礫断面：

- e. 遺物分布に使用したドットマークは各図版中に示したとおりである。
4. 遺構および遺物写真の縮尺は、統一されていない。

5. 推定個体数

陶磁器類の推定個体数は残存した底部破片から算定した「底部換算値」と個別資料の和である。「底部換算値」は『内藤町遺跡』（新宿区内藤町遺跡調査会ほか、1992）第Ⅱ分冊第2章第2節に基づいて算定した。

6. 遺物一覧表

陶磁器類の分類については、前掲『内藤町遺跡』第Ⅱ分冊及び『南山伏町遺跡』（新宿区南山伏町遺跡調査団、1997）を基準とした。

7. 遺物総破片点数および総重量

遺物総破片点数および総重量については、微小な細片が多い木製品（布製品を含む）および自然遺物（動・植物遺存体）を除いたデータである。

本文目次

第I章 序説	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の概要	1
第II章 遺跡の立地と環境	2
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第III章 発掘調査の成果	4
第1節 遺跡の概要	4
第2節 基本層序	4
第3節 遺構	7
第4節 遺物	9
第IV章 自然科学分析	20
第1節 木材利用	20
第2節 漆器製作技術の検証	23
第3節 繊維の材質	24
第4節 種実遺体からみた植物利用	25
第5節 動物遺体からみた動物利用	27
第6節 古植生復元	29
第V章 まとめ	32
第1節 遺構について	32
第2節 遺物について	34

挿図・表目次

I-1 調査進行表	1
II-2 遺跡分布図	3
II-3 遺跡分布一覧	3
II-4 調査区的位置	3
III-1 検出遺構一覧	4
III-2 検出遺物集計	4
III-3 基本層序	4
III-4 検出遺構全体図	5・6
III-5 遺構一覧表(井戸)	7
III-6 遺構一覧表(溝状遺構)	7
III-7 遺構一覧表(土坑)	8
III-8 遺構一覧表(暗渠)	8
III-9 遺構一覧表(ピット)	8
III-10 検出遺物集計表	9
III-11 遺物一覧表(磁器)①	10
III-12 遺物一覧表(磁器)②	11
III-13 遺物一覧表(磁器)③	12
III-14 遺物一覧表(陶器)①	12
III-15 遺物一覧表(陶器)②	13
III-16 遺物一覧表(陶器)③	14
III-17 遺物一覧表(拓器)	14
III-18 遺物一覧表(土器)①	14
III-19 遺物一覧表(土器)②	15
III-20 遺物一覧表(土製品)	15
III-21 遺物一覧表(瓦)	15

III-22 遺物一覧表(石製品)	15
III-23 遺物一覧表(木製品)①	16
III-24 遺物一覧表(木製品)②	17
III-25 遺物一覧表(木製品)③	18
III-26 遺物一覧表(木製品)④	19
III-27 遺物一覧表(金属製品<煙管>)	19
III-28 遺物一覧表(金属製品<銅・鉄製品>)	19
III-29 遺物一覧表(金属製品<銀貨>)	19
IV-1 樹種同定結果	21
IV-2 用途別種類構成	23
IV-3 漆断面観察結果	24
IV-4 種実遺体同定結果	26
IV-5 出土動物分類群一覧	28
IV-6 骨貝類同定結果	29
IV-7 花粉分析結果	30
IV-8 花粉化石群集	31
V-1 甲府城下町絵図	32
V-2 遺構の変遷	33
V-3 4号溝状遺構・陶器・拓器・土器種類組成表	34
V-4 土地利用の変化	35・36
V-5 検出遺物の様相(1)<第4号溝状遺構>	37・38
V-6 検出遺物の様相(2)<その他>	39・40

図版目次

遺構図

1 第1～3号井戸
2 第4～6号井戸
3 第1・5・6・8号溝状遺構
4 第2号溝状遺構
5 第3号溝状遺構
6 第4号溝状遺構
7 第4号溝状遺構遺物分布図(1)
8 第4号溝状遺構遺物分布図(2)
9 第4号溝状遺構遺物分布図(3)
10 第4号溝状遺構遺物分布図(4)
11 第7a・b号溝状遺構
12 第7a・b号溝状遺構瓦集中出土地点
13 第9号溝状遺構
14 第1～5号土坑
15 第6号土坑・ピット群
16 第1～3号暗渠

遺物実測図

17 磁器 碗類(1)
18 磁器 碗類(2)
19 磁器 碗類(3)・皿類
20 磁器 鉢類・壺類・瓶類・水注類
21 磁器 蓋類 陶器 碗類(1)
22 陶器 碗類(2)・皿類
23 陶器 鉢類(1)

- 24 陶器 鉢皿(2)・甕類・瓶類・水注類(1)
- 25 陶器 水注類(2)・鍋類・甕燗類
- 26 陶器 器台類・壺類 柘器 皿類・鉢類土器 皿類(1)
- 27 土器 皿類(2)・鉢類(1)
- 28 土器 鉢類(2)・甕類(1)
- 29 土器 甕類(2)・釜類・鍋類・蓋類・鉢類(3) 土製品
- 30 瓦 石製品
- 31 木製品 漆器 食関係(1)
- 32 木製品 食関係(2)
- 33 木製品 食関係(3) 衣・容飾
- 34 木製品 容器(1)
- 35 木製品 容器(2)
- 36 木製品 容器(3)
- 37 木製品 容器(4)
- 38 木製品 容器(5)
- 39 木製品 農耕・生業 遊玩具 喫煙具 武器・武器 模
- 40 木製品 不明製品 加工木(1)
- 41 木製品 加工木(2)
- 42 木製品 加工木(3)
- 43 木製品 加工木(4)
- 44 木製品 加工木(5)
- 45 木製品 加工木(6)
- 46 木製品 加工木(7)
- 47 木製品 加工木(8)
- 48 木製品 住関係 金属製品

遺物写真

- 52 磁器 碗類
- 53 磁器 皿類・鉢類・瓶類・蓋類 陶器 碗類・皿類
- 54 陶器 皿類・鉢類・甕類
- 55 陶器 瓶類・鍋類・甕燗類・器台類・蓋類
- 56 柘器 皿類・鉢類 土器 皿類・鉢類・甕類・釜類
- 57 土器 鍋類・蓋類 土製品 瓦 石製品
- 58 木製品 漆器 食関係 衣・容飾 容器(1)
- 59 木製品 容器(2) 農耕・生業 遊玩具 木札 模 武器・武器 不明製品 加工木 木っ端
- 60 木製品 竹筒 桐木 住関係 金属製品
- 61 花粉分析 樹種同定分析(1) 花粉化石 木材(1)
- 62 樹種同定分析(2) 木材(2) 木材(3)
- 63 樹種同定分析(3) 種実遺体同定分析 木材(4) 種実遺体
- 64 漆塗膜分析 纖維材質分析 漆断面 纖維断面

遺構写真

- 49 調査区全景 検出遺構(井戸)
A区全景 B区全景 第1号井戸(東から) 第2号井戸検出状況(西から) 第2号井戸半截状況(西から) 第3号井戸半截状況(南から) 第4号井戸礫検出状況(南から) 第5号井戸礫検出状況(東から) 第6号井戸桶検出状況(南から)
- 50 検出遺構(溝状遺構 ビット)
第1号溝状遺構(南から) 第2号溝状遺構礫検出状況(北から) 第3号溝状遺構(南から) 第4号溝状遺構(北から) 第4号溝状遺構礫検出状況(南から) 第5・6号溝状遺構(南から) 第8号溝状遺構(南から) 第9号溝状遺構・第21~33号ビット(南から)
- 51 検出遺構(土坑 暗渠 ビット)
第1号土坑(西から) 第2号土坑(南から) 第4・5号土坑半截状況(南から) 第5号土坑(南から) 第6号土坑木棺検出状況(東から) 第1号暗渠(西から) 第2・3号暗渠(南から) 第41~50号ビット(南から)

第 I 章 序説

第 1 節 調査に至る経緯

甲府城下町遺跡（日向町遺跡第 2 地点）は、山梨県甲府市北口 2 丁目 11 に所在する。当該地は山梨県土地開発公社（山梨県北口駐車場）の用地にあたるが駐車場の改築にあたり、県教育委員会あてに土地開発公社より、埋蔵文化財の存否照会が為された。県教委はこれに対し本遺跡一帯が江戸時代武家屋敷であったこと、近接して平成 11（1999）年に調査が行われた甲府城下町遺跡（日向町遺跡第 1 地点）および甲府城下町遺跡（桜シルク跡）A・B 区が所在することから埋蔵文化財の試掘調査の実施を依頼した。試掘調査は平成 12（2000）年 4 月 24 日に行われ、5 ヶ所の試掘坑から中世から近代にかけての井戸・土坑・暗渠などや陶磁器類等が確認された。このため、土地開発公社および県学術文化財課と同埋蔵文化財センターで平成 13 年 10 月 22 日に埋蔵文化財の保護についての協議を行い、駐車場改築予定地約 2,400㎡に対し、本格調査を実施することとなった。

工程	時期												担当調査員																		
	00	01	02											03			04														
	4	~	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
調査	試掘																														小林 忠 小林 昭
	A 区																														小林 昭 植岡
	B 区																														小林 昭 植岡
発掘	基礎整理																														小林 昭 植岡
発掘	報告書作成																														保 坂

I-1 調査進行表

発掘調査・整理作業及び文化財保護法に基づく手続き等は以下のとおりである（表 I-1）。

【発掘調査・整理作業】

- 平成 13（2001）年 11 月 1 日～平成 14（2002）年 2 月 15 日：発掘調査
- 平成 14（2002）年 2 月 19 日～平成 14（2002）年 3 月 27 日：第 1 次（基礎）整理作業
- 平成 14（2002）年 7 月 11 日～平成 15（2003）年 3 月 27 日：第 2 次（報告書作成）整理作業
- 平成 15（2003）年 6 月 2 日～平成 15（2003）年 7 月 22 日：第 3 次（報告書作成）整理作業

【文化財保護法に基づく手続き】

- 平成 13（2001）年 10 月 31 日：文化財保護法第 58 条の 2 第 1 項に基づく「埋蔵文化財発掘調査の報告」を山梨県教育委員会教育長に提出
- 平成 14（2002）年 2 月 20 日：文化財保護法第 59 条第 2 項に基づく「埋蔵文化財発見の通知」を山梨県教育委員会教育長に提出

第 2 節 調査の概要

第 1 項 調査の方法

調査は、排土の都合上、南北で二分し南側調査区（A 区）と北側調査区（B 区）に分けて実施した。調査区設定後、重機により表土を除去し、引き続いて遺構確認面直上から人力による掘り下げを行い、遺構確認に努めた。その後、遺構内の精査を進めた。

グリッドの設定は、調査区全体を覆うようにして、南北方向を X 軸、東西方向を Y 軸とする国土座標系に合わせた 5m メッシュを設定した。X 軸（南から北）方向に 1・2・3…の算用数字を、Y 軸（西から東）方向に A・B・C…のアルファベットを付した。グリッドの名称は両ラインの交差点を基準とし、各グリッドの南西隅の交点をもって呼称した（図 III-4）。

遺物の記録・取り上げは、遺構確認面に到達するまでは各グリッドごとに一括して取り上げ、遺構内出土の遺物（井戸出土物を除く）に関しては平板測量及びレベル測量により取り上げた。

遺構図及び遺物微細図は、平板及び簡易やり方を適宜選択して実測した。

第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境

甲府城下町遺跡（日向町遺跡第2地点）は、山梨県甲府市北口2丁目に所在し、甲府駅北口に近接している。地質学的に見ると、遺跡周辺は、秩父山系から湧き出し、甲府市北部の山裾より盆地へ流れ込む相川により形成された扇状地扇端部に相当する。調査地点は、標高279.5～280.5mの南傾緩斜面上に位置し、西方が相川、東方が藤川および標高約423mの愛宕山によって挟まれ、南方には近世に甲府城が築城された標高約305mの一条小山と呼ばれる独立した丘陵が存在している。調査地点には、近接する日向町遺跡第1地点および甲府城下町遺跡（桜シルク跡A・B区）同様、相川扇状地に一般的に見られる自然堆積層が確認され、地表下約3～4mで砂層の透水層が検出された。調査区内では、標高が低下する南方ほど水位が高くなる傾向が見られる。

第2節 歴史的環境

本遺跡が位置する相川扇状地域の土地利用の歴史は古く、永正16（1519）年、武田信虎がそれまで本拠としていた甲府市東部の川田館を引き払い、御厨ヶ崎に新たな居館を造営し、その南側に家臣団屋敷地と町人地を坊条に城下町を形成したことに始まり、この中世段階の調査地点は戦国期城下町の南端部にあたる。

本遺跡周辺は、近世段階においては、近世甲府城の「山手御門」北側に位置する内郭の武家屋敷地にあたる。近世甲府城の築城開始は、近年の甲府城跡の発掘調査成果により武田氏滅亡後の天正18（1590）年頃と推定され、当初から豊臣秀吉側近の羽柴秀勝、加藤光泰、浅野長政・幸長父子が建設にあたり、関東を拠点とする徳川家康の動静を牽制する目的を持っていたことが証明されている。城下町は身分制度を都市構造に反映し、内堀で囲われた内城を中心に、二の堀内側（内郭）の武家屋敷地、三の堀内側（外郭）およびその外側（郭外）の町人町と、身分による居住地域が定められていた。また、武家屋敷地（内郭）は内城を中心に南北の二郭に分かれ、15か所の見付けで外郭と連絡されていた。この武家屋敷地を挟む格好で北部に上府中（古府中）26町、南部・東部に下府中（新府中）23町の計49町が整備され、上府中26町は中世の城下町を継承し、下府中の23町は甲府城築城に伴い新たに建設されたものである。武家地は城代・城番制が敷かれ、支配者が在勤しなかったため、甲府在勤の家臣は少なく、大手門の正面に広がっているが範囲は狭い。また、神社・寺院は一選寺など中世の武田氏時代の城下町から三の堀内側（外郭）およびその周辺に移転された。

慶長5（1600）年間ヶ原戦の後、徳川家康は浅野幸長を紀州和歌山へ移すと、幕府にとって軍事上の要地である甲斐は以降、徳川氏一門または譜代大名を領主とするが、幕府の直轄地とするのを例とし、徳川義直（城代平岩親吉）、徳川忠長、徳川綱重・綱豊父子と、宝永元年（1704）まで徳川氏の一族の領主が続いた間に一時直轄領に組み入れられた。

宝永元年、五代將軍綱吉の信任の下に側用人として幕閣の中枢にあった柳沢吉保が武蔵野国川越から十五万石で入部し、甲府藩を立藩した。翌宝永2（1705）年には、甲府城の星形曲輪・栞星曲輪の殿舎などの建設と石垣の修築をはじめ、城下も城代・城番制時代とは異なり、藩主が在勤となるため従来の武家地では家臣の屋敷を配置できないため、城下町の本格的な再整備に着手し、吉保・吉里父子の時代には、近世甲府の最盛期を迎えることとなった。柳沢時代は、郭外の侍屋敷225軒、役人屋敷60軒、足軽屋敷627軒、同心組屋敷100軒、小人組屋敷14軒を数え、町人口推定14000人に増加し、近世甲府の最高を記録した。

徳川吉宗の「享保の改革」の一連の政策の中で、享保9（1724）年、柳沢吉里が大和郡山へ転封になると甲府は幕府直轄下となり、甲府城・甲府城下町の守備を目的に甲府勤番支配が設置され、支配や勤番士は江戸から甲府へ赴任した。その後、享保12（1727）年、城内から出火した大火災により柳沢時代に築かれた武家屋敷や、櫓などの城内建築物の多くは焼失した。

元治元（1864）年、町方兼務を廃止し、新しく甲府町奉行が置かれ、慶長2（1866）年には勤番支配を廃止し、慶応4年、明治元（1868）年まで甲府城代が置かれた。

明治初年以降の近代段階では、調査区周辺にあった勤番士の屋敷は撤去され、畑地となった。



II-1 遺跡分布図

遺跡名	所在地・遺物出土	時代	遺跡名	調査時期・調査内容	時代
1	甲府城下遺跡(西ノ丸跡)	武家野跡跡・江戸・慶土記	15	甲府城跡(遺跡跡)	江戸～近代
2	甲府城下遺跡(西ノ丸跡)	武家野跡跡・江戸・慶土記	16	甲府城跡(遺跡跡)	江戸～近代
3	甲府城下遺跡(西ノ丸跡)	武家野跡跡・江戸・慶土記	17	甲府城跡(遺跡跡)	江戸～近代
4	甲府城下遺跡(西ノ丸跡)	武家野跡跡・江戸・慶土記	18	甲府城跡(遺跡跡)	江戸～近代
5	甲府城下遺跡(西ノ丸跡)	武家野跡跡・江戸・慶土記	19	甲府城跡(遺跡跡)	江戸～近代
6	甲府城下遺跡(西ノ丸跡)	武家野跡跡・江戸・慶土記	20	甲府城跡(遺跡跡)	江戸～近代
7	甲府城下遺跡(西ノ丸跡)	武家野跡跡・江戸・慶土記	21	甲府城跡(遺跡跡)	江戸～近代
8	甲府城下遺跡(西ノ丸跡)	武家野跡跡・江戸・慶土記	22	甲府城跡(遺跡跡)	江戸～近代
9	甲府城下遺跡(西ノ丸跡)	武家野跡跡・江戸・慶土記	23	甲府城跡(遺跡跡)	江戸～近代
10	甲府城下遺跡(西ノ丸跡)	武家野跡跡・江戸・慶土記	24	甲府城跡(遺跡跡)	江戸～近代
11	甲府城下遺跡(西ノ丸跡)	武家野跡跡・江戸・慶土記	25	甲府城跡(遺跡跡)	江戸～近代
12	甲府城下遺跡(西ノ丸跡)	武家野跡跡・江戸・慶土記	26	甲府城跡(遺跡跡)	江戸～近代
13	甲府城下遺跡(西ノ丸跡)	武家野跡跡・江戸・慶土記	27	甲府城跡(遺跡跡)	江戸～近代
14	甲府城下遺跡(西ノ丸跡)	武家野跡跡・江戸・慶土記	28	甲府城跡(遺跡跡)	江戸～近代

II-2 遺跡分布一覧



II-3 調査区的位置

第三章 発掘調査の成果

第1節 遺跡の概要

本遺跡は、中世から近世を主体とする遺跡である。今回の調査では、古代の遺物はほとんど発見されていないが、近接する日向町遺跡第1地点や甲府城下町遺跡（桜シルク跡A・B区）では、古墳時代の遺物が検出されていることから、本遺跡周辺に古代の集落が存在していた可能性がある（図Ⅱ-3）。中世の当該地は、戦国期城下町の一角を占め、また江戸時代以降、幕末期までは甲府城「山手御門」北側に位置する内郭の武家屋敷地に相当した範囲である。

＜遺構＞ 検出された遺構は、中世から近世に所属するもので、ピット59基を含めて総数83基である（表Ⅲ-1）。遺構分布は、各時代を通して概ね低密度である。中世では、16世紀後半の墓坑や溝状遺構などが散在的に分布し、積極的な土地利用が見られない状況である。江戸時代では、17世紀後半の墓坑、18世紀後半から19世紀中葉の井戸、溝状遺構、墓坑、暗渠などが確認され、井戸をはじめ調査区北側に集中する傾向がある。溝状遺構は、武家屋敷を区画する境界と考えられるものが存在している。

＜遺物＞ 検出された遺物は、縄文時代の凹石を除き、中世から明治時代に帰属し、総破片数2,054点、総重量60,149.22g（木製品、自然遺物を除く）である（表Ⅲ-2）。遺物総破片数のうち、磁器・陶器・石器・土器の破片数は1,789点で、87%となり主体的である。これらの製作年代は16世紀後半から19世紀中葉まで幅広い年代幅を持つが、量的に増加するのは18世紀後半以降である。

遺構性格	井戸	溝状遺構	土坑	暗渠	ピット	合計
遺構数	6	9	6	3	59	83

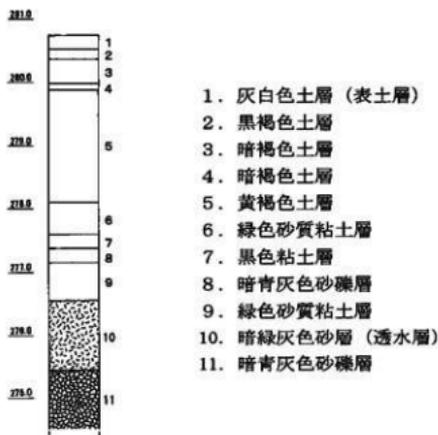
Ⅲ-1 検出遺構一覧

	磁器	陶器	炆器	土器	土製品	瓦	金属製品	石製品	ガラス製品	その他	合計
総破片数	752	656	32	349	15	148	84	11	5	2	2054
総重量(g)	12959.21	13990.44	984.67	13288.88	205.64	16559.69	899.09	1107.30	130.98	23.32	60149.22

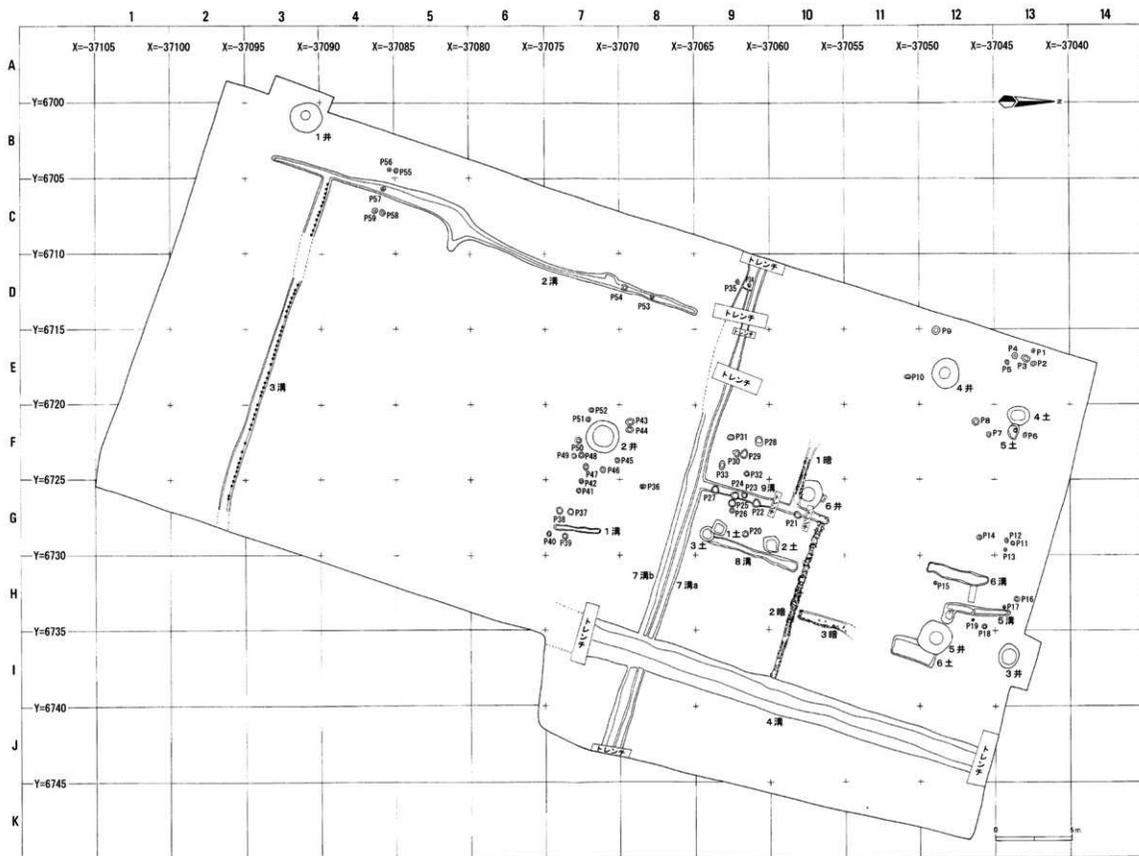
Ⅲ-2 検出遺物累計

第2節 基本層序

相川扇状地の扇端部、南傾緩斜面上に位置する本遺跡の標高は、北部で約280.5m、南部で279.5mを測る。基本層序は、調査区中央部の第2号井戸（A-A'）および北端部の第4号溝状遺構（A-A'）の2箇所断面観察に基づくものである。現地表面から約50cmの深さまでは、第1層の表土層で、その下層の第2層は炭化物を多量に含む堆積層、第3層は18～19世紀代の遺物を含む近世の堆積層、第4層は近世以前の堆積層と推定される。自然堆積層は、第2号井戸の断面観察から地表下5.5m地点までに7層が確認され、第10層の砂層は、標高約276.5m地点に位置する透水層である。



Ⅲ-3 基本土層



Ⅲ-4 検出遺構全体図

第3節 遺構

検出遺構は、中世から近世に所屬する井戸6基、溝状遺構9条、土坑6基、暗渠3基、ピット59基の總數83基である(表Ⅲ-5～Ⅲ-9)。

<井戸> 井戸の形態は、素掘り井戸(第1号)、積み上げ式井戸枠の結構組型井戸(第2・6号)、積み上げ式井戸枠の石組型(第4・5号)の3型式に大別され、いずれも平面形は円形を呈する。第2号井戸は5段の結構が組み、近接する第41～52号ピットは井屋に関わる可能性がある。また埋土内からは結構の釣鉤など木製品が多量に出土している。第4号井戸は遺構面下約2mの地点に木材(転用材)2本が並行し、これと直角方向に2カ所の穴が確認された。これらは木材を井桁状に組み、その上に石積みを行った痕跡と思われる。第6号井戸は底部に結構が1段確認されたが、堀形の状況より廃棄の際に枠材を抜き取った可能性がある。廃棄年代は、第1号井戸を除き肥前系磁器を主体とする出土遺物より18世紀中葉から19世紀初頭と考えられる。

<溝状遺構> 溝状遺構の長軸方位は、N-20°-E前後(第2・4・6・8・9号)およびN-72°-W前後(第3・7a・7b号)となり、現在の街路と並行(直交)し、武家屋敷を区画する境界の塀か溝状遺構と考えられる。第3号溝状遺構の枕列、第4号溝状遺構の多量の出土遺物、第7a・7b号溝状遺構の瓦集申出土が特筆される。これらの年代は、18世紀中葉から19世紀中葉と考えられる。このほか、第1号溝状遺構は16世紀後半から17世紀初頭の瀬戸・美濃系天目碗、志戸呂系灯明皿など、第5号溝状遺構は17世紀後半から18世紀初頭の肥前系唐津の大鉢やかわかけ、灯明皿などが出土している。

<土坑> 第1号土坑(20～30cm大の平石)、第2号土坑(煙管、不明銅製品)、第6号土坑(木棺、釘)は、それぞれ遺物の検出状況より墓坑と思われる。これらの構築年代は、16世紀後半(第1号土坑)、18世紀後半(第6号土坑)および19世紀代(第2号土坑)と考えられる。

<暗渠> 暗渠の主軸方位は、N-78°-W(第1・2号暗渠)およびN-12°-E(第3号暗渠)となる。これらの年代は、第4号溝状遺構および第6号井戸との重複関係より19世紀中葉以降と考えられる。いずれも近世後半の土地区画(第4・7a・7b号溝状遺構など)を踏襲している。

<ピット> ピットのみで詳集するタイプ(1～5、7・8、11～14、28～33など)と他の遺構に付随するタイプに大別される。第2号井戸の井屋に関わると思われる第41～52号ピットや第2号溝状遺構に付随すると思われる第55号9号ピット以外は、規則的な配列は見られず、明確に建物や柱穴として把握できるものはなく、また、検出遺物が無いため、年代は不明である。

各遺構の概要は、遺構一覧表(表Ⅲ-5～表Ⅲ-9)に掲載した。

Ⅲ-5 遺構一覧表(井戸)

遺構番号	検出地	構造形式 (表Ⅲ-5) (注1)	建替時期	長軸方位	形状			断面(m)(単位目録参照)			構造	出土	検出遺物	遺構関係	遺構時期
					平面	断面	傾斜	深さ	幅	傾斜					
1	B-3-4G	素掘	不明	N-20°-E	ほぼ円形	円形	0-1尺	200	100	30	270.0	2層に分けて掘削された	木製品(漆器等)・少量出土		18世紀前半
2	F-7G	積み上げ式井戸枠の結構組型井戸(井戸構造図参照)	不明	N-60°-E	ほぼ円形	単層	直式	240	210	530	200.0	毎段1.5段ずつ7.4段に分けて掘削された	陶磁器類:伊勢系磁器(灯籠・小茶碗)・少量出土 土製品:漆器、唐津系磁器、美濃系磁器、伊賀系磁器、志戸呂系磁器、肥前系磁器、唐津系磁器 銅製品:不明		18世紀前半
3	I-10G	素掘	不明	N-90°-E	ほぼ円形	単層	ほぼ直式	102	136	1300	200.0	1層掘削	陶磁器類:伊勢系磁器(灯籠・小茶碗)・少量出土 土製品:漆器、唐津系磁器、美濃系磁器、伊賀系磁器、志戸呂系磁器、肥前系磁器、唐津系磁器 銅製品:不明		18世紀前半
4	E-13G	積み上げ式井戸枠の石組型結構組型井戸	不明	N-90°-E	ほぼ円形	単層	直式(断面不明)	190	150	600	200.0	1層掘削	陶磁器類:伊勢系磁器(灯籠・小茶碗)・少量出土 土製品:漆器、唐津系磁器、美濃系磁器、伊賀系磁器、志戸呂系磁器、肥前系磁器、唐津系磁器 銅製品:不明		18世紀前半
5	H-1-10G	5号-6号	積み上げ式井戸枠の石組型	N-20°-W	ほぼ円形	単層	直式(土組)	210	220	400	200.0	1層掘削	陶磁器類:伊勢系磁器(灯籠・小茶碗)・少量出土 土製品:漆器、唐津系磁器、美濃系磁器、伊賀系磁器、志戸呂系磁器、肥前系磁器、唐津系磁器 銅製品:不明	5号-6号(4層)	19世紀前半
6	G-10G	1号-6号-9号	積み上げ式井戸枠の石組型結構組型井戸	N-60°-W	ほぼ円形	単層	直式	230	180	400	200.0	1層掘削	陶磁器類:伊勢系磁器(灯籠・小茶碗)・少量出土 土製品:漆器、唐津系磁器、美濃系磁器、伊賀系磁器、志戸呂系磁器、肥前系磁器、唐津系磁器 銅製品:不明	5号-6号(4層) 7号(4層)	19世紀前半

Ⅲ-6 遺構一覧表(溝状遺構)

遺構番号	検出地	構造形式 (表Ⅲ-6) (注1)	建替時期	長軸方位	形状			断面(m)(単位目録参照)			構造	出土	検出遺物	遺構関係	遺構時期
					平面	断面	傾斜	深さ	幅	傾斜					
1	G-7G	2号-8号の延長	不明	N-10°-E	直線的	直線	直線	30.0	30.0	30.0	100.0	1層に分けて掘削された	陶磁器類:伊勢系磁器(灯籠・小茶碗)・少量出土 土製品:漆器、唐津系磁器、美濃系磁器、伊賀系磁器、志戸呂系磁器、肥前系磁器、唐津系磁器 銅製品:不明		18世紀前半
2	B-3-11-9G	2号-8号、10-11-12号の延長	不明	N-20°-E	直線的	直線	直線	300.0	200.0	20.0	270.0	2層に分けて掘削された	陶磁器類:伊勢系磁器(灯籠・小茶碗)・少量出土 土製品:漆器、唐津系磁器、美濃系磁器、伊賀系磁器、志戸呂系磁器、肥前系磁器、唐津系磁器 銅製品:不明		18世紀前半
3	C-2-5G	3号	不明	N-72°-W	直線的	直線	直線	0.500	0.500	0.500	270.0	1層に分けて掘削された	陶磁器類:伊勢系磁器(灯籠・小茶碗)・少量出土 土製品:漆器、唐津系磁器、美濃系磁器、伊賀系磁器、志戸呂系磁器、肥前系磁器、唐津系磁器 銅製品:不明		18世紀前半
4	G-11-7-1-10G	1号-7号	不明	N-20°-E	直線的	直線	直線	0.500	0.500	0.500	200.0	1層に分けて掘削された	陶磁器類:伊勢系磁器(灯籠・小茶碗)・少量出土 土製品:漆器、唐津系磁器、美濃系磁器、伊賀系磁器、志戸呂系磁器、肥前系磁器、唐津系磁器 銅製品:不明		18世紀前半
5	H-17-10G	3号	不明	N-60°-E	直線的	直線	直線	0.500	0.500	0.500	200.0	1層に分けて掘削された	陶磁器類:伊勢系磁器(灯籠・小茶碗)・少量出土 土製品:漆器、唐津系磁器、美濃系磁器、伊賀系磁器、志戸呂系磁器、肥前系磁器、唐津系磁器 銅製品:不明		18世紀前半

建設年度	掘削地点	発着間隔(第一目) [m]	掘削機	発着方位	形式			掘削(m)発生体積(概算)			掘削深 (m)	覆土	抽出物	遊離剤配合	遊離剤種類
					平形	底形	巻輪	長輪	短輪	巻輪					
8	H-13C			N-10°-E	直形	平形	巻輪	413	75	9	200.3	18m以下	なし		不明
7	D-30 T-3C	7b機*2ビット	2本(7a・7b)進行方向 平行に連続掘削	N-12°-W	点形	平形	巻輪・巻輪	2180	126	42	200.2	18m以下 16m以下掘削 多量	磁石・重油系・重油・丸・重油系	5% (重油系)	18年4月中旬 ～10月中旬
8	G-30 H-13C	3.5機・2機		N-17°-E	直形	平形	巻輪	645	59	5	200.2	18m以下	磁石・重油系・少量抽出		不明
8	G-30*H-13C	2機*7b機・1機 -21-2ビット	21-20-22-23C*2機	N-20°-E	直形	平形	巻輪	3149	62	33	200.2	18m以下 15m以下掘削 少量	なし		不明

Ⅲ-7 遺構一覧表(土坑)

建設年度	掘削地点	発着間隔(第一目) [m]	掘削機	発着方位	形式			掘削(m)発生体積(概算)			掘削深 (m)	覆土	抽出物	遊離剤配合	遊離剤種類
					平形	底形	巻輪	長輪	短輪	巻輪					
1	G-30C	1.5-3.1	横断上約20m×大平形掘削	N-6°-W	横断形	平形	巻輪	50	88	22	200.2		磁石・土質調査		18年4月中旬
2	G-30*H-13C		磁石	其北	巻輪	平形	巻輪	96	104	18	200.2		磁石・磁石・丸・重油系 磁石系・土質		19年4月
3	G-30C	1.5-3.1	横断上約20m×大平形掘削	N-6°-W	横断形	平形	巻輪	50	96	31	200.2		磁石・土質調査		不明
4	F-13C	5.2-4.1		N-10°-E	巻輪	平形	巻輪	145	123	200.3	20m以下 15m以下掘削	磁石・重油系・丸・重油系 丸・重油系・土質		不明	
5	F-13C	5.2-4.1	横断上約20m×大平形掘削	N-17°-W	巻輪	平形	巻輪	97	68	200.3	20m以下 15m以下掘削	磁石・土質調査		不明	
6	I-11-13C	5.0-6.7	磁石(本機)	N-22°-E	巻輪	平形	巻輪	295	142	52	200.4	20m以下 15m以下掘削 少量	磁石・重油系・土質 磁石・重油系 丸・重油系 丸・重油系・土質	4機(重油系) 4機(重油系)	18年4月中旬

Ⅲ-8 遺構一覧表(暗渠)

建設年度	掘削地点	発着間隔(第一目) [m]	掘削機	発着方位	形式			掘削(m)発生体積(概算)			掘削深 (m)	覆土	抽出物	遊離剤配合	遊離剤種類
					平形	底形	巻輪	長輪	短輪	巻輪					
1	F-G-13C	1機*4機*1機	磁石・重油系・丸・重油系 1機調査	N-10°-W	巻輪	平形	巻輪	1720	43	28	200.3		磁石・重油系・丸・重油系 磁石・土質		19年4月
2	G-I-13C	2機*4機・3機	磁石・重油系・丸・重油系 1機調査	N-10°-W	巻輪	平形	巻輪	1861	19	14	200.2		磁石・重油系・丸・重油系 磁石・土質	4機(重油系)	19年4月中旬
3	H-13C	2機*3機	磁石・重油系・丸・重油系 1機調査	N-12°-E	巻輪	平形	巻輪	344	69	10	200.2		なし		19年4月中旬

Ⅲ-9 遺構一覧表(ピット)

遺構番号	掘削番号	発着間隔(第一目) (不明*)	平面形	掘削(m)発生体積(概算)			掘削機	抽出物	遊離剤種類	
				長輪	短輪	巻輪				
1	PL-15		ほぼ円形	28	17	9	1〜5ビット集中	なし	不明	
2	PL-15		ほぼ円形	29	20	18		なし	不明	
3	PL-15		楕円形	61	29	10		なし	不明	
4	PL-15		ほぼ円形	45	41	34		なし	不明	
5	PL-15		ほぼ円形	29	19	10		なし	不明	
6	PL-14		ほぼ円形	29	24	44	4・5土質掘	なし	不明	
7	PL-15		ほぼ円形	23	27	14	4・5土質掘	なし	不明	
8	PL-15		ほぼ円形	46	44	13	7ビット掘	なし	不明	
9	掘削1-5		ほぼ円形	60	47	34		なし	不明	
10	掘削1-5		ほぼ円形	43	36	17		なし	不明	
11	PL-15		ほぼ円形	26	22	32	11〜13ビット集中	なし	不明	
12	PL-16		楕円形	33	24	8		なし	不明	
13	PL-15		ほぼ円形	19	11	11		なし	不明	
14	PL-15		ほぼ円形	25	23	6		なし	不明	
15	PL-3		ほぼ円形	22	20	7		なし	不明	
16	PL-3		ほぼ円形	35	33	24		なし	不明	
17	PL-3		ほぼ円形	21	18	14	5機掘	なし	不明	
18	PL-3		ほぼ円形	32	28	18	5機掘	なし	不明	
19	PL-3		ほぼ円形	17	11	9		なし	不明	
20	PL-5		ほぼ円形	42	38	8	9機掘	なし	不明	
21	PL-13	21ビット*9機	ほぼ円形	52	37	40	機掘出	なし	不明	
22	PL-13		ほぼ円形	56	52	22	機掘出	なし	不明	
23	PL-13		ほぼ円形	40	27	20	機掘出	なし	不明	
24	PL-13		ほぼ円形	56	49	21	機掘出	なし	不明	
25	PL-13		ほぼ円形	51	48	14	28ビット・8機・24ビット掘	機掘出	なし	不明
26	PL-13		ほぼ円形	30	29	16	25ビット掘	なし	不明	
27	PL-13	27ビット*9機	ほぼ円形	84	47	13	機掘出	なし	不明	
28	PL-13		楕円形	67	52	21	29〜30ビット・32〜33ビット掘	なし	不明	
29	PL-13		楕円形	61	42	27		なし	不明	
30	PL-13		ほぼ円形	46	40	13		なし	不明	
31	PL-13		ほぼ円形	43	35	12		なし	不明	
32	PL-13		ほぼ円形	36	31	32		なし	不明	
33	PL-13		ほぼ円形	62	39	27		なし	不明	
34	PL-11	34ビット*7b機	ほぼ円形	23	22	15		なし	不明	
35	PL-11		ほぼ円形	23	28	20		なし	不明	
36	掘削1-5		ほぼ円形	37	28	26	7機・34ビット掘	なし	不明	
37	PL-3		ほぼ円形	43	43	43	1機周辺:37〜40ビット集中	なし	不明	
38	PL-3		ほぼ円形	45	43	21		なし	不明	
39	PL-3		ほぼ円形	29	27	38		なし	不明	
40	PL-3		ほぼ円形	34	30	26		なし	不明	
41	掘削1-5		ほぼ円形	51	51	17	2井周辺:41〜52ビット集中	なし	不明	
42	掘削1-5		ほぼ円形	28	27	20		なし	不明	
43	PL-1		ほぼ円形	55	47	22		なし	不明	
44	PL-1		ほぼ円形	45	39	20		なし	不明	
45	PL-1		ほぼ円形	35	30	15		なし	不明	
46	PL-1		ほぼ円形	41	38	26		なし	不明	
47	PL-1		ほぼ円形	44	35	27		なし	不明	
48	PL-1		ほぼ円形	35	34	95		なし	不明	
49	PL-1		ほぼ円形	34	32	11		なし	不明	
50	PL-1		ほぼ円形	44	27	21		なし	不明	
51	PL-1		ほぼ円形	30	29	13		なし	不明	
52	PL-1		ほぼ円形	33	30	10		なし	不明	
53	PL-4	53-54-57ビット*2機	ほぼ円形	26	24	15		なし	不明	
54	PL-4		ほぼ円形	49	31	18		なし	不明	
55	PL-4		ほぼ円形	27	24	36	2機周辺:55〜59ビット集中	なし	不明	
56	PL-4		ほぼ円形	28	25	35		なし	不明	
57	PL-4		ほぼ円形	28	25	42		なし	不明	
58	PL-4		ほぼ円形	40	38	30		なし	不明	
59	PL-4		ほぼ円形	37	34	33		なし	不明	

第4節 遺物

検出された遺物は、縄文時代の凹石を除き、中世から明治時代に帰属し、その内容は、磁器・陶器・妬器・土器・土製品・瓦・金属製品・石製品・ガラス・木製品・自然遺物などから構成される。

木製品および自然遺物を除くすべての出土遺物は、総破片数2,054点、総重量60,149.22gとなり、材質別破片数と重量は、各遺構単位ごとに計測し、表Ⅲ-10に掲載した。

甲府城下町遺跡（日向町遺跡第2地点）では、磁器・陶器・土器・瓦・金属製品の破片数・重量が相対的に多く、また年代が下がるにつれて磁器・陶器に比べ土器の破片数・重量は徐々に少なくなる傾向が見られる。瓦は、特定の遺構（第7a・7b号溝状遺構）から偏って出土する傾向がある。木製品および自然遺物の破片数・重量の計測は今回行っていないが、井戸から集中して多量に出土する傾向があり、有機質という性質および陶磁器類などの廃棄のされ方が異なることが想定される。土製品・石製品・ガラス製品は、他の遺物に比して、破片数・重量ともに非常に少なく、特定の遺構（第1号井戸・第4号溝状遺構）から出土する傾向がある。

特徴すべき遺構としては、総破片数の46%、総重量の47%にのぼる遺物を出した第4号溝状遺構がある。各遺物の概要は、観察表（Ⅲ-11～Ⅲ-29）の通りである。

Ⅲ-10 検出遺物集計表

遺構	磁器		陶器		妬器		土器		土製品		瓦		金属製品		石製品		ガラス製品		その他		合計
	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	
2号井戸	29	18	1	37	2	16	21	5	2	1	132										1948.49
3号井戸	199.51	48.03	15.40	298.11	5.61	1281.00	110.13	19.61	7.48	0.61	125										5630.47
4号井戸	33	27	0	53	0	10	5	0	0	0	4										366.57
5号井戸	835.78	534.87	0	2254.74	0	1976.00	29.06	0	0	0	0										1491.19
6号井戸	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0										19
1号溝状遺構	62	41	0	21	0	0	2	0	1	0	127										1983.68
3号溝状遺構	564.28	487.78	0	414.22	0	0	23.41	0	1.50	0	19										20
4号溝状遺構	5	7	0	5	0	2	0	0	0	0	0										422.16
5号溝状遺構	189.04	113.88	0	200.76	0	1480.00	0	0	0	0	0										50
6号溝状遺構	4	11	0	5	0	0	0	0	0	0	0										439.77
7号溝状遺構	57.47	263.80	0	100.89	0	0	0	0	0	0	0										940
8号溝状遺構	25	17	0	8	0	0	0	0	0	0	0										2820.40
9号溝状遺構	89.57	84.20	0	266.00	0	0	0	0	0	0	0										24
10号溝状遺構	362	369	17	118	12	33	22	4	2	1	940										1811.74
11号溝状遺構	8067.85	8539.18	544.32	6965.50	188.33	2951.00	201.91	599.60	122.00	22.71	28202.40										1
12号溝状遺構	7	8	1	6	1	0	3	0	0	0	24										1
13号溝状遺構	33.52	1131.20	27.97	400.81	11.70	0	206.54	0	0	0	1										427.00
14号溝状遺構	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0										217
15号溝状遺構	0	0	0	0	0	427.00	0	0	0	0	0										10889.19
16号溝状遺構	73	42	8	7	0	82	5	0	0	0	0										5
17号溝状遺構	1228.08	237.91	365.82	540.12	0	8143.00	74.26	0	4	0	0										34.80
18号溝状遺構	1	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0										2
19号溝状遺構	3.39	0	0	0	0	0	31.41	0	0	0	0										0
20号土坑	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0										22.47
21号土坑	0	22.47	0	0	0	0	0	0	0	0	0										8
22号土坑	2	1	0	3	0	0	2	0	0	0	0										28.56
23号土坑	4.51	6.93	0	6.12	0	0	11.00	0	0	0	0										1
24号土坑	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0										4.35
25号土坑	4.35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0										7
26号土坑	5	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0										63.44
27号土坑	43.71	0	0	19.73	0	0	0	0	0	0	0										2
28号土坑	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0										17.70
29号土坑	0	0	0	0	0	0	17.7	0	0	0	0										23
30号土坑	8	11	0	3	0	0	1	0	0	0	0										67.88
31号土坑	26.88	26.97	0	11.20	0	0	2.85	0	0	0	0										2
32号土坑	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0										15.63
33号土坑	12.49	3.14	0	0	0	0	0	0	0	0	0										9
34号土坑	6	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0										265.61
35号土坑	18.83	47.78	0	0	0	199.00	0	0	0	0	0										132
36号土坑	36	24	2	57	0	1	11	1	0	0	0										2849.46
37号土坑	287.64	397.83	18.60	1478.61	0	65.13	122.65	479.00	0	0	0										152
38号土坑	71	53	3	19	0	2	3	1	0	0	0										2389.98
39号土坑	685.83	1297.00	12.56	297.00	0	67.56	20.94	9.09	0	0	0										49
40号土坑	21	20	0	5	0	0	3	0	0	0	0										1079.55
41号土坑	606.50	380.90	0	45.07	0	0	47.21	0	0	0	0										2054
42号土坑	752	656	32	349	15	148	84	11	5	2	2054										
合計	12959.21	13990.44	984.67	13288.88	205.64	16559.89	899.09	1107.30	130.98	23.32	60149.22										

Ⅲ-11 遺物一覽表 (磁器) ①

国名	番号	出土地点	器種	形状特征	直径(cm)	底径(cm)	口径(cm)	高さ(cm)	重量(g)	成形	裝飾技法		土色	附屬	製作	年代	備考
											繪付・繪裏	文様					
1	410200	4号塚状遺物	磁器 高台	口花 丸形	(4.0)	2.7	(1.8)	6.12		轆轤 高台	繪付 白磁	白	白	瀬戸・美濃系	1800~		
2	410201	4号塚状遺物	磁器 高台	口花 丸形	(5.7)	2.8	(2.5)	7.87		轆轤 高台	繪付 白磁	白	白	瀬戸・美濃系	1780~1850		
3	410444	4号塚状遺物	磁器 高台	口花 丸形	6.2	3.1	2.9	20.55		轆轤 高台	繪付 白磁	白	白	肥前系	1820~1850		
4	410292	4号塚状遺物	磁器 高台	口花 丸形	4.8	1.5	1.1	11.36		轆轤 高台	繪付 白磁	灰白	白	肥前系	1810~1820		
5	410285	4号塚状遺物	磁器 高台	口花 丸形	6.3	2.6	2.5	37.44		轆轤 高台	繪付 白磁	白	白	瀬戸・美濃系	1800~		
6	410291	2号井戸一筋	磁器 高台	口花 丸形	(5.5)	2.7	(2.4)	10.13		轆轤 高台	繪付 白磁	白	白	肥前系	1810~1820	異入	
7	410266	4号塚状遺物	磁器 高台	口花 丸形	5.2	2.7	2.4	29.01		轆轤 高台	繪付 白磁	白	白	肥前系	1710~1750		
8	410291	4号塚状遺物	磁器 高台	口花 丸形	5.0	3.1	2.6	28.04		轆轤 高台	繪付 白磁	白	白	瀬戸・美濃系	1800~		
9	2号井戸一筋	2号井戸	磁器 高台	口花 丸形	(6.5)	3.0	(3.5)	16.18		轆轤 高台	繪付 白磁	白	白	肥前系	1700~1780		
10	3号井戸一筋	3号井戸	磁器 高台	口花 丸形	7.6	[4.2]		56.76		轆轤 高台	繪付 白磁	灰白	白	肥前系	1710~1740		
11	3号井戸一筋	3号井戸	磁器 高台	口花 丸形	6.5	3.8	2.8	51.28		轆轤 高台	繪付 白磁	灰白	白	肥前系	1680~1740		
12	表掘	表掘	磁器 高台	口花 丸形	6.4	3.0	2.5	47.79		轆轤 高台	繪付 白磁	白	白	瀬戸・美濃系	1800~		
13	7号井戸一筋	7号井戸	磁器 高台	口花 丸形	(8.5)	4.6	3.0	64.44		轆轤 高台	繪付 白磁	白	白	肥前系	1780~1820		
14	410263	2号塚状遺物	磁器 高台	口花 丸形	(7.0)	3.7	(2.9)	39.90		轆轤 高台	繪付 白磁	白	白	瀬戸・美濃系	1800~		
15	410266	4号塚状遺物	磁器 高台	口花 丸形	(7.0)	4.9	(3.3)	35.98		轆轤 高台	繪付 白磁	白	白	肥前系	1500~		
16	410262	4号塚状遺物	磁器 高台	口花 丸形	(7.1)	5.0	(3.3)	42.44		轆轤 高台	繪付 白磁	白	白	肥前系	1800~		
17	410253	4号塚状遺物	磁器 高台	口花 丸形	(7.6)	5.2	(3.6)	29.40		轆轤 高台	繪付 白磁	白	白	肥前系	1800~		
18	410285	4号塚状遺物	磁器 高台	口花 丸形	(7.0)	6.1	3.4	112.00		轆轤 高台	繪付 白磁	白	白	瀬戸・美濃系	1800~		
19	410266	4号塚状遺物	磁器 高台	口花 丸形	(8.2)	8.2	3.1	99.10		轆轤 高台	繪付 白磁	白	白	瀬戸・美濃系	1800~		
20	410266	4号塚状遺物	磁器 高台	口花 丸形	8.3	4.8	3.7	98.46		轆轤 高台	繪付 白磁	白	白	瀬戸・美濃系	1800~		
21	4号塚状遺物	磁器 高台	口花 丸形	(8.9)	4.8	(3.7)	73.59		轆轤 高台	繪付 白磁	白	白	瀬戸・美濃系	1800~			
22	4号塚状遺物	磁器 高台	口花 丸形	9.4	5.0	(3.9)	83.61		轆轤 高台	繪付 白磁	白	白	瀬戸・美濃系	1800~			
23	4102317	4号塚状遺物	磁器 高台	口花 丸形	(9.3)	5.0	(3.9)	83.61		轆轤 高台	繪付 白磁	白	白	瀬戸・美濃系	1800~		
24	410249	4号塚状遺物	磁器 高台	口花 丸形	(9.0)	4.9	(3.7)	35.31		轆轤 高台	繪付 白磁	白	白	瀬戸・美濃系	1800~		
25	410246	4号塚状遺物	磁器 高台	口花 丸形	(9.0)	[4.1]		28.86		轆轤 高台	繪付 白磁	白	白	瀬戸・美濃系	1800~		
26	410233	4号塚状遺物	磁器 高台	口花 丸形	(8.3)	6.2	(3.2)	62.90		轆轤 高台	繪付 白磁	白	白	瀬戸・美濃系	1800~		
27	7号一筋	7号井戸	磁器 高台	口花 丸形	7.1	4.4	3.6	62.39		轆轤 高台	繪付 白磁	白	白	瀬戸・美濃系	1800~		
28	7号一筋	7号井戸	磁器 高台	口花 丸形	7.1	4.4	3.6	26.67		轆轤 高台	繪付 白磁	白	白	瀬戸・美濃系	1500~		
29	6号井戸一筋	6号井戸	磁器 高台	口花 丸形	(7.3)	[4.9]		28.21		轆轤 高台	繪付 白磁	白	白	肥前系	1800~		
30	410235	4号塚状遺物	磁器 高台	口花 丸形	6.8	8.2	3.4	110.00		轆轤 高台	繪付 白磁	白	白	瀬戸・美濃系	1800~		
31	410266	4号塚状遺物	磁器 高台	口花 丸形	(7.0)	6.4	(3.7)	43.29		轆轤 高台	繪付 白磁	白	白	瀬戸・美濃系	1800~		
32	2号井戸一筋	2号井戸	磁器 高台	口花 丸形	6.3	3.9	(2.3)	26.21		轆轤 高台	繪付 白磁	白	白	肥前系	1780~1820		
33	3号井戸一筋	3号井戸	磁器 高台	口花 丸形	11.1	6.1	4.2	172.00		轆轤 高台	繪付 白磁	灰白	白	瀬戸・美濃系	1750~1770	くらわんが	
34	410245	4号塚状遺物	磁器 高台	口花 丸形	[4.3]	4.1	112.00			轆轤 高台	繪付 白磁	灰白	白	肥前系	1750~1770	越前(越前)	
35	410242	4号塚状遺物	磁器 高台	口花 丸形	(10.0)	5.4	(4.3)	61.21		轆轤 高台	繪付 白磁	白	白	瀬戸・美濃系	1750~		
36	3号井戸一筋	3号井戸	磁器 高台	口花 丸形	(9.6)	4.8	3.7	54.66		轆轤 高台	繪付 白磁	白	白	肥前系	1750~		
37	410274	4号塚状遺物	磁器 高台	口花 丸形	(10.2)	5.3	(3.6)	74.81		轆轤 高台	繪付 白磁	白	白	肥前系	1750~		
38	6号一筋	6号井戸	磁器 高台	口花 丸形	(11.3)	6.4	4.9	121.00		轆轤 高台	繪付 白磁	白	白	肥前系	1780~1810		
39	4102103	4号塚状遺物	磁器 高台	口花 丸形	[6.8]	4.8	98.05			轆轤 高台	繪付 白磁	白	白	肥前系	1780~1830	竹野高台	
40	410249	4号塚状遺物	磁器 高台	口花 丸形	(10.9)	8.3	(4.8)	183.00		轆轤 高台	繪付 白磁	灰白	白	瀬戸・美濃系	1800~1830		
41	410231	4号塚状遺物	磁器 高台	口花 丸形	(10.8)	[4.4]		149.00		轆轤 高台	繪付 白磁	灰白	白	肥前系	1820~1860		
42	4102403	4号塚状遺物	磁器 高台	口花 丸形	10.1	5.7	4.1	119.00		轆轤 高台	繪付 白磁	白	白	瀬戸・美濃系	1800~		
43	410267	4号塚状遺物	磁器 高台	口花 丸形	(10.6)	5.8	4.4	142.00		轆轤 高台	繪付 白磁	白	白	瀬戸・美濃系	1800~		
44	410225	4号塚状遺物	磁器 高台	口花 丸形	11.0	8.0	4.1	186.00		轆轤 高台	繪付 白磁	白	白	瀬戸・美濃系	1800~		

Ⅲ-12 遺物一覽表 (磁器) ②

館番号	発掘番号	所在地	器種	形状特徴	口径(mm)			高さ (mm)	成形	裝飾技法		土色	時代	制作	備考
					口径	器高	底径			絵付・釉薬	文様				
46	46224-307	4号溝状遺物	中瓶	XI 瓶形	(11.3)	8.0	4.5	187.00	轆轤 削り	絵付 呉紙・透明釉	内:白磁青文、見込 一重黒線内文 外:赤文	白	肥前系	1808~	
46	46228	4号溝状遺物	中瓶	XI 瓶形	(10.3)	8.5	4.0	139.00	轆轤 削り	絵付 呉紙・透明釉	内:白磁青文、見込 一重黒線内文 外:山文	白	肥前系	1808~	朝倉 重 行司 15-3
47	46194-237	4号溝状遺物	中瓶	XI 瓶形	(10.8)	9.0	(4.7)	42.97	轆轤 削り	絵付 呉紙・透明釉	内:白磁青文、見込一重 黒線内文 外:山文、人面文、紅	白	肥前系	1808~	焼成痕
48	46259	4号溝状遺物	中瓶	XI 瓶形	(10.8)	6.0	(4.2)	33.80	轆轤 削り	絵付 呉紙・透明釉	内:白磁青文、見込一重 黒線内文 外:黒線内文 外:黒線内文	白	肥前系	1808~	
49	46231	赤土附片	中瓶	XI 瓶形	(10.6)	5.9	(4.3)	71.88	轆轤 削り	絵付 呉紙・透明釉	内:白磁青文、見込一重 黒線内文 外:黒線内文	白	肥前系	1808~	焼成痕
50	46243	4号溝状遺物	中瓶	XI 瓶形	(9.6)	5.3	(3.6)	78.99	轆轤 削り	絵付 呉紙・透明釉	内:白磁青文	白	肥前系	1808~	
51	46305	4号溝状遺物	中瓶	XI 瓶形	(9.8)	5.0	(3.3)	53.70	轆轤 削り	絵付 呉紙・透明釉	内:白磁青文、見込一重 黒線内文 外:黒線内文	白	肥前系	1780~ 1810	
52	46229	4号溝状遺物	中瓶	XI 瓶形	(11.3)	(6.4)	(7.0)	83.79	轆轤 削り	絵付 呉紙・透明釉	内:白磁青文、見込一重 黒線内文 外:赤文	白	肥前系	1820~ 1860	
53	46247	4号溝状遺物	中瓶	XI 瓶形	(9.9)	(4.4)		18.74	轆轤	色絵 透明釉	上絵付 内:白磁青文、見込二重 黒線 外:山文	白	肥前系	1818~	
54	46359	4号溝状遺物	中瓶	XI 瓶形	(11.3)	3.6	61.14		轆轤 削り 高台砂目	絵付 呉紙・透明釉	内:見込一重黒線内文 外:赤文	白	肥前系	1810~ 1820	
55	46279	4号溝状遺物	中瓶	XI 瓶形	(12.6)	5.6	(5.1)	63.34	轆轤 削り	絵付 呉紙・透明釉	内:白磁青文	白	肥前系	1810~	中倉
56	46215	7号溝状遺物	中瓶	XI 瓶形	11.9	5.0	4.4	156.80	轆轤 削り 高台砂目	絵付 呉紙・透明釉	内:白磁青文 外:赤文、竹筒文	白	肥前系	1808~	前川以 雄
57	46217	3号片一 片	大瓶	XI 瓶形	(5.4)	6.3	244.00		轆轤 削り 高台砂目	絵付 呉紙・透明釉	内:見込二重黒線内文 外:赤文	灰白	肥前系	1780~ 1770	くらわ んか手
58	46218	1号溝状遺物	中瓶	XI 瓶形			13.72		青磁釉		内:青文	灰白	中国 (徳前系)	148~ 1780	
59	46112	7号溝状遺物	中瓶	XI 瓶形	(5.9)	4.2	46.85		轆轤 削り 高台	絵付 呉紙・透明釉	内:赤文	白	肥前系	1790~ 1860	
60	46193	4号溝状遺物	中瓶	XI 瓶形	5.7	1.5	2.5	30.31	轆轤 削り 高台	透明釉	内:	灰白	肥前系		
61	46265	D-2C	小瓶	XI 瓶形	(5.8)	2.4	2.0	11.89	轆轤 削り 高台	絵付 呉紙・透明釉	内:竹文	灰白	肥前系	1808~	
62	46365-481	4号溝状遺物	小瓶	XI 瓶形	(13.8)	2.9	(7.1)	121.00	轆轤 削り 高台砂目	絵付 呉紙・透明釉	内:赤文、見込二重 黒線内文 外:赤文	灰白	肥前系	1810~ 1780	くらわ んか手
63	46366-255	4号溝状遺物	小瓶	XI 瓶形	13.5	3.9	8.9	257.00	轆轤 削り 高台砂目	絵付 呉紙・透明釉	内:赤文、見込二重 黒線内文 外:赤文	灰白	肥前系	1818~ 1820	
64	46223-248	4号溝状遺物	小瓶	XI 瓶形	11.6	2.9	8.0	193.00	轆轤 削り 高台砂目	絵付 呉紙・透明釉	内:赤文、見込二重 黒線内文 外:赤文	白	肥前系	1818~ 1780	朝倉 重 行司
65	46355	4号溝状遺物	小瓶	XI 瓶形	8.9	2.3	5.1	77.14	轆轤 削り	絵付 呉紙・透明釉	内:山文	白	肥前系	1810~ 1820	
66	461474	4号溝状遺物	小瓶	XI 瓶形	9.1	2.2	6.4	59.95	轆轤	絵付 呉紙・透明釉	内:山文 外:赤文	白	肥前系	1818~ 1820	
67	461483	4号溝状遺物	小瓶	XI 瓶形	10.1	2.6	6.2	96.23	轆轤 削り 高台	絵付 呉紙・透明釉	内:山文 外:赤文	白	肥前系	1818~ 1820	
68	46115	7号溝状遺物	小瓶	XI 瓶形	(9.0)	(2.4)	(3.7)	10.67	轆轤 削り 高台	絵付 呉紙・透明釉	内:山文 外:赤文	白	肥前系	1818~ 1820	
69	46299	4号溝状遺物	小瓶	XI 瓶形	(8.9)	2.6	4.4	62.74	型打	透明釉	内:赤文、花文 外:	灰白	肥前系	1850~	朝倉 重 行司
70	46296-453	4号溝状遺物	小瓶	XI 瓶形	(8.2)	2.5	4.3	59.33	型打	色絵 透明釉	上絵付 花文	灰白	肥前系	1850~	
71	46297	4号溝状遺物	小瓶	XI 瓶形	(9.0)	2.6	(3.9)	37.40	型打	絵付 呉紙・透明釉	内:赤文、砂紋 外:	灰白	肥前系	1850~	
72	46216	曲瓶	玉瓶	XI 瓶形	(15.1)	(2.7)		41.24	轆轤	絵付 呉紙・透明釉	内:赤文	灰白	肥前系		
73	461415	4号溝状遺物	小瓶	XI 瓶形	(12.7)	4.0	(7.1)	142.00	轆轤 削り 高台	絵付 呉紙・透明釉	内:白磁青文、見込二重 黒線 外:赤文	灰白	肥前系	1808~	朝倉 重 行司
74	F-126 片	F-126 片	小瓶	XI 瓶形	(3.8)	(6.4)	90.51		轆轤 削り 高台	絵付 呉紙・透明釉	内: 外:竹文	白	肥前系		
75	46232	赤土附片	小瓶	XI 瓶形	(12.1)	8.8	8.6	226.00	轆轤	絵付 呉紙・透明釉	内:白磁青文、見込二重 黒線 外:赤文	灰白	肥前系	1808~	
76	46217	2号片一 片	小瓶	XI 瓶形	(7.5)	(3.5)		11.80	轆轤 型打	絵付 呉紙・透明釉	内:赤文、見込二重 黒線 外:赤文	灰白	肥前系		
77	46215	7号溝状遺物	小瓶	XI 瓶形	(10.3)	6.5	(7.3)	142.00	型絵こし	青磁釉	内:赤文	白	肥前系		
78	46242	4号溝状遺物	中瓶	XI 瓶形	(15.5)	(5.9)		94.69	轆轤 型打	絵付 呉紙・透明釉	内:見込二重 黒線 外:赤文	灰白	肥前系	1780~ 1860	朝倉 重 行司
79	46245	4号溝状遺物	中瓶	XI 瓶形	(4.8)	(7.6)	(6.1)	101.48	轆轤 削り 高台砂目	絵付 呉紙・透明釉	内: 外:	灰白	肥前系	1780~	
80	46217	3号片一 片	中瓶	XI 瓶形	(9.8)	(3.1)		37.28	轆轤	絵付 呉紙・透明釉	内:赤文	灰白	肥前系	1789~	
81	46218	4号溝状遺物	小瓶	XI 瓶形	2.1	(13.2)		79.42	轆轤	絵付 呉紙・透明釉	内:赤文	灰白	肥前系	1750~	
82	46217	3号片一 片	小瓶	XI 瓶形	2.1	(8.8)		44.32	轆轤	絵付 呉紙・透明釉	内:赤文	灰白	肥前系	1800~ 1860	
83	46228-212	4号溝状遺物	小瓶	XI 瓶形	(16.6)	4.0	62.25		轆轤 削り 高台砂目	絵付 呉紙・透明釉	内:赤文、見込二重 黒線 外:赤文	灰白	肥前系	1800~ 1860	時吉徳 利
84	46277	4号溝状遺物	小瓶	XI 瓶形	(2.5)	(4.4)	17.88		轆轤 削り 高台砂目	絵付 呉紙・透明釉	内:	灰白	肥前系	1800~ 1860	
85	461136	4号溝状遺物	中瓶	XI 瓶形	(3.9)	(4.9)	6.43	轆轤	絵付 呉紙・透明釉	内:赤文	灰白	肥前系	1808~	朝倉 重 行司	
86	46185	4号溝状遺物	中瓶	XI 瓶形	3.9	(16.5)		121.90	轆轤	絵付 呉紙・透明釉	内:山文	灰白	肥前系	1808~	朝倉 重 行司
87	461416	4号溝状遺物	中瓶	XI 瓶形	(14.4)	(8.2)	128.00		轆轤 削り	絵付 呉紙・透明釉	内:山文	灰白	肥前系	1808~	

Ⅲ-13 遺物一覧表 (磁器) ③

調査番号	発掘番号	出土地点	器種	形状特徴	寸法(mm) (現形/埋定)			重量(g)	成形	装飾技法		色土	胎土	製作	年代	備考
					口径	底径	高さ			繪付・繪裏	文様					
88	4階301	4号溝状遺物	磁器	—	—	7.3	6.3	60.46	輪轉	繪付 内:丸文(西方唐文) 外:丸文(西方唐文、 又文(上・右・花文))	白	—	瀬戸・美濃系	1800~		
89	4階302	4号溝状遺物	磁器	1上縁 取付部	(3.2)	12.9	(6.0)	61.98	輪轉 把手 付	色絵 赤繪 上縁に 赤繪	白	—	瀬戸系	明治頃		
90	1階一	1号溝状遺物	磁器	急須	1上縁 取付部	(7.2)	8.9	39.13	輪轉 貼付	色絵 赤繪 内:丸文、花文、 外:唐文、文文	白	—	肥前系	明治頃		
91	4階一	4号溝状遺物	磁器	丸形	—	(8.0)	2.2	35.83	輪轉	内:白繪唐文、見込 一重輪内唐文 外:唐文	白	—	肥前系	1820~	中層1号 の直	
92	3階1	3号井戸	磁器	碗形	—	(9.9)	2.9	47.75	輪轉	内:白繪唐文、見込 一重輪内唐文 外:唐文	白	紅・ 白	瀬戸・ 美濃系	1800~	中層1号 の直	
93	4階303	4号溝状遺物	磁器	碗形	—	(9.0)	2.6	35.97	輪轉	内:白繪丸文、見込 一重輪内唐文 外:白繪一重輪、 唐文	白	紅・ 白	瀬戸・ 美濃系	1900~	中層1号 の直	
94	4階37	4号溝状遺物	磁器	碗形	—	9.2	3.0	71.33	輪轉	内:白繪唐文、見込 一重輪内唐文 外:唐文	白	—	瀬戸・ 美濃系	1800~	中層1号 の直	
95	4階	表袋	磁器	楕圓形	—	(8.8)	2.6	46.64	輪轉	内:白繪唐文、見込 一重輪内唐文 外:唐文(点文)	白	紅・ 白	肥前系	1820~	中層1号 の直	
96	4階	表袋	磁器	楕圓形	—	(10.1)	2.5	16.15	輪轉	内:白繪唐文、見込 一重輪外唐文 外:唐文?	白	—	瀬戸・ 美濃系	1800~	中層1号 の直	
97	4階473	4号溝状遺物	磁器	碗形	—	(9.0)	[2.1]	20.13	輪轉	内:白繪唐文、見込 一重輪外唐文 外:唐文	白	—	肥前系	1740~ 1800	中層1号 の直	
98	4階39	4号溝状遺物	磁器	楕圓形	—	(10.6)	[1.9]	15.36	輪轉	内:白繪唐文、見込 一重輪外唐文 外:唐文、丸文	白	—	瀬戸・ 美濃系	1800~	中層1号 の直	
99	表土層	表土層	磁器	丸形	—	7.2	2.0	32.02	輪轉 貼付	内: 外:唐文、丸文	白	—	瀬戸・ 美濃系	明治頃		

Ⅲ-14 遺物一覧表 (陶器) ①

調査番号	発掘番号	出土地点	器種	形状特徴	寸法(mm) (現形/埋定)			重量(g)	成形	装飾技法		色土	胎土	製作	年代	備考
					口径	底径	高さ			繪付・繪裏	文様					
100	3階一	3号溝状遺物	小瓶	Y-4 平縁、 取付部	(6.8)	3.4	—	8.98	輪轉	色絵 赤繪 上縁に 赤繪	黄白	—	肥前系	1750~ 1760		
101	表土層	表土層	小瓶	Y-4 平縁、 取付部	(6.5)	3.9	(2.8)	16.41	輪轉 削り 高台	内: 外:	黄白	—	肥前系	1800~		
102	3階1	3号井戸	小瓶	Y-4 平縁、 取付部	(7.3)	3.3	(3.8)	24.73	輪轉 削り 高台	内: 外:	黄白	—	肥前系	1680~		
103	3階1	3号井戸	小瓶	Y-4 平縁、 取付部	(7.8)	4.8	(4.0)	56.82	輪轉 削り 高台	内: 外:	黄白	—	肥前系	1670~ 1750		
104	5階1	5号井戸	小瓶	V-0 平縁、 取付部	(8.4)	5.1	3.7	96.01	輪轉 削り 高台	内: 外:	灰	—	京・ 肥前系	1800~	中層1号 の直	
105	4階204	4号溝状遺物	小瓶	X-1 平縁	(8.3)	4.9	(2.9)	31.65	輪轉 削り 高台	内: 外:	灰白	—	京・ 肥前系	1800~	中層1号 の直	
106	4階290	4号溝状遺物	小瓶	X-X 1 平縁	(7.2)	5.4	(3.1)	32.36	輪轉 削り 高台	内: 外:	灰	—	肥前系	1800~	中層1号 の直	
107	3階1	3号井戸	中瓶	Y-4 平縁、 取付部	(10.7)	7.1	4.9	155.00	輪轉 削り 高台	内: 外:	灰	—	肥前系	1800~	中層1号 の直	
108	4階1	4号溝状遺物	中瓶	Y-4 平縁、 取付部	(4.8)	(4.4)	—	21.08	輪轉 削り 高台	内: 外:	黄白	—	瀬戸・ 美濃系	1690~		
109	4階6	4号溝状遺物	中瓶	Y-4 平縁、 取付部	(4.2)	(5.0)	—	49.43	輪轉 削り 高台	内: 外:	黄白	—	瀬戸・ 美濃系	1720~ 1740		
110	表土層	表土層	中瓶	Y-4 平縁、 取付部	(10.0)	[5.8]	—	46.18	輪轉 削り 高台	内: 外:	灰白	—	肥前系	1750~ 1760		
111	表土層	表土層	中瓶	Y-4 平縁、 取付部	(9.6)	[5.1]	—	24.31	輪轉	内: 外:	黄白	—	肥前系	1730~ 1740		
112	5階1	5号井戸	中瓶	Y-4 平縁、 取付部	(2.3)	4.2	—	48.13	輪轉 削り 高台	内: 外:	灰白	—	瀬戸・ 美濃系	1800~		
113	4階一	4号溝状遺物	中瓶	Y-4 平縁、 取付部	(4.6)	4.1	—	90.93	輪轉 削り 高台	内: 外:	灰白	—	瀬戸・ 美濃系	1800~		
114	F-12G 一	F-12G	中瓶	X-X 以 上	(12.0)	—	—	11.73	輪轉	内: 外:	灰	—	京・ 肥前系	1820~ 1830		
115	4階201 一	4号溝状遺物	中瓶	X-X X 等形	—	—	—	6.10	輪轉	内: 外:	黄白	—	肥前系	1725~ 1800		
116	4階334	4号溝状遺物	中瓶	X-X X 等形	—	—	—	5.45	輪轉	内: 外:	黄白	—	肥前系	1725~ 1800		
117	5階1	5号井戸	小瓶	Y-4 平縁、 取付部	(12.8)	(2.8)	—	31.66	輪轉	内: 外:	灰	—	瀬戸・ 美濃系	1800~		
118	4階57	4号溝状遺物	小瓶	V-0 平縁、 取付部	(13.6)	3.8	(6.8)	88.32	輪轉 削り 高台	内: 外:	灰	—	肥前系	1800~		
119	4階120 一	4号溝状遺物	大瓶	Y-4 平縁、 取付部	(12.0)	—	—	40.36	輪轉 削り 高台	内: 外:	黄白	—	瀬戸・ 美濃系	1750~ 1800	高の目 直	
120	5階1	5号井戸	大瓶	Y-4 平縁、 取付部	(2.3)	(14.1)	—	61.14	輪轉 削り 高台	内: 外:	黄白	—	肥前系	19C~		
121	F-12G 一	F-12G	大瓶	Y-4 平縁、 取付部	(2.0)	(12.4)	—	65.38	輪轉 削り 高台	内: 外:	灰白	—	瀬戸・ 美濃系	19C~		
122	4階26	4号溝状遺物	大瓶	Y-4 平縁、 取付部	(1.5)	(8.1)	—	130.00	輪轉	内: 外:	黄白	—	瀬戸・ 美濃系	1800~		
123	4階327 一	4号溝状遺物	磁器	Y-4 平縁、 取付部	(8.5)	1.7	(4.0)	27.99	輪轉	内: 外:	灰	—	肥前系	1800~		
124	4階143	4号溝状遺物	磁器	Y-4 平縁、 取付部	7.1	1.8	2.6	43.91	輪轉	内: 外:	灰	—	肥前系	1800~		
125	3階1	3号井戸	磁器	Y-4 平縁、 取付部	8.1	1.7	4.0	52.53	輪轉	内: 外:	灰	—	肥前系	1800~	内直・外 直	
126	4階190 一	4号溝状遺物	磁器	Y-4 平縁、 取付部	(18.4)	1.8	4.0	61.95	輪轉	内: 外:	灰	—	肥前系	1800~		
127	3階1	3号井戸	磁器	Y-4 平縁、 取付部	(9.8)	1.9	(4.0)	49.92	輪轉	内: 外:	灰	—	肥前系	1800~		
128	3階1	3号井戸	磁器	Y-4 平縁、 取付部	(10.6)	2.2	(4.0)	32.67	輪轉	内: 外:	灰	—	肥前系	1800~		
129	1階一	1号溝状遺物	磁器	Y-4 平縁、 取付部	(9.0)	2.1	(6.0)	47.80	輪轉	内: 外:	灰	—	肥前系	1800~		
130	3階1	3号井戸	小瓶	Y-4 平縁、 取付部	(6.9)	(2.7)	—	12.87	輪轉	内: 外:	黄白	—	瀬戸・ 美濃系	1800~		

Ⅱ-15 遺物一覽表(陶器)②

国庫 番号	遺物番号	出土地点	器種	形状特徴	口径[m]		底径	重量 (g)	成形	裝飾技法		胎土	厚さ	製作 年代	備考
					口	底				刷付・刷痕	文様				
131	5B22	5号塚 遺物	小鉢	V 刷形部		[4.9]	(5.4)	73.49	轆轤 刷り	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	
132	6B3	8号塚 遺物	大鉢	8-1 丸形 8-2 丸形 8-3 丸形	(20.0)	11.7	(13.0)	1044.00	轆轤 刷り 丸形刷り	白刷 刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1600~ 1700
133	4B132	4号塚 遺物	煎茶鉢	IV 口縁部 有 2 筋	(10.0)	[7.6]		149.00	轆轤	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1500~
134	4B108	4号塚 遺物	燗鉢	Ⅲ 口縁部 口縁部有				115.00	轆轤	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1500~
135	4号井 一組	4号井	鉢	I 玉縁部		[4.3]	(9.1)	144.00	轆轤 刷り 丸形刷り	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1850~ 1900
136	6B3	4号塚 遺物	燗鉢	Ⅲ 口縁部	(27.8)	12.6	12.2	985.00	轆轤 刷り 丸形刷り	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1800~
137	4号井 一組	4号井	大入	I 口縁部 丸形	(24.0)	[6.1]		100.27	轆轤	白刷 刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1800~
138	4号井 一組	4号井	大入	I 口縁部 丸形	[4.8]	(18.0)		161.00	轆轤	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1800~
139	6-30 6-30	香炉	I 香三足 香炉		[3.3]	(8.0)		110.00	轆轤 貼付	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	
140	4B643	4号塚 遺物	香炉	Ⅲ 香三足 香炉	(16.3)	[6.2]		49.43	轆轤	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1800~
141	111-284	4号塚 遺物	大鉢	Ⅲ 口縁部		[5.5]		35.93	轆轤	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	
142	4B258	4号塚 遺物	煎茶鉢	I 口縁部	(4.2)	2.6	(5.1)	17.32	轆轤 刷付	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1750~ 1800
143	118-172	4号塚 遺物	小鉢	I 口縁部	(16.0)	2.7	(6.3)	133.00	刷付	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1800~
144	138-133	4号塚 遺物	中鉢	V 口縁部	(22.0)	[15.2]		162.90	刷付	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1800~
145	4B122	4号塚 遺物	中鉢	IV 口縁部	(26.9)	[4.3]		51.81	刷付	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	
146	2石11	2号塚 遺物	大鉢	I 口縁部		[5.7]		38.13	轆轤	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	
147	4B356	4号塚 遺物	小鉢	Ⅲ 口縁部		[8.5]		62.06	轆轤	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1800~
148	4B148	4号塚 遺物	小鉢	Ⅲ 口縁部		[9.1]	(5.4)	77.05	轆轤 刷付	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1800~
149	185-187	4号塚 遺物	小鉢	Ⅲ 口縁部	(3.2)	[6.8]		24.16	刷付	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	
150	185-188	4号塚 遺物	中鉢	Ⅲ 口縁部	(2.4)	[12.2]		235.00	刷付	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1780~
151	4B393	4号塚 遺物	中鉢	Ⅲ 口縁部	[8.3]	(5.1)		93.48	刷付	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1780~
152	4B409	4号塚 遺物	中鉢	Ⅲ 口縁部	[6.7]	6.5		148.00	刷付	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1780~
153	185-189	4号塚 遺物	煎茶鉢	Ⅲ 口縁部	[13.0]			43.27	轆轤	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1800~
154	185-190	4号塚 遺物	煎茶鉢	Ⅲ 口縁部	[12.5]	6.3		92.97	轆轤	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1800~
155	185-191	4号塚 遺物	煎茶鉢	Ⅲ 口縁部	[5.1]	4.4		70.25	轆轤 刷付	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1800~
156	4B183	4号塚 遺物	土瓶	V 刷形部	(7.0)	[7.2]		45.33	轆轤 貼付	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	
157	4B176	4号塚 遺物	土瓶	I 丸形	(6.1)	[4.1]		12.71	轆轤	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1800~
158	4B176	4号塚 遺物	土瓶	I 丸形	(6.1)	[4.2]		16.06	轆轤	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1800~
159	4B185-184	4号塚 遺物	土瓶	I 丸形	(10.0)	[8.7]		60.15	轆轤 貼付	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1800~
160	4B185-187	4号塚 遺物	土瓶	Ⅲ 丸形	4.9	9.0	5.2	134.00	轆轤 貼付	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1800~
161	4B185-188	4号塚 遺物	土瓶	I 丸形	(8.0)	[11.6]		264.40	轆轤 貼付	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1800~
162	4B185-189	4号塚 遺物	土瓶	I 丸形	(6.3)	10.2	(5.7)	300.00	轆轤 貼付	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1800~
163	4B231-01	4号塚 遺物	土瓶	I 丸形	(7.7)	[12.4]	(8.2)	200.00	轆轤 貼付	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1800~
164	4B231-02	4号塚 遺物	土瓶	Ⅲ 丸形	15.2	[5.6]		27.50	轆轤 貼付	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1800~
165	4B177-124	4号塚 遺物	土瓶	Ⅲ 丸形	(14.0)	[5.6]		53.11	轆轤 貼付	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1800~
166	4B131-120	4号塚 遺物	土瓶	Ⅲ 丸形	(16.0)	[5.7]		93.34	轆轤 貼付	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1800~
167	4B185	4号塚 遺物	土瓶	Ⅲ 丸形	(19.0)	[7.1]		90.93	轆轤 貼付	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1800~
168	4B185-186	4号塚 遺物	土瓶	Ⅲ 丸形	(19.2)	[6.4]		72.29	轆轤 貼付	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1800~
169	4B185-187	4号塚 遺物	土瓶	Ⅲ 丸形	(14.6)	7.4	(5.7)	227.00	轆轤 貼付	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1800~
170	4B185	4号塚 遺物	土瓶	Ⅲ 丸形	(12.0)	[6.1]		54.20	轆轤 貼付	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1800~
171	4B128	4号塚 遺物	燗鉢	Ⅲ 口縁部	5.6	6.1	4.8	97.10	轆轤 貼付	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1800~
172	7号塚	4号塚 遺物	燗鉢	Ⅲ 口縁部	3.7	4.3	3.6	22.47	轆轤 貼付	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1800~
173	4B144	4号塚 遺物	燗鉢	Ⅲ 口縁部	4.7	3.6	4.4	77.80	轆轤 貼付	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1800~
174	3号井 一組	4号塚 遺物	燗鉢	Ⅲ 口縁部	(8.1)	1.6	(3.6)	15.33	轆轤 貼付	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1800~
175	4B185-186	4号塚 遺物	燗鉢	Ⅲ 口縁部	(10.0)	[2.2]		28.90	轆轤	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1800~
176	4B189	4号塚 遺物	燗鉢	Ⅲ 口縁部	[4.2]	4.9		66.36	轆轤 貼付	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1800~
177	4B145	4号塚 遺物	燗鉢	Ⅲ 口縁部	4.9	1.3		16.27	轆轤 貼付	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1800~
178	4B356	4号塚 遺物	土瓶	Ⅲ 丸形	6.1	1.6		30.83	轆轤 貼付	刷付	内: 外:	灰		瀬戸・ 美濃系	1800~

Ⅲ-16 遺物一覽表 (陶器) ③

編号	発掘番号	出土地点	器種	形状特徴	口径(内径)×底径(底径)		重量(g)	成形	裝飾技法		土色	厚さ	製作	備考
					口径	底径			輪付・釉薬	文様				
179	4Ⅱ-232	4号溝状遺構	土瓶	山蓋	8.1	3.1	48.25	轆轤 貼付	白泥? 線繪	無文様	内: 外:	黄白	—	江戸中~
180	4Ⅱ-226	4号溝状遺構	土瓶	山蓋	8.3	2.5	48.71	轆轤 貼付	鉄繪 線繪 白泥 透刷	丸襷内: 外:五弁花状文	黄	—	江戸中~	
181	4Ⅱ-2-141	4号溝状遺構	土瓶	山蓋	12.0	(2.9)	145.00	轆轤 貼付	鉄繪	丸襷内: 外:青唐草文、文文、7文	黄白	—	江戸中~	
182	4Ⅱ-27	4号溝状遺構	行灯	楕圓形	(16.0)	[4.0]	15.02	轆轤	鉄繪	無文様	黄	—	江戸中~	

Ⅲ-17 遺物一覽表 (磁器)

編号	発掘番号	出土地点	器種	形状特徴	口径(内径)×底径(底径)		重量(g)	成形	裝飾技法		土色	厚さ	製作	備考
					口径	底径			輪付・釉薬	文様				
183	4Ⅱ-265	4号溝状遺構	小皿	IV-A 平部無高台 菊花	(8.6)	1.3 (4.4)	3.90	壓作り	鉄泥	留付内: 外:海老文	灰	—	備前系 1800~ 1845~1910	
184	4Ⅱ-315	4号溝状遺構	小皿	IV-A 平部無高台 菊花	(9.9)		6.43	壓作り	鉄泥	留付内: 外:海老文	灰	—	備前系 1800~ 1845~1910	
185	7Ⅱ-2	7号溝状遺構	楕圓鉢	III-A 縁部三角状の凹み×6	(32.6)	(8.3)	188.00	轆轤	内彫墨目	内:見込墨目 外:	赤褐色	—	備前系 1800~	
186	4Ⅱ-64-51	4号溝状遺構	楕圓鉢	III-A 縁部三角状の凹み×6	(31.3)	(14.0)	146.00	轆轤	内彫墨目	内:見込墨目三角状? 外:	赤褐色	—	備前系 1800~	

Ⅲ-18 遺物一覽表 (土器) ①

編号	発掘番号	出土地点	器種	形状特徴	口径(内径)×底径(底径)		重量(g)	成形	胎質	土色	製作		備考
					口径	底径					厚さ	年代	
187	4Ⅱ-190	4号溝状遺構	かわらけ 小皿	IV-A 轆轤成形、見込平部、底文	4.4	1.1	3.4	15.53	轆轤	底左彫糸未切り	土質質	褐	在地系
188	5Ⅱ-7	5号溝状遺構	かわらけ 小皿	IV-A 轆轤成形、見込平部、底文	4.8	0.9	3.3	15.83	轆轤	底跡止糸切り	土質質	赤褐色	在地系
189	5Ⅱ-8	5号溝状遺構	かわらけ 小皿	IV-A 轆轤成形、見込平部、底文	5.5	1.2	3.8	25.55	轆轤	底跡止糸切り	土質質	褐	在地系
190	3Ⅱ-1一括	3号井戸	かわらけ 小皿	IV-A 轆轤成形、見込平部、底文	(5.8)	1.0 (4.0)	15.96	轆轤	底跡止糸切り	土質質	褐	在地系	
191	3Ⅱ-1一括	3号井戸	かわらけ 小皿	IV-A 轆轤成形、見込平部、底文	(6.6)	1.4 (4.0)	23.79	轆轤	底跡止糸切り	土質質	褐	在地系	
192	3Ⅱ-1一括	3号井戸	かわらけ 小皿	IV-A 轆轤成形、見込平部、底文	7.0	0.9	4.9	41.49	轆轤	底右彫糸未切り	土質質	褐	在地系
193	2Ⅱ-1一括	2号井戸	かわらけ 小皿	IV-A 轆轤成形、見込平部、底文	(9.0)	2.2	6.0	61.65	轆轤	底左彫糸未切り	土質質	黄褐色	在地系
194	3Ⅱ-1一括	3号井戸	かわらけ 小皿	IV-A 轆轤成形、見込平部、底文	10.5	2.2	8.0	149.00	轆轤	底右彫糸未切り	土質質	褐	在地系
195	3Ⅱ-1一括	3号井戸	かわらけ 小皿	IV-A 轆轤成形、見込平部、底文	(9.8)	2.1 (7.0)	68.00	轆轤	底右彫糸未切り	土質質	褐	在地系	
196	4Ⅱ-422	4号溝状遺構	かわらけ 小皿	IV-A 轆轤成形、見込平部、底文	9.3	1.7 (7.0)	83.71	轆轤	底左彫糸未切り	土質質	赤褐色	在地系	
197	4Ⅱ-422	4号溝状遺構	かわらけ 小皿	IV-A 轆轤成形、見込平部、底文	(10.0)	1.9 (6.2)	62.85	轆轤	底右彫糸未切り	土質質	赤褐色	在地系	
198	3Ⅱ-1一括	3号井戸	かわらけ 小皿	IV-A 轆轤成形、見込平部、底文	(10.4)	1.6 (6.7)	14.38	轆轤	底右彫糸未切り	土質質	黄褐色	江戸? 180~幕末	
199	G-6-筋	G-6	かわらけ 小皿	IV-A 轆轤成形、見込平部、底文	(10.0)	2.2	38.80	轆轤	底跡止糸切り	土質質	赤褐色	在地系	
200	F-8-一括	F-8	かわらけ 小皿	IV-A 轆轤成形、見込平部、底文	12.6	2.8	6.0	144.00	轆轤	底右彫糸未切り	土質質	赤褐色	在地系
201	3Ⅱ-1一括、 F-8-一括	3号井戸、 F-8	かわらけ 小皿	IV-A 轆轤成形、見込平部、底文	(13.2)	2.4	7.4	83.67	轆轤	底右彫糸未切り	土質質	赤褐色	在地系
202	G-6-一括、 G-6-一括	G-6 G-6	かわらけ 小皿	IV-A 轆轤成形、見込平部、底文	(12.4)	3.2	6.8	51.73	轆轤	底跡止糸切り	土質質	赤褐色	江戸? 1700~
203	3Ⅱ-1一括	3号井戸	かわらけ 小皿	IV-A 轆轤成形、見込平部、底文	[1.8]	(6.0)	60.05	轆轤	底右彫糸未切り	土質質	赤褐色	在地系	
204	H-7-G-一括	H-7G	灯明皿	Ⅲ-A 平部彫線、内側上より口縁、内側上より口縁	9.2	2.4	5.0	124.00	轆轤	底跡止糸切り	土質質	赤褐色	在地系
205	5Ⅱ-8	5号溝状遺構	灯明皿	Ⅲ-A 平部彫線、内側上より口縁、内側上より口縁	9.7	2.1	5.0	81.68	轆轤	底跡止糸切り	土質質	褐	在地系
206	3Ⅱ-1一括	3号井戸	灯明皿	Ⅲ-A 平部彫線、内側上より口縁、内側上より口縁	(10.0)	2.1 (6.8)	12.85	轆轤	底右彫糸未切り	土質質	灰黄色	在地系	
207	4Ⅱ-351	4号溝状遺構	焼皿	Ⅲ-A 平部彫線、内側上より口縁、内側上より口縁	7.6	0.7	(4.8)	339.00	板作り		土質質	黄褐色	泉州 1716~1733
208	G-6-一括	G-6	焼皿	Ⅲ-A 平部彫線、内側上より口縁、内側上より口縁	(7.0)	0.3	6.2	236.00	板作り		土質質	黄褐色	泉州 1716~1733
209	3Ⅱ-1一括	3号井戸	焼皿	Ⅲ-A 平部彫線、内側上より口縁、内側上より口縁	(8.0)	[5.6]	6.0	200.00	板作り		土質質	黄褐色	泉州? 1716~1733
210	4Ⅱ-451	4号溝状遺構	焼皿	Ⅲ-A 平部彫線、内側上より口縁、内側上より口縁	6.0	5.5	3.8	68.00	轆轤	底左彫糸未切り	土質質	黄褐色	— 1800~
211	4Ⅱ-218	4号溝状遺構	焼皿	Ⅲ-A 平部彫線、内側上より口縁、内側上より口縁	6.5	5.0	4.6	57.00	轆轤	底跡止糸切り	土質質	黄褐色	— 1800~
212	4Ⅱ-331-339	4号溝状遺構	焼皿	Ⅲ-A 平部彫線、内側上より口縁、内側上より口縁	6.1	4.5 (4.1)	35.00	轆轤	底跡止糸切り	土質質	黄褐色	— 1800~	
213	4Ⅱ-281-459	4号溝状遺構	焼皿	Ⅲ-A 平部彫線、内側上より口縁、内側上より口縁	(6.2)	(4.0)	39.00	轆轤	底跡止糸切り	土質質	黄褐色	— 1800~	
214	4Ⅱ-167	4号溝状遺構	火鉢	Ⅲ-A 口縁内彫線	[7.2]		165.00	轆轤		土質質	黄褐色	在地系	
215	4Ⅱ-115- 115-147	4号溝状遺構	火鉢	Ⅲ-A 丸形	17.0	9.3	15.6	992.00	轆轤	三足彫付	土質質	褐	在地系
216	6Ⅱ-1一括	6号井戸	火鉢	Ⅲ-A 丸形	[2.3]	(9.2)	47.76	轆轤	三足彫付	土質質	赤褐色	在地系	
217	3Ⅱ-1一括	3号井戸	火鉢	Ⅲ-A 丸形	[10.0]		158.00	板作り	西尾彫付	瓦質	灰	在地系	
218	4Ⅱ-60-106- 229	4号溝状遺構	火鉢	Ⅲ-A 丸形	[2.0]	(7.0)	97.45	板作り		瓦質	灰	在地系	
219	4Ⅱ-179- 179-247	4号溝状遺構	土瓶	Ⅲ-A 胴部彫線、内側上より口縁、内側上より口縁	20.4		512.00	外タタラ ミガキ		土質質	灰	在地系	
220	4Ⅱ-277	4号溝状遺構	土瓶	Ⅲ-A 胴部彫線、内側上より口縁、内側上より口縁	[10.0]		339.00	外タタラ ミガキ		瓦質	灰	在地系	
221	1-90-一括	4号溝状遺構	土瓶	Ⅲ-A 胴部彫線、内側上より口縁、内側上より口縁	[12.2]		339.00	外タタラ ミガキ		瓦質	灰	在地系	
222	4Ⅱ-76-137	4号溝状遺構	土瓶	Ⅲ-A 胴部彫線、内側上より口縁、内側上より口縁	[18.2]		247.00	轆轤		土質質	灰	在地系	
223	4Ⅱ-201	4号溝状遺構	土瓶	Ⅲ-A 胴部彫線、内側上より口縁、内側上より口縁	1.4	0.8	80.99	轆轤		土質質	褐	在地系	
224	7Ⅱ-100	4号溝状遺構	土瓶	Ⅲ-A 胴部彫線、内側上より口縁、内側上より口縁	(39.8)	(2.3)	125.00	板作り		土質質	赤褐色	在地系	
225	4Ⅱ-370	4号溝状遺構	土瓶	Ⅲ-A 胴部彫線、内側上より口縁、内側上より口縁	23.8		73.80	板作り		土質質	赤褐色	在地系	
226	4Ⅱ-225	4号溝状遺構	土瓶	Ⅲ-A 胴部彫線、内側上より口縁、内側上より口縁	(22.5)	(4.0)	33.14	轆轤	ミガキ	瓦質	灰	在地系	
227	4Ⅱ-58	4号溝状遺構	土瓶	Ⅲ-A 胴部彫線、内側上より口縁、内側上より口縁			102.70	轆轤		土質質	褐	在地系	

III-19 遺物一覽表(土器)②

図号	登録番号	出土地点	種別	形状特徴	法量(cm)【現存値】(推定値)			重量(g)	成形	胎質	土色	製作		備考
					口径	高さ	底径					産地	年代	
228	4楕43	4号楕状遺物	中楕				111.00		土師質	褐色	在地系	近世	水原藩 御用土器	
229	4楕21	4号楕状遺物	土楕	1 羽釜形?			17.27		瓦質	灰	在地系	近世	水原藩 御用土器	
230	4楕130	4号楕状遺物	土楕	1 羽釜形?			16.59		瓦質	灰	在地系	近世	水原藩 御用土器	
231	3井戸一括	3号井戸	燈籠	1-A 有耳・底平楕・ 底の耳が内傾	(30.4)	6.0	(26.7)	220.00	輪轆		在地系	19C中葉~ 後葉		
232	3井戸一括	3号井戸	燈籠	1-A 有耳・底平楕・ 底の耳が内傾	(32.0)	7.0	(27.8)	130.00	輪轆		在地系	19C中葉~ 後葉	高松藩 御用土器	
233	5井戸1	5号井戸	燈籠	1-A 有耳・底平楕・ 底の耳が内傾	(32.4)	5.5	(26.0)	90.22	輪轆		在地系	19C中葉~ 後葉		
234	5井戸5	5号楕状遺物	燈籠	1-A 有耳・底平楕・ 底の耳が内傾	(28.4)	6.4	(24.4)	248.00	輪轆		在地系	19C中葉~ 後葉		
235	4楕55-154- 253-353	4号楕状遺物	燈籠	耳有耳・底平楕・ 底の	(29.3)	4.2	(26.8)	242.00	輪轆		在地系	19C中葉~ 後葉		
236	4楕270	4号楕状遺物	燈籠				48.55	穿孔口・底あり	土師質	灰	在地系	近世		
237	3井戸一括	3号井戸	焼倉敷蓋	口受無	(流.7)	2.3	8.2	116.00	板作り	内有耳	在地系	1700~1780		
238	4楕261- 6十一括	4号楕状遺物- 6号土器	焼倉敷蓋	口受無			(0.7)	11.64	板作り		在地系	1800~	神印?	
239	A区一括	A区	磁片				186.00	輪轆	土師質	褐色	在地系		見込額 目録	

III-20 遺物一覽表(土製品)

図号	登録番号	出土地点	種別	形状・ナマ	法量(cm)【現存値】(推定値)			重量(g)	裝飾技法			胎質	土色	製作		備考
					口径	高さ	底径		施し	軸筋	文様			製作地	製作年代	
240	4楕322	4号楕状遺物	笛	短筒	長(3.1)	幅(1.7)	厚(2.1)	6.90	上下型合	透明釉		土師質	緑	-	19C	
241	4楕82	4号楕状遺物	短筒?	底? 筋?	5.7	4.5	0.7	11.25		透明釉		土師質	赤褐色	在地系	19C	水原藩 御用土器
242	4楕394	4号楕状遺物	短筒?	筋?	[1.6]		1.21	強押			内:見込額目録 外:富田郡文書 所蔵書	土師質	褐色	-		
243	4楕304	4号楕状遺物	短筒?	水注?	[1.8]		1.32	強押			外:亀甲雲文	土師質	灰	見込額?		
244	4楕232	4号楕状遺物	短筒?	水注?	[6.8]		2.6	5.16	透明釉			土師質	灰白	-		
245	4楕105- 312-441	4号楕状遺物	土器	耳 鼻 筒	(2.7)	3.6	(2.8)	36.65	輪轆 貼 刷	緑釉 刷	刷下無 刷	陶質	灰	-	19C	
246	4楕382	4号楕状遺物	土器	十指			8.27	上下型合 合	透明釉			土師質	褐色	-	19C	
247	4楕253	4号楕状遺物	土器	1-A 丸形 三・楕状瓦片	7.0	2.6	2.6	28.88	輪轆 貼 刷	刷	刷下無 刷	陶質	灰	-	19C	
248	4楕52	4号楕状遺物	土器	1-A 丸形 三・楕状瓦片	(7.0)	2.9	(2.8)	28.82	輪轆 貼 刷	刷	刷下無 刷	陶質	灰	-	19C	
249	4楕22- 312-441	4号楕状遺物	土器	行平	(8.0)	4.1	3.8	55.40	輪轆 貼 刷	刷	刷下無 刷	土師質	褐色	19C	内:見込額 目録	
250	4楕145	4号楕状遺物	土器	山蓋	3.2	0.9	7.14	手捏	刷	刷	外:把手部粉花 状文	土師質	灰白	-	19C	
251	3井戸一括	2号井戸	磁器	南無二乘殿の 鉢	2.1	幅1.2	厚0.2	1.10				土師質	褐色	-	18世紀	

III-21 遺物一覽表(瓦)

図号	登録番号	出土地点	種別	分期	法量(cm)【現存値】(推定値)				重量(g)	文様	胎土	備考			
					全長	全幅	厚さ	瓦縁高さ							
252	3井戸一括	3号井戸	瓦瓦	軒瓦瓦	(2.0)		(7.4)	(5.3)	2.6	270	左巻三巴				
253	3井戸一括	3号井戸	瓦瓦	軒瓦瓦	(1.4)		(4.0)	(2.9)	2.3	142	右巻三巴				
軒瓦瓦															
図号	登録番号	出土地点	種別	分期	法量(cm)【現存値】(推定値)				重量(g)	文様	胎土	備考			
					全長	全幅	厚さ	瓦縁高さ							
254	7楕30	7号楕状遺物	椽瓦	軒椽瓦	(3.2)	[11.4]	7.6	5.5	0.9	1.7	[1.9]	[4.3]	242	左巻三巴 透理13	
255	7楕一括	7号楕状遺物	椽瓦	軒椽瓦	(2.2)	[7.7]	[6.4]	[4.2]	1.2				98	左巻三巴	金富御少 左巻三巴
256	7楕23	7号楕状遺物	椽瓦	軒椽瓦	(2.4)	[8.1]	8.1		2.0				181	なし	
257	7楕29	7号楕状遺物	椽瓦	軒椽瓦	[92.6]	[7.8]	7.4	5.7	1.0	1.5			282	右巻三巴 透理13	
丸瓦															
図号	登録番号	出土地点	種別	分期	法量(cm)【現存値】(推定値)				重量(g)	文様	胎土	備考			
					全長	全幅	厚さ	瓦縁高さ							
258	3井戸一括	3号井戸	丸瓦	丸瓦	[10.0]	[8.2]	(2.1)		(7.3)	210	金富御少	裏面布目織			
259	6井戸一括	6号井戸	丸瓦	丸瓦	[21.8]		16.2	1.9	4.3	990		裏面布目織			
260	6井戸一括	6号井戸	丸瓦	丸瓦	[15.3]	[11.2]		2.0		8.0	490		裏面布目織		
平瓦															
図号	登録番号	出土地点	種別	分期	法量(cm)【現存値】(推定値)				重量(g)	文様	胎土	備考			
					全長	全幅	厚さ	瓦縁高さ							
261	3井戸一括	3号井戸	平瓦	平瓦	(8.0)		(9.1)		1.9	140					
262	3井戸一括	3号井戸	平瓦	平瓦	(8.3)		(12.3)		1.9	226					
263	4楕171	4号楕状遺物	平瓦	平瓦	(15.2)		(16.8)		1.4	530					
破瓦															
図号	登録番号	出土地点	種別	分期	法量(cm)【現存値】(推定値)				重量(g)	文様	胎土	備考			
					全長	全幅	厚さ	瓦縁高さ							
264	7楕一括	7号楕状遺物	椽瓦	3-2割瓦	(7.8)				11.4	606	左巻三巴				

III-22 遺物一覽表(石製品)

図号	登録番号	出土地点	種別	形状特徴	法量(cm)【現存値】(推定値)			重量(g)	石質	胎土	備考
					長	幅	厚				
265	4楕436	4号楕状遺物	磁	長方形	14.0	8.0	2.0	156.00	粘板岩	灰	庄屋土師製
266	4楕73-361	4号楕状遺物	磁	磁の蓋?	(7.3)	(7.0)	(2.9)	47.31	砂岩	灰	庄屋土師製
267	4楕226	4号楕状遺物	磁石	1方所納みあり	8.7	7.6	4.5	388.00	安山岩		

III-23 遺物一覧表 (木製品) ①

図号	発掘番号	出土地点	種類 (大分類)	部名 (小分類)	部分数	寸法 (cm) [容積 (ml) (推定)]			発掘調査 分類番号	備考
						長さ	最大幅	最大厚		
268	3号井一底	3号井底	漆器	椀			縁高(1.5)		33-A・33-B	
269	3号井一底	3号井底	漆器	椀			縁高(2.4)		34	
270	3号井一底	3号井底	漆器	椀		口径(10.8)	縁高(5.4)	底径(3.7)	35	
271	3号井一底	3号井底	漆・容器	杓		4.9	5.7	4.9	36	
272	3号井一底	3号井底	漆器	曲物						
273	2号井3段目一底	2号井3段目	漆器	蓋		17.0	16.9	1.3	38	
274	3号井一底	3号井底	漆器	椀		18.0	4.9	0.7	40	219-278(1)製品か?
276	3号井一底	3号井底	漆器	椀		[20.9]	[4.1]	0.6		
276	3号井一底	3号井底	漆器	椀		[20.7]	5.6	0.6		
277	3号井一底	3号井底	漆器	椀		16.9	4.1	1.0	41	
278	3号井一底	3号井底	漆器	?		10.7	3.4	1.9		
279	3号井3段目一底	2号井3段目	漆器	椀		[24.3]		1.5		
280	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	丸	24.4	0.6	0.7	31-A	
282	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	丸	24.9	0.7	0.7		
283	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	丸	23.2	0.6	0.6		
284	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	丸	22.1	0.7	0.6		
285	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	丸	20.6	0.7	0.6		
286	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	丸	[17.4]	0.6	0.7		
287	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	丸	24.1	0.7	0.7		
288	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	丸	23.8	0.7	0.7		
289	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	四角	22.2	0.7	0.5	31-B	
290	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	四角	22.0	0.6	0.5		
291	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	四角	22.0	0.5	0.5		
292	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	四角	22.0	0.6	0.5		
293	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	四角	21.9	0.6	0.4		
294	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	四角	22.0	0.6	0.5		
295	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	四角	22.0	0.6	0.4		
296	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	四角	22.0	0.5	0.5		
297	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	四角	22.0	0.5	0.5		
298	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	四角	22.1	0.6	0.6		
299	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	四角	22.0	0.6	0.6		
300	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	四角	21.8	0.5	0.5		
301	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	四角	21.9	0.6	0.6		
302	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	多角(丸)	20.8	0.6	0.6	31-C	
303	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	多角(丸)	20.6	0.7	0.5		
304	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	多角(丸)	20.8	0.6	0.6		
305	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	多角(丸)	20.7	0.6	0.6		
306	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	多角(丸)	20.6	0.6	0.6		
307	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	多角(丸)	20.9	0.6	0.6		
308	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	多角(丸)	20.6	0.6	0.6		
309	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	多角(丸)	20.4	0.7	0.6		
310	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	多角(丸)	20.7	0.5	0.7		
311	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	多角(丸)	20.8	0.6	0.6		
312	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	多角(丸)	20.2	0.7	0.6		
313	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	多角(丸)	16.1	0.6	0.6		
314	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	多角(丸)	20.2	0.7	0.6		先堀加工
316	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	多角(丸)	18.9	0.5	0.5		先堀加工
316	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	多角(丸)	20.6	0.7	0.6		
317	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	多角(丸)	20.6	0.6	0.6		
318	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	多角(平)	20.9	0.6	0.6	31-C	
319	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	多角(平)	20.8	0.7	0.6		
320	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	多角(平)	20.9	0.6	0.6		
321	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	多角(平)	20.7	0.6	0.6		
322	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	多角(平)	20.7	0.7	0.6		
323	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	多角(平)	20.9	0.6	0.6		
324	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	多角(平)	21.0	0.6	0.6		
325	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	多角(平)	20.7	0.6	0.6		
326	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	多角(平)	20.2	0.6	0.6		
327	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	多角(平)	20.7	0.6	0.6		
328	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	多角(平)	20.9	0.7	0.6		
329	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	多角(平)	20.7	0.7	0.5		
330	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	多角(平)	20.7	0.7	0.6		
331	2号井3段目一底	2号井3段目	食器皿	箸	多角(丸)	[12.0]	0.6	0.6		掘成痕
332	2号井4段目一底	2号井4段目	食器皿	箸	多角(丸)	[14.0]	0.5	0.7		掘成痕
333	2号井5段目一底	2号井5段目	食器皿	箸	多角(平)	[2.7]	0.6	0.5		掘成痕
334	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	多角(丸)	20.4	0.7	0.6		掘成痕
335	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	多角(丸)	20.6	0.6	0.6		掘成痕
336	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	多角(平)	20.7	0.7	0.4		掘成痕
337	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	多角(丸)	20.8	0.4	0.5		掘成痕
338	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	多角(丸)	20.8	0.6	0.6		掘成痕
339	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	多角(丸)	[13.5]	0.6	0.6		掘成痕
340	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	丸	[10.6]	0.8	0.7		掘成痕
341	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	25.1	12.3	1.0	44	跡部	
342	6号井一底	6号井底	食器皿	箸	33.5	4.6	1.7	85	跡部	
343	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	33.4	4.7	2.0	42	跡部	
344	3号井一底	3号井底	食器皿	箸	[36.0]	3.4	1.9	48	跡の製品か?	
345	6号井一底	6号井底	食器皿	箸	29.1	4.1	2.0	80		
346	2号井5段目一底	2号井5段目	漆・容器	蓋	4.3	[4.0]	0.7	102		
347	3号井一底	3号井底	漆・容器	下駄	[24.5]	7.7	3.3	80		
347-1	3号井一底	3号井底	漆・容器	下駄	13.3	7.7	3.3	10-B		

Ⅲ-24 遺物一覧表 (木製品) ②

遺物番号	発祥番号	出土地点	類別 (木/分)	形状 (小/分)	細分類	寸法 (mm) (保存形) (測定値)			整理測定 分析番号	備考
						長さ	最大径	最大厚		
347-2	3井戸一括	3号井戸	灰・管筋	下駄		(15.6)	7.5	3.1	19-A	
348	3井戸一括	3号井戸	灰・管筋	下駄		(25.0)	6.7	3.0		
348-1	3井戸一括	3号井戸	灰・管筋	下駄		12.7	6.7	3.6	19-D	
348-2	3井戸一括	3号井戸	灰・管筋	下駄		(13.3)	(5.3)	(2.7)	19-C	
349-2	2井戸5段目一括	2号井戸5段目	管筋	柄杓		食物6.6	食物6.6	食物6.6	37	食物
360	2井戸一括	2号井戸	管筋	柄杓?		(14.7)	3.2	3.4		
351	2井戸5段目一括	2号井戸5段目	管筋	柄杓?		28.5	3.8	3.3	30	
352	3井戸一括	3号井戸	管筋	柄杓		37.6	(18.3)	1.6	56	船板・底板
353	3井戸一括	3号井戸	管筋	柄杓		8.2	4.4	4.3	22-B	
354	3井戸一括	3号井戸	管筋	柄杓		7.2	4.6	5.1		
355	2井戸5段目一括	2号井戸5段目	管筋	柄杓		(27.6)	(21.1)	柄(1.8) 底(2.4)	29・27	船板・底板
356	2井戸5段目一括	2号井戸5段目	管筋	柄杓		28.9	(23.1)	柄 2.7 底(2.4)	28・26	船板・底板
357	2井戸一括	2号井戸	管筋	柄杓		45.0	(45.3)	2.2	23	
358	3井戸一括	3号井戸	管筋	柄杓		32.0	(15.2)	2.0	22-A	
359	3井戸一括	3号井戸	管筋	柄杓		27.6	38.2	1.7	24	
360	3井戸一括	3号井戸	管筋	柄杓		14.6	(11.7)	1.0	21	
361	3井戸一括	3号井戸	管筋	柄杓		(18.5)	8.4	1.1		
362	3井戸一括	3号井戸	管筋	柄杓		(20.5)	(6.4)	1.1		
363	3井戸一括	3号井戸	管筋	柄杓		30.4	(6.1)	1.1		
364	3井戸一括	3号井戸	管筋	柄杓		29.1	9.1	3.1	22-C	
365	6井戸一括	6号井戸	管筋	柄杓		(31.4)	(5.5)	1.1	86	
366	3井戸一括	3号井戸	管筋	柄杓		22.8	5.9	1.5		
367	3井戸一括	3号井戸	管筋	柄杓		(27.0)	6.3	1.1		
368	3井戸一括	3号井戸	管筋	柄杓		31.3	11.9	1.5	25-A	
369	3井戸一括	3号井戸	管筋	柄杓		28.7	(4.5)	1.4		
370	1井戸一括	1号井戸	管筋	曲物		(12.4)	(12.4)	0.8		
371	3井戸一括	3号井戸	管筋	曲物		14.9	(4.5)	0.3	89	
372	3井戸一括	3号井戸	管筋	曲物		15.4	(8.5)	0.5		
373	2井戸5段目一括	2号井戸5段目	管筋	曲物		28.3	8.0	0.3		
374	2井戸5段目一括	2号井戸5段目	管筋	曲物		21.7	4.9	0.3		
375	2井戸5段目一括	2号井戸5段目	管筋	曲物		28.2	3.3	0.3		
376	2井戸5段目一括	2号井戸5段目	管筋	曲物		(28.5)	2.4	0.4		
377	3井戸一括	3号井戸	管筋	曲物		40.0	3.0	0.5		
378	3井戸一括	3号井戸	管筋	曲物		(15.4)	(4.8)	0.3	43	
379	3井戸一括	3号井戸	管筋	曲物		(47.0)	7.4	0.5		
380	2井戸5段目一括	2号井戸5段目	管筋	曲物		(14.8)	(4.7)	0.2		
381	2井戸5段目一括	2号井戸5段目	管筋	曲物		23.0	4.4	0.3		
382	6井戸4段目一括	6号井戸4段目	管筋	曲物		26.7	4.8	0.3		
383	2井戸5段目一括	2号井戸5段目	管筋	曲物		28.8	(5.0)	0.5		
384	2井戸5段目一括	2号井戸5段目	管筋	曲物		(27.9)	(8.3)	0.3		
385	2井戸5段目一括	2号井戸5段目	管筋	曲物		(26.7)	7.5	0.4		
386	2井戸5段目一括	2号井戸5段目	管筋	曲物		(31.6)	4.0	0.3		
387	2井戸5段目一括	2号井戸5段目	管筋	曲物		(27.3)	(6.7)	0.2		
388	6井戸一括	6号井戸	管筋	曲物		(27.0)	0.8	0.2		
389	3井戸一括	3号井戸	磨鉢・磨盤			19.9	2.8	0.7		
390	3井戸一括	3号井戸	磨鉢・生槌			21.5	3.4	0.3	51	
391	3井戸一括	3号井戸	遊玩具	得兵衛餅		2.8	2.4	1.0		
392	3井戸一括	3号井戸	遊玩具	人形		5.6	1.4	1.9		備?
393	3井戸一括	3号井戸	遊玩具	人形		21.7	1.8	1.7	55	
394	3井戸一括	3号井戸	遊玩具	人形		6.0	1.7	1.4		備成成
395	3井戸一括	3号井戸	武器 刃物	刀輪		27.5	2.8	1.6	20	
396	6井戸一括	6号井戸	篋			23.7	3.8	1.9		
397	6井戸一括	6号井戸	篋			25.2	3.4	3.0	95	
398	2井戸一括	2号井戸	篋			14.7	2.6	2.2		
399	3井戸一括	3号井戸	篋			14.2	3.1	2.4		
400	3井戸一括	3号井戸	篋			14.8	2.8	2.5	52	
401	3井戸一括	3号井戸	篋			13.7	2.7	2.1	62	
402	3井戸一括	3号井戸	篋			14.5	2.8	2.5	81	
403	4井戸一括	4号井戸	篋			14.5	3.0	2.0		
404	6井戸一括	6号井戸	篋			(11.9)	2.0	2.1		
405	6井戸一括	6号井戸	篋			(10.0)	3.1	2.0	96	
406	3井戸一括	3号井戸	篋			7.9	1.6	1.8		
407	3井戸一括	3号井戸	篋			15.1	3.0	2.0	57	
408	3井戸一括	3号井戸	篋			12.9	2.0	1.2		
409	3井戸一括	3号井戸	篋			11.3	2.6	2.5		
410	2井戸一括	2号井戸	篋			16.0	2.9	1.8		
411	3井戸一括	3号井戸	篋			7.9	2.7	1.7		
412	3井戸一括	3号井戸	篋			11.6	0.8	1.5		
413	3井戸一括	3号井戸	篋			(8.9)	1.2	0.5		
414	3井戸一括	3号井戸	篋			8.4	3.5	2.1		
415	3井戸一括	3号井戸	篋			8.1	2.2	1.2		
416	3井戸一括	3号井戸	篋			7.4	(2.1)	1.3		
417	3井戸一括	3号井戸	篋			6.9	1.8	0.9		
418	3井戸一括	3号井戸	不明製品	木孔		(8.8)	(2.7)	0.5		文字あり
419	3井戸一括	3号井戸	不明製品			4.7	4.7	1.1		
420	3井戸一括	3号井戸	不明製品			5.9	(2.3)	0.5		
421	3井戸一括	3号井戸	不明製品			18.8	1.6	0.5		
422	3井戸一括	3号井戸	不明製品			(10.0)	1.2	0.4		備成成
423	3井戸一括	3号井戸	不明製品			(5.1)	1.7	0.3		備成成
424	2井戸4段目一括	2号井戸4段目	不明製品			(12.4)	1.0	0.9		

Ⅱ-25 遺物一覧表 (木製品) ③

遺物番号	登録番号	出土地点	種類	編年(小分類)	法尺(cm)(保存箱)(鑑定)			資料調査分析番号	備考
					長さ	最大径	最大厚		
425	2号尹一筋	2号尹尹	不明製品		15.5	1.1	0.9		
426	3号尹一筋	3号尹尹	不明製品		18.1	1.0	0.9		
427	3号尹一筋	3号尹尹	不明製品		16.0	2.0	1.3		
428	3号尹一筋	3号尹尹	不明製品		13.5	1.2	0.8		
429	3号尹一筋	3号尹尹	不明製品		11.5	7.5	0.5		
430	6号尹一筋	6号尹尹	不明製品		33.8	5.2	1.0		
431	3号尹一筋	3号尹尹	不明製品		18.6	9.4	1.4	46	
432	3号尹一筋	3号尹尹	不明製品		17.8	5.0	(0.9)	92	
433	3号尹一筋	3号尹尹	不明製品		17.8	5.4	1.2	50	
434	2号尹5段目一筋	2号尹尹5段目	不明製品		13.8	2.5	1.4		
435	4号尹一筋	4号尹尹	加工木		8.8	(1.5)	0.3		
436	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		5.9	2.8	1.8		
437	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		(6.8)	(2.5)	0.9		
438	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		(5.9)	(2.5)	0.9	54	
439	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		4.4	(2.7)	0.2		
440	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		(2.0)	5.0	2.2		
441	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		(15.7)	3.5	0.9		
442	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		14.1	3.2	1.1	53	
443	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		21.7	1.4	0.9		
444	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		(18.6)	5.0	2.9	75	
445	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		(24.7)	4.1	2.5	76	
446	2号尹3段目一筋	2号尹尹3段目	加工木		(14.4)	3.5	1.3		
447	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		(13.8)	3.0	1.9		繰成痕
448	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		50.5	2.6	2.1		繰成痕
449	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		49.4	3.4	1.9	74	
450	6号尹一筋	6号尹尹	加工木		43.0	6.1	5.8		
451	6号尹一筋	6号尹尹	加工木		35.5	6.0	5.7	88	
452	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		79.4	3.5	4.3		
453	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		60.0	3.5	2.8		
454	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		(25.3)	3.4	1.3		
455	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		(24.1)	1.7	0.6		
456	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		16.8	1.9	1.7		
457	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		14.6	3.5	0.9		
458	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		13.3	1.7	1.2	78	
459	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		11.6	1.6	1.1		
460	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		18.5	1.9	0.8	60	
461	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		(18.9)	1.8	0.9		
462	6号尹一筋	6号尹尹	加工木		(41.8)	3.4	2.8		
463	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		(31.4)	2.0	1.9		
464	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		28.3	3.5	2.7	47	繰成痕
465	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		(26.5)	3.4	3.9		
466	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		(22.2)	3.4	2.3	77	
467	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		20.7	2.8	2.6		
468	6号尹一筋	6号尹尹	加工木		(15.5)	3.3	3.4		
469	2号尹一筋	2号尹尹	加工木		(6.5)	3.7	0.8		
470	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		(33.9)	14.9	4.8	65・66	
471	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		9.5	7.6	0.2		
472	6号尹一筋	6号尹尹	加工木		(9.9)	(4.3)	0.9		
473	6号尹一筋	6号尹尹	加工木		9.8	3.0	0.8		
474	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		18.3	6.0	0.8	90	
475	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		(26.5)	(8.6)	0.5		
476	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		13.8	(2.9)	0.8		
477	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		11.8	5.3	1.2	84	
478	6号尹一筋	6号尹尹	加工木		14.6	8.8	1.9		
479	6号尹一筋	6号尹尹	加工木		(11.9)	8.8	2.2	94	
480	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		12.2	(10.3)	1.25		
481	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		22.3	14.8	1.1	45	
482	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		19.6	(11.2)	2.2		
483	2号尹5段目一筋	2号尹尹5段目	加工木		28.8	(13.0)	3.4		
484	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		33.5	(7.1)	0.8	68	
485	6号尹一筋	6号尹尹	加工木		37.6	5.7	6.9		
486	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		42.5	(9.1)	1.1		
487	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		(41.9)	(6.0)	0.8		
488	3号尹一筋	3号尹尹	加工木		56.0	12.0	0.8		
489	9溝一筋	9溝横状遺構	加工木		49.3	12.6	1.8		
490	6号尹一筋	6号尹尹	加工木		33.9	(6.0)	1.8		
491	6号尹一筋	6号尹尹	加工木		40.5	(8.5)	1.8	87	
492	2号尹5段目一筋	2号尹尹5段目	加工木		(27.2)	(9.1)	2.1		
493	6号尹一筋	6号尹尹	加工木		(74.1)	30.2	2.1	96	
494	6号尹槽内一筋	6号尹尹槽内	加工木		65.6	28.5	1.8	99	
495	2号尹一筋	2号尹尹	加工木		85.4	(21.7)	1.8	93	
496	2号尹5段目一筋	2号尹尹5段目	加工木		41.6	(12.0)	2.5		
497	6号尹一筋	6号尹尹	加工木		(26.7)	7.4	2.5		
498	6号尹一筋	6号尹尹	加工木		(21.6)	7.6	2.3		
499	5号尹一筋	5号尹尹	加工木		(59.5)	8.7	4.8		繰成痕
500	3号尹一筋	3号尹尹	加工木	木っ庵	4.8	5.6	10.1		
501	3号尹一筋	3号尹尹	加工木	木っ庵	9.0	4.1	2.4		
502	3号尹一筋	3号尹尹	加工木	木っ庵	5.1	4.9	3.2		
503	2号尹1段目一筋	2号尹尹1段目	加工木	木っ庵	4.5	6.4	1.9		
504	2号尹1段目一筋	2号尹尹1段目	加工木	木っ庵	3.2	3.3	3.9		
505	3号尹一筋	3号尹尹	加工木	木っ庵	5.3	6.4	0.7		
506	3号尹一筋	3号尹尹	加工木	木っ庵	5.0	3.5	8.8		
507	3号尹一筋	3号尹尹	加工木	木っ庵	6.0	4.0	13.9		
508	3号尹一筋	3号尹尹	加工木	木っ庵	9.0	(12.0)	1.3		

Ⅲ-26 遺物一覧表 (木製品) ④

図録番号	登録番号	出土地点	類別 (大分類)	種別 (小分類)	細分類	法量(cm)(現存額)(推定)		重量(g)	材質	制作年代	備考
						長さ	最大径				
509	3井戸一話	3号井戸	加工木	木つぬ		5.1	[16.8]	1.2			
510	3井戸一話	3号井戸	加工木	木つぬ		2.7	11.8	1.2			焼成痕
511	3井戸一話	3号井戸	加工木	木つぬ		5.5	10.3	1.5		83	
512	3井戸一話	3号井戸	加工木	木つぬ		5.5	9.1	0.9			焼成痕
513	3井戸一話	3号井戸	加工木	木つぬ		6.6	[6.8]	1.1			
514	3井戸一話	3号井戸	加工木	木つぬ		8.7	8.3	0.9			
515	2井戸一話	2号井戸	加工木	木つぬ		1.6	[6.8]	1.3			
516	3井戸一話	3号井戸	加工木	木つぬ		3.6	7.7	0.6			
517	3井戸一話	3号井戸	加工木	木つぬ		3.9	[6.6]	1.2			
518	3井戸一話	3号井戸	加工木	木つぬ		4.4	8.7	1.1			
519	6井戸一話	6号井戸	加工木	木つぬ		1.8	3.2	1.0			
520	3井戸一話	3号井戸	加工木	木つぬ		10.2	4.8	1.0			焼成痕
521	3井戸一話	3号井戸	加工木	木つぬ		13.9	3.9	4.5			
522	2井戸一話	2号井戸	加工木	木つぬ		6.2	3.3	2.0			
523	2井戸2段目一話	2号井戸2段目	加工木	木つぬ		4.1	3.6	1.1			
524	3井戸一話	3号井戸	加工木	木つぬ		3.2	3.2	0.7			
525	3井戸一話	3号井戸	加工木	木つぬ		4.7	2.9	2.1			
526	3井戸一話	3号井戸	加工木	木つぬ		11.9	2.6	2.0			
527	3井戸一話	3号井戸	加工木	木つぬ		[3.9]	2.5	0.4			
528	3井戸一話	3号井戸	加工木	木つぬ		3.2	1.5	1.0			
529	2井戸3段目一話	2号井戸3段目	加工木	木つぬ		7.8	1.7	0.9			
530	4井戸一話	4号井戸	加工木	木つぬ		5.4	2.3	0.7			
531	3井戸一話	3号井戸	加工木	木つぬ		9.3	1.2	1.0			
532	3井戸一話	3号井戸	加工木	木つぬ		5.5	4.8	3.8			
533	3井戸一話	3号井戸	加工木	木つぬ		7.9	4.2	3.0			
534	3井戸一話	3号井戸	加工木	木つぬ		5.7	10.8	0.8			
535	2井戸3段目一話	2号井戸3段目	加工木	木つぬ		[5.3]	[4.1]	1.0			
536	2井戸3段目一話	2号井戸3段目	加工木	木つぬ		13.1	4.9	1.0			
537	2井戸3段目一話	2号井戸3段目	加工木	木つぬ		4.6	5.8	1.4			
538	3溝杭10	3号溝杭遺構	加工木	杭		[50.9]	2.0	2.5			焼成痕
539	3溝杭10	3号溝杭遺構	加工木	杭		[22.9]	2.9	1.7			
540	3溝杭10	3号溝杭遺構	加工木	杭		43.5	3.4	3.3		101	
541	3溝杭22	3号溝杭遺構	加工木	杭		35.7	4.0	4.1			
542	3溝杭29	3号溝杭遺構	加工木	杭		28.2	3.7	3.6		102	
543	3溝杭21	3号溝杭遺構	加工木	杭		38.1	4.5	4.5		100	
544	7溝一話	7号溝状遺構	加工木	杭		40.8	3.8	3.9			
545	7溝一話	7号溝状遺構	加工木	杭		30.2	4.0	3.8			
546	7溝一話	7号溝状遺構	加工木	杭		61.3	5.1	4.6			
547	9溝一話	9号溝状遺構	加工木	杭		17.7	3.9	0.5			竹製
548	3井戸一話	3号井戸	加工木	筒		20.5	4.5	0.5			竹製
549	3井戸一話	3号井戸	加工木	筒		110.0	8.5	6.3		97	転用材
550	4井戸一話	4号井戸	加工木	筒		109.5	7.8	7.6			転用材
551	4井戸一話	4号井戸	加工木	筒		109.5	7.8	7.6			
552	2井戸一話	2号井戸	住開係	罎		[30.6]	[20.9]	[2.4]			
553	2井戸一話	2号井戸	住開係	罎		19.7	[12.3]	[2.3]			
554	2井戸4段目一話	2号井戸4段目	住開係	罎			[1.1]	[1.0]			

Ⅲ-27 遺物一覧表 (金属製品(煙管))

図録番号	登録番号	出土地点	類別	種別	法量(cm)	重量(g)	材質	制作年代	備考	
										長さ
555	2井戸一話	2号井戸	煙管継ぎ	長0.7	火管径1.6	継合部径0.9	高さ2.2	10.68	高純	1800~
556	2井戸一話	2号井戸	煙管継ぎ	長5.9	火管径1.6	継合部径0.9	高さ2.2	9.05	高純	1800~
557	3井戸3段目一話	3号井戸3段目	煙管継ぎ	長5.0	火管径1.6	継合部径1.0	高さ1.9	6.43	高純	1800~
558	2土一話	2号土坑	煙管継ぎ	長5.0	火管径1.4	継合部径0.9	高さ1.7	7.39	高純	1800~
559	4溝466	4号溝状遺構	煙管継ぎ	長5.9	火管径1.4	継合部径1.0	高さ1.5	12.79	高純	1800~
560	2井戸一話	2号井戸	煙管吸口	長6.3	管口径0.3	継合部径0.9		6.12	高純	1800~
561	2井戸一話	2号井戸	煙管吸口	長7.7	管口径0.5	継合部径1.0		6.26	高純	1800~
562	4溝一話	4号溝状遺構	煙管吸口	長7.5	管口径0.5	継合部径1.0		6.27	銅	1800~

Ⅲ-28 遺物一覧表 (金属製品(銅・鉄製品))

図録番号	登録番号	出土地点	類別	種別	法量(cm)	重量(g)	材質	備考		
									長さ	最大径
563	4溝1	4号溝状遺構	小銅		長6.6	幅1.3	厚0.5	14.51	銅	
564	4溝443	4号溝状遺構	鉄釘		長13.7	幅0.7	厚0.7	21.90	鉄	鎌形釘
565	2井戸一話	2号井戸	鉄釘		長10.1	幅0.6	厚0.6	10.61	鉄	平頭釘
566	5土一話	5号土坑	鉄釘		長(5.2)	幅0.6	厚1.4	10.96	鉄	鎌形釘
567	5土一話	5号土坑	鉄釘		長(5.6)	幅0.6	厚1.2	6.74	鉄	鎌形釘
568	6土一話	6号土坑	鉄釘		長(5.8)	幅0.6	厚1.0	4.28	鉄	平頭釘
569	5土一話	5号土坑	線		長(13.9)	幅(4.7)	厚(0.9)	200.00	鉄	
570	4溝436	4号溝状遺構	不明		長1.9	幅0.5	厚0.5	1.64	銅	
571	2土一話	2号土坑	不明		長(5.5)	幅0.9	厚0.1	3.81	銅	
572	4溝478	4号溝状遺構	不明		長(18.0)	幅0.9	厚0.1	3.17	銅	
573	7溝6	7号溝状遺構	不明		長(6.7)	幅(3.3)	厚(0.1)	3.90	銅	

Ⅲ-29 遺物一覧表 (金属製品(銭貨))

図録番号	登録番号	出土地点	名称	種別	書文	初鋳年代	西暦	所在地	法量(mm)(現存額)		重量(g)	備考
									直径	穴径		
574	2井戸一話	2号井戸	天保元銭	銭	女ノ	天明元年	1823	北条	24	7	2.35	著書
575	2井戸一話	2号井戸	寛永通宝3期	新貨	女ノ	元禄10年	1697		24	7	2.97	享保11年(1726)京都七条?
576	4溝466	4号溝状遺構	寛永通宝3期	新貨	女ノ	元禄10年	1697		24	6	2.06	元禄4年(1739)白土中?
577	4溝329	4号溝状遺構	寛永通宝西文銭	新貨	女ノ	天明5年	1768		26	6	4.77	
578	3井戸一話	3号井戸	寛永通宝西文銭	新貨	女ノ	天明5年	1769		26	7	4.16	
579	4溝329	4号溝状遺構	寛永通宝西文銭	新貨	女ノ	天明5年	1769		27	7	4.53	
580	4溝329	4号溝状遺構	寛永通宝西文銭	新貨	女ノ	天明5年	1769		27	7	4.67	
581	4溝329	4号溝状遺構	寛永通宝西文銭	新貨	女ノ	天明5年	1769		27	7	4.29	
582	4溝329	4号溝状遺構	寛永通宝西文銭	新貨	女ノ	天明5年	1769		23	7	3.22	穴欠
583	表係	表係	表係	表係		大正7年	1918		23		3.61	
584	表係	表係	表係	表係		大正10年	1921		23		3.29	

第四章 自然科学分析

バリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

甲府城下町遺跡は、山梨県甲府市に所在し、相川左岸の扇状地上に位置している。甲府城下町は、甲府城跡がある一条小山を境に、武田氏が築いた上府中（古府中）と近世に築かれた下府中（新府中）に分けられる。甲府城下町遺跡（日向町遺跡第2地点）で実施された発掘調査では、主に18世紀中葉から幕末までと考えられる井戸跡や溝などが検出されている。また、これら遺構からは、陶磁器やかかわらけ、廃棄されたと考えられる部材や木製品、動物遺体などの生活残滓が多量に出土している。

本報告では、上記した井戸跡や溝から出土した建築部材や木製品、動物遺体を対象に自然科学分析を実施し、当時の動物利用に関する資料を作成する。

第1節 木材利用

第1項 試料

試料は、井戸部材22点や溝跡に伴う杭材3点、さらに、井戸跡内から出土した木製品を主体とする木材78点の計103点（試料番号1～103）である。

これら試料の中には、2点以上の部材で構成されている製品が含まれる。これらについては、各部材を対象として試料採取を実施した。また、発掘調査時に一括で採取された試料については、無作為に複数試料を採取した。したがって、最終的な採取試料数は、計116点である。なお、試料を複数点数採取した場合には、アルファベットを付し、枝番号で表記している。分析試料は、上記した課題目的を考慮して81点を選択し、樹種同定を実施する。各試料の詳細は、樹種同定結果と共に表IV-1に記する。

第2項 方法

剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作製し、ゴム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定する。

第3項 結果

結果を表IV-1に示す。井戸部材や溝跡に伴う杭材、井戸跡内から出土した木製品は、針葉樹6種類（カラマツ・マツ属複雑管束亜属・モミ属・ツガ属・スギ・ヒノキ）と広葉樹6種類（ブナ属・コナラ属コナラ亜属コナラ節・カツラ・イスノキ・サクラ属・トネリコ属）に同定された。以下に、各種類の主な解剖学的特徴を記す。

- ・カラマツ (*Larix kaempferi* (Lamb.) Carriere) マツ科カラマツ属
仮道管の早材部から晩材部への移行は急で、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道および水平樹脂道が認められる。傷害樹脂道が認められる試料がある。放射柔組織の細胞壁は滑らかで、じゅず状末端壁が認められる。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、1分野に3～5個。放射組織は単列、1～20細胞高。
- ・マツ属複雑管束亜属 (*Pinus* subgen. *Diploxyylon*) マツ科
仮道管の早材部から晩材部への移行は急～やや緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道及び水平樹脂道が認められる。分野壁孔は窓状となり、放射仮道管内壁には顕著な鋸歯状の突出が認められる。放射組織は単列、1～15細胞高。
- ・モミ属 (*Abies*) マツ科
仮道管の早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は狭い。樹脂道および樹脂細胞は認められない。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は粗く、じゅず状末端壁が認められる。分野壁孔はスギ型で1分野に1～4個。放射組織は単列、1～20細胞高。
- ・ツガ属 (*Tsuga*) マツ科
仮道管の早材部から晩材部への移行は急で、晩材部の幅は広い。樹脂細胞が認められるが樹脂道は認められない。放射組織は仮道管と柔細胞で構成され、柔細胞壁は滑らかで、じゅず状末端壁が認められる。分野壁孔はヒノキ型で、1分野に1～4個。放射組織は単列、1～20細胞高。

IV-1 樹種同定結果

試料番号	図版番号	遺構名	採取地点名	枝番	樹種	樹種
1		2号井戸	1段		井戸栓 (板状)	ヒノキ
2		2号井戸	1段		井戸栓 (板状)	ヒノキ
4		2号井戸	2段		井戸栓 (板状)	ヒノキ
5		2号井戸	2段		井戸栓 (板状)	ヒノキ
7		2号井戸	3段		井戸栓 (板状)	ヒノキ
8		2号井戸	3段		井戸栓 (板状)	ヒノキ
10		2号井戸	4段		井戸栓 (板状)	ヒノキ
11		2号井戸	4段		井戸栓 (板状)	ヒノキ
13		2号井戸	5段		井戸栓 (板状)	ヒノキ
14		2号井戸	5段		井戸栓 (板状)	ヒノキ
16		2号井戸	6段		井戸栓 (板状)	ヒノキ
17		2号井戸	6段		井戸栓 (板状)	ヒノキ
19	347-2	3号井戸		A	下駄	サクラ属
	347-1			B	下駄	サクラ属
	348-2			C	下駄	サクラ属
	347-1			D	下駄	サクラ属
20	395	3号井戸		刀柄	ヒノキ	
21	360	3号井戸		桶底板	ヒノキ	
22	358	3号井戸		A	樽蓋	スギ
	353			B	栓	ヒノキ
	364			C	桶底板	ヒノキ
23	357	3号井戸		樽蓋	スギ	
24	359	3号井戸		桶底板	ヒノキ	
25	368	3号井戸		桶底板	ヒノキ	
26	356	3号井戸		A	井戸栓 (底板)	ヒノキ
27	355	2号井戸		A	井戸栓 (底板)	ツグ属
				B	井戸栓 (側)	ヒノキ
28	356	2号井戸	5段目		井戸栓 (側)	ヒノキ
29	355	2号井戸	5段目		井戸栓 (側)	スギ
30	351	2号井戸			柄?	ヒノキ
31	281	3号井戸		A	蓋	ヒノキ
	289			B	蓋	ヒノキ
	318			C	蓋	ヒノキ
	302			D	蓋	ヒノキ
32		2号井戸	一節	A	蓋	ヒノキ
				B	蓋	ヒノキ
42	343	3号井戸			柄?	ツグ属
43	378	3号井戸			曲物	モミ属
44	341	3号井戸			膝	カツラ
45	481	3号井戸			加工木	ツグ属
46	431	3号井戸			不明製品	モミ属
47	464	3号井戸			加工木	モミ属
48	344	3号井戸			膝?	カラマツ
50	433	3号井戸			不明製品	ヒノキ
51	390	3号井戸			塊	ヒノキ
52	409	3号井戸			接状	ツグ属
53	442	3号井戸			加工木	モミ属
54	438	3号井戸			加工木	ヒノキ
55	393	3号井戸			人影	ヒノキ
56	352	3号井戸			筒	スギ
57	407	3号井戸			接状	ツグ属
60	460	3号井戸			加工木	スギ
62	401	3号井戸			接状	ツグ属
65	470	3号井戸			加工木	モミ属
66		3号井戸			加工木	ツグ属
69	494	3号井戸			加工木	モミ属
74	449	3号井戸			加工木	コナラ属コナラ属コナラ属
75	444	3号井戸			加工木	加工木
76	445	3号井戸			加工木	加工木
77	466	3号井戸			加工木	モミ属
78	458	3号井戸			加工木	ヒノキ
80	345	6号井戸			膝?	ツグ属
81	402	3号井戸			接状	コナラ属コナラ属コナラ属
83	511	3号井戸			木っ端	カラマツ
84	477	3号井戸			加工木	ツグ属
85	342	6号井戸			膝?	ツグ属
88	451	6号井戸			加工木	カラマツ
89	371	3号井戸			曲物	スギ
90	474	3号井戸			加工木	モミ属
92	432	3号井戸			不明製品	ツグ属
93	495	2号井戸	桶内5段目		加工木	モミ属
94	479	6号井戸			加工木	マツ属積層管束属
95	397	6号井戸			接状	モミ属
96	405	6号井戸			接状	トネリコ属
97	550	4号井戸			胴木	ヒノキ
98	493	6号井戸			加工木	ツグ属
99	494	6号井戸	桶内		加工木	ツグ属
100	543	3号井戸	No. 21		栓	マツ属積層管束属
101	540	3号井戸	No. 10		栓	マツ属積層管束属
102	542	3号井戸	No. 29		栓	マツ属積層管束属
103	346	2号井戸	3段目		蓋	イスノキ

- ・スギ (*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don) スギ科スギ属
 仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞がほぼ晩材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞の壁は滑らか。分界壁孔はスギ型で、1分野に2~4個。放射組織は単列、1~15細胞高。
- ・ヒノキ (*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属
 仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか~やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分界壁孔はヒノキ型~トウヒ型で、1分野に1~3個。放射組織は単列、1~15細胞高。
- ・ブナ属 (*Fagus*) ブナ科
 散孔材で、管孔は単独または放射方向に2~3個が複合して散在し、年輪界付近で径を減ずる。道管の分布密度は高い。道管は単穿孔および階段穿孔を有し、壁孔は対列状~階段状に配列する。放射組織は同性~異性Ⅲ型、単列、数細胞高のものから複合放射組織まである。
- ・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Prinus*) ブナ科
 環孔材で、孔洞部は1~2列、孔洞外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火災状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~20細胞高のものとして複合放射組織とがある。
- ・カツラ (*Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc.) カツラ科
 散孔材で、管孔はほぼ単独で、まれに2~3個が複合して散在し、晩材部へ向かって管径を漸減させる。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性Ⅱ型、1~2細胞幅、1~30細胞高。
- ・イスノキ (*Distylium racemosum* Sieb. et Zucc.) マンサク科イスノキ属
 散孔材で、道管は横断面で多角形、ほとんど単独で散在する。道管の分布密度は比較的高い。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性Ⅱ型、1~3細胞幅、1~20細胞高。柔細胞は接線状または帯状で、放射方向にほぼ等間隔で配列する。
- ・サクラ属 (*Prunus*) バラ科
 散孔材で、管壁厚は中層、横断面では角張った楕円形、単独または2~8個が複合、晩材部へ向かって管径を漸減させながら散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅲ型、1~3細胞幅、1~30細胞高。
- ・トネリコ属 (*Fraxinus*) モクセイ科
 環孔材で、孔洞部は2~3列、孔洞外で急激に管径を減じたのち漸減する。道管壁は厚く、横断面では円形~楕円形、単独または2個が複合、複合部はさらに厚くなる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1~3細胞幅、1~40細胞高。

第4項 考察

樹種同定を行った木材は、井戸枠や井戸桶などの部材や濃跡に伴う杭材、さらに、箸、漆器、櫛、下駄、等の調度品と考えられる木製品、この他に、加工木、木っ端等に分類される。これら木材の樹種同定の結果、針葉樹・広葉樹各6種類の計12種類が認められた。全体を見ると、針葉樹の利用が70点と約9割を占め、とくにヒノキの利用が目立つ。

ヒノキの利用は、井戸枠や井戸桶、桶底板、曲物、箸、篋、人形、刀鞘、不明製品などに認められ、スギ、ツガ属、モミ属の利用は僅かに認められるのみである。とくに井戸枠は、分析を実施した全点がヒノキであった。ヒノキは、木理が通直で加工が容易であり、耐水性や防虫性に優れた材質を有する種類であり、使用部位や木材の材質を考慮した結果を反映している可能性がある。

一方、楔状、杭も、針葉樹の利用が優占する傾向が認められる。ただし、これらにはヒノキの利用が認められない。これら木製品の樹種構成をみると、楔状ではツガ属が多く、杭材では複雑管束亜属が多い。ツガ属は比較的強度の高い材質を有する種類であり、この他に楔状に認められた広葉樹のコナラ節やトネリコ属も重硬で強度が高い種類である。なお、ここで楔状としている木製品は、形態的特徴から楔と想定されるものである。これらが楔であった場合、使用時の打撃に耐える木材として強度の高い木材を意図した選択が行われている可能性がある。また、マツ属複雑管束亜属は、松脂を多く含み、耐水性が高いことから、杭材として利用された可能性がある。

下駄は、中央部で分割された2個の部材で構成されており、19A・19Bと19C・19Dの2個体ある。樹種は全て

サクラ属であり、これらはセットの可能性がある。

下駄に関する分析調査は、これまでにも各地で実施されており、様々な樹種が確認されている（島地・伊東，1988；伊東，1990；伊東・久保，2002）。サクラ属の使用例は見られるが、下駄に使用される樹種の中では確認例は少ない。また、分析対象となった下駄は、そのほとんどが一木の連歯下駄や台と歯を別材とする差歯下駄であり、今回のような組合せ式の下駄の分析調査例は少ない。そのため、現時点では組合せ式の下駄の木材利用について、サクラ属の利用が一般的であったかは、さらに資料を蓄積し評価する必要がある。

櫛は、常緑広葉樹のイスノキであった。イスノキは、暖温帯常緑広葉樹林の構成種であり、現在の山梨県には自生していない。このことから、他地域で製作された櫛が本地域にもたらされた可能性がある。イスノキは、重硬で緻密な材質を有しており、櫛材としてはツグに次ぐ良材とされる。遺跡からの出土例も多く、これまでの統計資料（島地・伊東，1988；伊東，1990；伊東・久保，2002）によれば、ツグよりも出土点数が多い。また、明治45年に編纂された「木材ノ工藝的利用」（農商務省山林局，1912）によれば、櫛としてはツグを第一とするが、昔（江戸時代後期頃）はツグが島の産物ということで屋敷向けにはツグが嫌われ、イスノキの櫛のみを使用したとされる。このことは、遺跡からイスノキの櫛が多く出土する要因となっている可能性がある。

加工木、木っ端には、多くの樹種が認められる。これらは、遺跡内で木材加工が行われた際の未製品や残滓と考えられ、遺跡内における木材利用を推定するうえで重要である。また、これらの試料からは、今回分析を行った木製品に認められなかったカラマツ・ブナ属などの樹種も認められている。これらの種類が、どのように利用されていたかは、今後の課題である。

本遺跡では、今回分析対象とした試料を含め大量の木製品が出土している。山梨県内では、当該期の木材利用に関しては、鯉沢町の鯉沢河岸跡で実施した分析例等があるが、分析調査例は少ない。そのため、今後も同様な分析調査を継続的に実施し、資料を蓄積してゆく必要がある。

IV-2 用途別種類構成

器種	樹種	カラマツ	海津管東産属	モミ属	ツグ属	スギ	ヒノキ	ブナ属	コナラ節	カラマツ	イスノキ	サクラ属	トネリコ属	合計
井戸物							12							12
井戸櫛(側)						1	2							3
井戸櫛(底)				1										2
櫛柄?							1							1
櫛底板								4						4
樽蓋					2									2
櫛							1							1
歯物			1		1									2
箸							6							6
箱						1								
櫛?	1			3					1					5
籠							1							1
下駄												4		4
櫛											1			1
人形							1							1
刀櫃							1							1
桐木							1							1
板状				1	3				1					6
杭		3												3
不明製品				1	1		1							3
加工木		1	1	7	5	1	2	2	1					20
木っ端		1												1
合計		3	4	10	13	6	34	2	2	1	1	4	1	81

第2節 漆器製作技術の検証

第1項 試料

試料は、樹種同定試料とした漆器5点（試料番号33A、33B、34、36、39）である。このうち、試料番号33A、33B、34、36の4点は櫛、試料番号39は箸などの板状の部材である。

なお、櫛4点のうち、試料番号33Bを除く3点は、櫛内外面で漆の色が異なることから各面から漆片を採取している。したがって、漆薄片作製・鑑定を行う漆片は、計8点である。

第2項 方法

各漆片を合成樹脂で包埋し、樹脂を固化させる。漆片の断面が出るようにダイヤモンドカッターで切断し、表面を研磨する。スライドガラスに接着後、反対側も切断し、厚さが0.03~0.05mm程度になるまで研磨し、仕上げの表面研磨を施してプレパラートとする。

プレパラートは、生物顕微鏡、落射蛍光顕微鏡、反射顕微鏡、偏光顕微鏡を用いて観察する。

第3項 結果

結果を表IV-3に示す。漆は、肉眼観察の結果、黒色漆と赤色漆の2種類に大別される。試料番号33A、33B、36の黒色漆は、いずれも黒色粒子を含む下地層の上に透明漆が1層塗布されたものである。下地層の黒色粒子は非常に微粒であり、炭粉に見られるような繊維組織は見られない。偏光顕微鏡お

IV-3 漆断面観察結果

試料番号	図版番号	器種	樹種	面	色	下地	塗層
33A	268	漆器碗	トチノキ	外	黒	柿渋+油煙	透明漆
				内	赤	柿渋+油煙	ベンガラ+漆
33B		漆器碗	トチノキ	外	黒	柿渋+油煙?	透明漆
				内	赤	柿渋+油煙	ベンガラ+漆
34	269	漆器碗	トチノキ	外	赤	柿渋+油煙	ベンガラ+漆
				内	赤	柿渋+油煙	ベンガラ+漆
36	270	漆器碗	トチノキ	外	黒	柿渋+油煙	透明漆
				内	赤	柿渋+油煙	ベンガラ+漆
39		漆器・黒	ヒノキ	内	黒		油煙+漆?

よび反射顕微鏡による観察では、金属反応は認められない。このことから、黒色微粒子は油煙と考えられる。また、下地層の表面にはクラックが多く認められる。この特徴は、柿渋を用いた時によくみられることから、下地層は柿渋に油煙を混ぜたものと考えられる。一方、赤色漆は、いずれも黒色の下地層の上に赤色粒子を含む漆層が1層塗布されている。赤色粒子は、いずれも赤鉄鉱であり、いわゆるベンガラを混和した赤漆と考えられる。試料番号39は、木地の上に黒色不透明層が1層塗布されている。状況から、漆に油煙を混ぜた可能性があるが、下地層であるか漆層であるかは不明である。

第4項 考察

漆器碗は、試料番号34は碗内外面とも肉眼観察では赤色を呈するが、試料番号33、36、39の漆器碗は外面が黒色、内面が赤色となる。黒色および赤色の漆塗布工程は、いずれの漆器碗でも同様であった。

黒色漆は、柿渋に油煙を混ぜた上に透明漆を1層塗布し、透明漆を通して下地を見せることにより表面が黒色を呈する。炭粉下地を施した漆器では、同様の技法がしばしば見られる。岡田(1995)は、この技法について、炭粉だけで十分に黒く、あえて黒色顔料を混和した漆層を塗布する必要がないこと、工程を簡略化し、さらに外見的に同様の効果が期待できること等を指摘している。今回の漆器についても、炭粉か油煙かの違いはあるものの、技法は同様と考えられる。

赤色漆は、いずれもベンガラを混ぜたものである。日本で利用される主な赤色顔料としては、ベンガラと水銀朱がある。水銀朱は水銀鉱床に伴って産出するために産地に限られる(市毛, 1998)。一方、ベンガラは赤鉄鉱の他にも様々な鉄鉱物が利用され、鉄バクテリアによって生成される赤色沈殿物等も利用されていたことが明らかとなっている(本田, 1997; 織幡・沢田, 1997)。そのため、水銀朱と比較すると、ベンガラの方が容易に利用できる状況であったと考えられる。また、近世では、江戸幕府により水銀朱の流通が厳しく管理されており、そうしたこともベンガラが多く利用されていた背景と考えられる。

第3節 繊維の材質

第1項 試料

試料は、2号井戸跡内から出土した縄1点(554)および箸2点(552・553)、3号井戸跡内から出土した布1片、4号井戸跡内から出土した縄1点の合計5点である。縄と布片については端部を切断し、箸については毛を数本抜き取り試料とし、薄片・作製鑑定を実施する。

第2項 方法

試料を合成樹脂で包埋し、樹脂を固化させる。試料断面が出るようにダイヤモンドカッターで切断し、表面を研磨する。スライドガラスに接着後、反対側も切断し、厚さが0.03~0.05mm程度になるまで研磨し、仕上げの表面研磨を施してプレパラートとする。

プレパラートは、生物顕微鏡および落射蛍光顕微鏡を用いて観察する。

第3項 結果

以下に、試料別の観察結果を記載する。

・縄

縄は、2号井戸跡内4段目および4号井戸跡内から出土した2試料ある。顕微鏡観察の結果、2試料とも同様の特徴を示す。これらは、少なくとも20本以上の細い繊維の束から成り、繊維を構成する細胞の特徴から植物由来であることが判断できる。ただし、今回の観察ではこれら植物の種類同定には至らず、また、

繊維そのものの単位が明瞭でないことから断面形態および径も不明である。

・布片

布片は、3号井戸跡内から1点である。糸を格子状に編んだ布であり、糸は100本以上を纏っていると考えられる。これら繊維の径は非常に細くいずれも10 μ m以下であり、繊維の正確な本数は計測できない。布目(1992)を参考にすると、絹に似るが、保存状態が良好でないため断定はできない。

・箒

大・小の毛2点がある。径は、大が長径約280 μ m、短径約120 μ m、小が長径約180 μ m、短径約100 μ mとなる。いずれも横断面で多数の繊維細胞が集まっている様子が見られるが、外周の組織に破損した組織が見られないことから、大きなものから裂いて作ったものではないことがわかる。繊維の特徴から植物であり、軸方向組織は繊維細胞のみで構成され、通導組織(道管など)は認められない。径が異なるが、組織の特徴から同一種の可能性があるが、種類の同定には至らなかった。

第4項 考察

調査は植物由来であり、いずれも同じ種類を用いたことが推定された。このような縄に用いる植物としては、イネ、ヨシ、タケ類等のイネ科植物や、木本類ではヒノキ、マツ、シナノキ等が利用される。ただし、今回の試料は上記のいずれも組織が一致しなかったことから、種類は不明である。

布片は、細い糸を格子状に編んだものであり、糸を構成する繊維は径10 μ m以下であり、少なくとも100本以上が束ねられている。組織断面の特徴から絹の可能性が高いが、断定には至らなかった。

箒の毛は、微細な植物繊維を用いている。農商務省山林局(1912)によれば、箒の毛に利用される植物としてはシダやシュロが挙げられている。今回の繊維は、シュロの繊維に似るが、繊維細胞のみで特徴に乏しく、種類の同定には至らなかった。

第4節 種実遺体からみた植物利用

第1項 試料

試料は、2号井戸跡および4号井戸跡内から出土した種実遺体7試料(試料番号1~6、14)である。なお、各試料中には複数個体の種実遺体が認められており、各試料に認められる種類や数量は、結果と共に表IV-4に記す。

第2項 方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、種実遺体の形態的特徴と当社所有の現生標本との比較から種類を同定する。同定後の種実遺体等は種類毎にビン詰めをおこない、乾燥した試料は乾燥剤を共に入れて保存する。水湿を帯びた試料は、50%程度のエタノール溶液による液浸保存処理を施す。

第3項 結果

結果を表IV-4に示す。種実遺体の状態は比較的良好である。木本9種類(針葉樹のカヤ、スギ、広葉樹のオニグルミ、ヒメグルミ、アンズ、ウメ、モモ、サクラ属、センダング)、草本4種類(メロン類、トウガン、ヒョウタン類、ニホンカボチャ近似種)の種実が同定される。この他に、広葉樹の葉片、炭化材、魚の鱗、二枚貝、土器片なども検出される。以下に、同定された種実遺体の形態的特徴などを、木本、草本の順に記す。

<木本>

・カヤ (*Torreya nucifera* Sieb. et Zucc.) イチイ科カヤ属

種子破片が同定された。灰褐色、倒卵形で両端は尖る。完形ならば長さ20-25mm、径13-15mm程度か。種皮は硬く骨質で、表面には10数本の浅い縦溝が走る。

・スギ (*Cryptomeria japonica* (L. f.) D.) スギ科スギ属

球果が同定された。かなり磨耗しており状態が悪い。茶褐色、木質で球形。径20mm程度。状態が良ければ、上縁に4~6個の歯牙をもつ楔形の種鱗が螺旋状に配列する。

・オニグルミ (*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *Sieboldiana* (Maxim.) Kitamura) クルミ科クルミ属

核破片が同定された。茶褐色、完形ならば広卵形で、先端部分がやや尖る。長さ31mm、幅22.5mm程度。明瞭な縦の縫合線があり、縫合線に沿って半分に割れている。表面は溝状の浅い彫紋が縦方向に走り、ごつご

つしている。内部には隔壁と子葉が入る2つの大きな窪みがあり、表面は平滑。

- ・ヒメグルミ (*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *Sieboldiana* (Maxim.) Kitamura var. *cordiformis* (Makino) Kitamura) クルミ科クルミ属

核破片が同定された。灰褐色、心形でやや扁平。先端は尖る。明瞭な縦の縫合線があり、縫合線に沿って半分に割れている。長さ30mm、幅26mm程度。核表面はオニグルミに比べ平滑で、正中線上に浅い凹部がある。なお、細片のため上述のオニグルミとの区別が困難である個体は、クルミ属 (*Juglans*) にとどめた。

- ・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

果実破片が同定された。灰褐色。完形ならば三角状卵形、一側面は扁平で反対面はわずかに丸みがある。大きな破片で19mm程度。果皮表面は平滑で、ごく浅く微細な縦筋がある。内面には内果皮 (いわゆる渋皮) がある。着点は灰褐色で基部の全面を占め、ざらつく。基部に着点の一部が残る点を同定根拠とした。

IV-4 種実遺体同定結果

試料名	遺体名	採取地点名	状態	木本															草本			魚の鱗	二枚貝	土器								
				カヤ		スギ	オニグルミ	ヒメグルミ	クルミ属	クリ	ブナ科	アズ	ウメ	モモ	サクラ属	センダン	広葉樹類	炭化材	メロン類	トウカン類	ヒョウタン類				ニホシカボチ類	近頃類	種子	種子	種子	破片	破片	破片
				破片	完形	破片	破片	破片	破片	果実	果実	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	破片	破片	破片				破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片
No. 1 (60)	2号井戸	2段目		-	-	-	-	1	-	2	1	-	-	4	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
No. 2 (60)	2号井戸	2段目		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
No. 3 (60)	2号井戸	3段目	洞内遺物	-	-	-	1	-	-	6	1	7	2	39	22	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
				-	-	-	1	-	-	1	-	-	2	3	1	-	-	-	-	1	7	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
				カヤの実	10+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
				?種	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
No. 4 (60)	2号井戸	4段目		5	-	-	-	-	1	-	-	4	2	14	3	-	1	-	-	-	5	-	1	-	1	2	-	-				
No. 5 (60)	2号井戸	5段目		24	-	1	-	-	1	3	8	4	50	20	34	20	-	2	2	+	-	1	2	-	1	2	-	-				
No. 6 (61)	2号井戸	3段目	浮遊体	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
No. 14	4号井戸		焼の種	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			

注) +は細片のため個体推定が困難であることを示す

注) 数字+は数字以上の個体推定が推定されることを示す

- ・ブナ科 (Fagaceae)

果実破片が同定された。表面は平滑で、ごく浅く微細な縦筋がある。上述のクリの他に、コナラ属やシイ属も同様の果実表面形態を持つため、ブナ科にとどめた。

- ・アズ (*Prunus Armeniaca* L.) バラ科サクラ属

核 (内果皮) の完形、破片が同定された。茶褐色、レンズ状の広楕円形。長さ20-25mm、幅18-22mm、厚さ15mm程度。先端は鈍端、基部は切形で中央部に湾入した跡がある。一方の側面に縫合線が発達し、縫合線に沿って半分に割れた個体や、縫合線上に齧歯類 (ネズミなど) によると考えられる食害痕がみられる。内果皮は厚く硬く、表面には浅く微細な凹点が網目模様をなし、ざらつく。

- ・ウメ (*Prunus Mume* (Sieb.) Sieb. et Zucc.) バラ科サクラ属

核 (内果皮) の完形、破片が同定された。茶褐色、レンズ状の広楕円形。長さ18-22mm、幅13-16mm、厚さ13mm程度。先端はやや尖り、基部は切形で中央部に湾入した跡がある。一方の側面に縫合線が発達し、縫合線に沿って半分に割れた個体や、縫合線上に齧歯類 (ネズミなど) によると考えられる食害痕がみられる。内果皮は厚く硬く、表面には円形の小凹点が分布する。

- ・モモ (*Prunus persica* Batsch) バラ科サクラ属

核 (内果皮) の完形、破片が同定された。茶褐色、広楕円形でやや扁平。先端部はやや尖り、基部は切形で中央部に湾入した跡がある。長さ25-30mm、幅19-24mm、厚さ14-18.5mm程度。一方の側面に縫合線が発達し、縫合線に沿って半分に割れた個体や、縫合線上に齧歯類 (ネズミなど) によると考えられる食害痕が

みられる。内果皮は厚く硬く、表面は縦に流れる不規則な線状の窪みがあり、全体として粗いしわ状に見える。状態が悪いため前述のアンズ、ウメとの区別が不可能であった個体をサクラン属 (*Prunus*) にとどめた。

・センダン (*Melia Azedarach* L. var. *subtripinnata* Miquel) センダン科センダン属
核が同定された。灰褐色、楕円形で上面観星形。長さ10mm、径8mm程度。深く広い5～6個の縦溝と縦隆条が交互に配列する。内部は5室程度あり、長楕円形で偏平の種子が入る痕跡がみられる。

<草本>

- ・メロン類 (*Cucumis melo* L.) ウリ科キュウリ属
種子が同定された。淡灰褐色、狭倒皮針形で偏平。長さ6.5mm、幅3mm程度。基部に「ハ」の字形の凹みがある。表面は比較的平滑で、縦長の細胞が密に配列する。藤下 (1984) の基準によると、本遺跡出土のメロン類はマクワ・シロウリ型の中粒種子 (長さ6.1～8.0mm) である。
- ・トウガン (*Benincasa hispida* (Thunb. ex Murray) Cogn.) ウリ科トウガン属
種子が同定された。淡灰褐色、倒卵形でやや偏平。長さ11mm、幅7mm、厚さ2mm程度。基部は切形で楕円形の臍がある。種子の背腹両面の全周に縁がある。縁には段差があり、薄くなっている。種皮は厚くやや堅い。
- ・ヒョウタン類 (*Lagenaria siceraria* Standl.) ウリ科ヒョウタン属
種子が同定された。淡灰褐色、倒皮針形でやや偏平。長さ11mm、幅8mm、厚さ2.5mm程度。基部は切形で楕円形の臍がある。両面外縁部に発達する2本の幅広く低い稜は明瞭であるので、完熟の種子である。
- ・ニホンカボチャ近似種 (*Cucurbita* cf. *moschata* Duch.) ウリ科カボチャ属
種子が同定された。淡灰褐色、倒卵形で偏平。長さ11mm、幅7mm、厚さ2mm程度。種皮は厚くやや堅く、表面は平滑である。基部には切形の大きな臍がある。背腹両面の全周にある縁は明瞭で、段差があり薄くなっていることから、トウガンとは区別され、カボチャの類に相当すると考えられる。

第4項 考察

井戸跡内から出土した種実遺体には合計13種類が認められた。この中には、種実が食用等に利用できる有用植物が多く含まれており、大粒などから持ち込まれた栽培植物と自生していたと考えられる種類と分類される。

アンズ、ウメ、モモ、メロン類、トウガン、ヒョウタン類、ニホンカボチャ (今回は近似種) は、渡来した栽培植物とされる。アンズ、ウメ、モモは、観賞用のほか、果実や核の中にある仁 (種子) などが食用、薬用等に広く利用される。メロン類、トウガンは果実が食用に、ニホンカボチャは果実、種子が食用に、ヒョウタン類は果実が容器などに利用される。

一方、自生する有用植物としては、オニグルミ、ヒメグルミ、クリなどの堅果類が挙げられる。3種類ともアク抜きをせずに生食可能であり、長期保存も可能で、収量も多い。そのため、古くから栽培されたり、保護されている種類である。カヤは種子が食用や油採に、センダンは種子が薬用に利用可能である。

今回認められた種実遺体は、遺構からの出土状況から、井戸使用時、あるいは井戸を埋める際に廃棄された残滓と考えられる。したがって、食用等可能な有用植物などは、特に食物残滓として廃棄された可能性がある。また、栽培植物のアンズやモモなどは、長期保存や運搬には向かない種類であり、周辺地域で栽培・収穫されたものを利用した可能性がある。

第5節 動物遺存体からみた動物利用

第1項 試料

試料は、2号井戸跡および3号井戸跡内から出土した骨・貝などの動物遺存体6試料である。これら6試料は採取地点別に分けられており、1試料内に複数の骨や貝が認められるものもある。試料の詳細は、結果とともに表IV-5・6に示す。

第2項 方法

試料を肉眼およびルーペで観察し、その形態的特徴から、種類・部位の同定を行う。計測は、デジタルノギスを用いて測定する。なお、同定・解析は金子浩昌先生の協力を得ている。

第3項 結果

検出された分類群の一覧を表IV-5に、同定結果を表IV-6に示す。検出された骨貝類は、貝類1種類 (マ

シジミ)、魚類5種類(タラ類・ボラ・ブリ・カツオ・メバル類)、鳥類1種類(ニワトリ)、哺乳類1種類(ニホンジカ)に同定される。この他に、龜甲の加工品(髹?)も認められる。以下に、各試料の結果および所見を記す。

・2号井戸跡(3段目)

a. 魚類

ボラの左前鰓蓋骨と鱗が検出される。前鰓蓋骨は近心部を失っている。鱗は、前記の前鰓蓋骨を持つ個体にはほぼ一致するサイズである。この他に種類・部位不明の魚骨片が1点検出される。

b. 加工品

髹と思われる龜甲破片である。丸みのある端部と、細長い中間部があり、斜めに切断される状況が認められるが、これらは一つものが剝離破損したものであるかは不明である。

・2号井戸跡(5段目)

a. 魚類

タラ類の右歯骨、ブリの左角骨、カツオの尾椎、メバル類の右上上顎骨が検出される。この内、メバル類の右上上顎骨は、遠心端をわずかに欠損する程度であり、ほぼ完形である。この他に、種類不明の腹椎・鱗や種類・部位不明の魚骨片などが検出される。

・2号井戸跡(桶付着しじみ貝)

検出された貝類は、マシジミである。土形のもの、殻皮だけが残存するもの、殻および殻皮が残らないが印象のみ残存する土形のもの、などが各1個体検出される。いずれも殻長20.0mm前後と推定される。

・3号井戸跡

a. 貝類

マシジミである。殻皮と殻の一部のみ残る。殻長22.0~25.0mm前後と推定される。

b. 哺乳類

ニホンジカの左鹿角である。角座部分から第1枝までが残る自然脱落角と考えられる。全面はかなり風化し、自然の鹿角面は一部に残るのみで、土壌中に埋没している間の腐食の影響と考えられる。角座部分径は、60.59×52.37mmを測る。

・3号井戸跡

a. 鳥類

ニワトリの胸骨片で、胸骨稜の前端部のみが残存する。前端部周縁は腐食のために消失したと考えられる。中型のサイズである。

第4項 考察

井戸跡内から出土したこれら骨・貝類は、出土状況から種実遺体と同様に、井戸使用時、あるいは井戸を埋める際に廃棄された残滓と考えられ、検出された種類を見ると食物残滓の可能性がある。シジミ類については殻皮や印象のみが残存する程度であり、マシジミ/ヤマトシジミの区別が困難であった。ただし、本遺跡が内陸部であることを考慮すると淡水産マシジミとするのが適当と考えられることから、ここではマシジミと同定した。なお、計測値はヤマトシジミを参考としており、今回認められた殻長は約20~25mm前後のものが主体であった。この大きさは、近世の遺跡から出土するシジミ類に多くみられ、また、採集される貝としては標準的と考えられる。

魚類は、検出された種類はいずれも海産魚であった。また、種類不明とした椎骨もコイやフナ類など淡水魚ではなく、海産魚に由来すると考えられる。同定されたタラ類・ボラ・ブリ・カツオ・メバル類は、近世遺跡

IV-5 出土動物分類群一覧

軟体動物門	Phylum Mollusca
二枚貝綱	Class Bivalvia
真夷堂綱	Order Heterodonta
マルスダレガイ目	Order Veneroida
シジミ科	Family Corbiculidae
マシジミ	<i>Corbicula jeana</i>
脊椎動物門	Phylum Vertebrata
硬骨魚綱	Class Osteichthyes
条鰭亞綱	Subclass Actinopterygii
タラ目	Order Gadiformes
タラ科	Family Gadidae
タラ類	Gadidae gen. et sp. indet.
スズキ目	Order Perciformes
ボラ科	Family Mugilidae
ボラ	<i>Mugil cephalus cephalus</i>
アジ科	Family Carangidae
ブリ	<i>Seriola quinqueradiata</i>
サバ科	Family Scombridae
カツオ	<i>Katsuwonus pelamis</i>
カサゴ目	Order Scorpaeniformes
フサカサゴ科	Family Scorpaenidae
メバル類	<i>Decapterus</i> sp.
鳥綱	Class Aves
キジ目	Order Galliformes
キジ科	Family Phasianidae
ニワトリ	<i>Gallus gallus</i> var. <i>domesticus</i>
哺乳綱	Class Mammalia
ウシ目(偶蹄目)	Order Artiodactyla
シカ科	Family Cervidae
ニホンジカ	<i>Cervus nippon</i>

から出土例を多くみる。本遺跡は内陸部に位置することから、搬入の可能性があり、海魚に対する関心が高かったことが窺われる。タラは、検出された個体から推定すると体長35cm以上になると考えられる。一方、カツオ・ブリ・メバル類などは、いずれも小型で体長25cm前後と考えられる。

今回の分析結果、シジミ類や海産魚が認められたが、これらが当時の動物利用全体を反映しているか、今後、さらに資料を蓄積し評価する必要がある。

なお、3号井戸跡から出土したニホンジカの鹿角は、角幹部と枝部がほぼ同じ高さに切断されている。切断面が平らで、鋸で切断された切り傷が斜めに付いている。第1枝と幹部を別々に使う目的があったと考えられる。

IV-6 骨貝類同定結果

科名	種類	部位	左右	部分	数	計測値(mm)	備考
2号井戸内 3段目	ボラ	前脛蓋骨	左	近心部欠	1	推定全長45.0	鱧は、前脛蓋骨を持つ個体と ほぼ一致するサイズ
		鱧			3		
	魚類	不明			1+		
	加工品	亀甲		髣?	3		
2号井戸内 5段目魚骨	タラ類	歯骨	右		1	近心部高6.26	
						推定全長67.0	
						近心端~遠心端47.0	
	ブリ	角骨	左		1	全長15.33	
	カツオ	尾椎			1	椎体長7.74	
	メバル類	主上顎骨	右	ほぼ完形	1	現長26.17	遠心端をわずかに欠損
	魚類	腹椎			1	椎体長5.87	
鱧				1			
	不明			2			
2号井戸内 桶付着しじみ貝	マシジミ	本体		殻皮	1	殻長20±	
				土形	1	殻長20±	
					1+		
3号井戸 No.8	マシジミ	本体		殻皮	11	殻長22.0~25.0±	内、1点は七規ごと採取
3号井戸内	ニホンジカ	鹿角	左	角座部分~ 第1枝基部	1	角座部分径 60.59×52.37	自然落角、角幹部と枝部は、 ほぼ同じ高さに切断
3号井戸内	ニワトリ	胸骨		胸骨後前端部	1		中型サイズ

第6節 古植生復元

第1項 試料

試料は、2号井戸跡覆土から採取された土壌試料6点である。これら試料のうち、井戸機能時の情報を最も良好に保存されていると考えられる2号井戸底部5段目桶内底部土壌(試料番号6)を対象とし、花粉分析を実施する。

第2項 方法

試料約10gについて、木酸化カリウムによる混化、篩別、重液(臭化亜鉛:比重2.3)による有機物の分離、フック水素酸による鉱物質の除去、アセトリス(無水酢酸9:濃硫酸1の混合液)処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。結果は同定・計数結果の一覧表、および主要花粉化石群集の層位分布図として表示する。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。

第3項 結果

結果を表IV-7・図IV-8に示す。図表中で複数の種類をハイフォンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。

花粉化石は豊富に産出し、その保存状態も良好である。木本花粉はマツ属複雑管束亜属が優占し、コナラ亜属・ツガ属などを伴う。草本花粉ではイネ科が多産し、アカザ科などが認められる。

第4項 考察

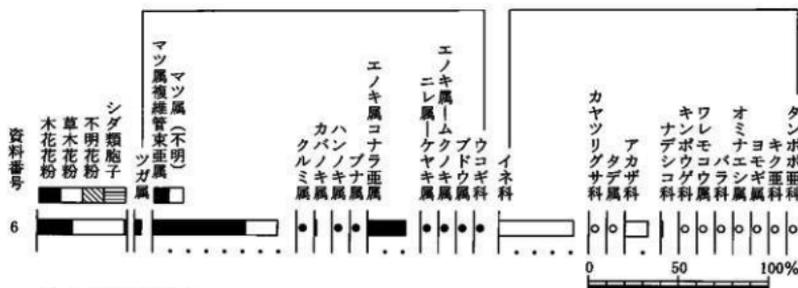
木本類の花粉では、マツ属複維管束亜属が多産する。日本に生育するマツ属複維管束亜属（いわゆるニヨウマツ類）には、アカマツ、クロマツ、リュウキュウマツの3種類がある。現在の分布や本遺跡の立地などを考慮すると、今回産出した複維管束亜属はアカマツに由来する可能性が高い。アカマツは闊樹であり、裸地などの陽地に先駆的に生育し、環境の適応性も広い種類である。中～近世では、森林伐採等による二次林の拡大や植林等により複維管束亜属の花粉が増加することが指摘されている（たとえば波田, 1987など）。試料の堆積年代など検討課題が残るが、井戸跡機能時の堆積物であった場合、今回認められた花粉化石の組成は都市周辺部での伐採などによる場地の拡大や山地・街道・庭園へのマツの植林等に由来する可能性がある。

マツ属以外の木本花粉では、コナラ亜属が比較的多く検出される。コナラ亜属には人里周辺の二次林（雑木林）を構成するクスギやコナラが含まれる。クスギやコナラは薪炭材として優良であり、クスギやコナラが生育する二次林は、薪炭林として管理・維持されてきた（平井, 1979）。本遺跡北側の山地南斜面等にクスギ・コナラ群集がみられる（宮脇, 1985）ことから、コナラ亜属の花粉は都市周辺部の山林に見られた二次林に由来する可能性がある。

一方、草本類についてみると、イネ科・アカザ科が多く認められる。とくにイネ科は草本花粉全体の約7割を占め、アカザ科を含めると約9割となる。イネ科には栽培植物であるイネやムギ、さらに、タケ・ササ類や陽地に生育する雑草類も多く含まれる。アカザ科は、海岸の砂地等に生育する種類を多く含むが、山野、道ばた、畑等に生育する種類も含まれる。イネ科については、本遺跡周辺での稲作に由来する可能性もあるが、他の種類と比較してイネ科やアカザ科の産出個数が多い。このことから、井戸跡周辺にこれらの雑草類が生育していた可能性もある。この他の草本類も、道ばた等に生育する雑草類を含む種類が多いことから、調査地点周辺に生育する雑草類に由来すると考えられる。

IV-7 花粉分析結果

種 類	試料番号	6
木本花粉		
ツグ属		8
マツ属複維管束亜属		113
マツ属 (不明)		39
クルミ属		1
カバノキ属		3
ハンノキ属		2
ブナ属		1
コナラ属コナラ亜属		47
ニレ属-クヤキ属		1
エノキ属-ムクノキ属		2
ブドウ属		1
ウコギ科		1
草本花粉		
イネ科		229
カヤツリダケ科		1
タケ属		1
アカザ科		71
ナゲシ科		6
キノボウグ属		1
ワレモコウ属		1
バコ科		1
オミナエシ属		2
ヨモギ属		1
キク亜科		5
タンポポ科		1
不明花粉		6
シダ類胞子		
シダ類胞子		13
合 計		
木本花粉		219
草本花粉		320
不明花粉		6
シダ類胞子		13
総計 (不明を除く)		552



IV-8 花粉化石群集

出現率は、木本花粉は木本花粉化石総数、草本花粉・シダ類胞子は総数より不明花粉を除く数を基数として百分率で算出した。なお、●○は1%未満を示す。

引用文献

- 藤下典之 (1984) 出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法。『古文化財の自然科学的研究』, 古文化財編集委員会編, p. 638-654, 同朋舎。
- 平井信二 (1979) 木の事典 第2巻。かなえ書房。
- 本田光子 (1997) 出土ベンガラのもろさについて。日本文化財科学会第14回大会研究発表要旨集, p. 78-79。
- 伊東隆夫 (1990) 日本の遺跡から出土した木材の樹種とその用途Ⅱ。木材研究・資料, 26, p. 91-189, 京都大学木材研究所。
- 伊東隆夫・久保るり子 (2002) 日本の遺跡から出土した木材の樹種とその用途Ⅲ。木材研究・資料, 38, p. 39-217, 京都大学木質科学研究所。
- 市毛 勲 (1998) 新版 朱の考古学。296p., 雄山閣。
- 波田善夫 (1987) 松くい虫被害対策として実施される特別防除が自然生態系に与える影響評価に関する研究 - 松くい虫等被害に伴うマツ林生態系の攪乱とその動態について -, 資料集, p. 41-49, 日本自然保護協会。
- 宮脇 昭編著 (1985) 日本植生誌 中部, 604p., 至文堂。
- 農商務省山林局編 (1912) 木材ノ工藝的利用。1308p., 大日本山林會。
- 布目順郎 (1992) 目で見える繊維の考古学 繊維遺物資料集成。314p., 染織と生活社。
- 岡田文男 (1995) 古代出土漆器の研究 顕微鏡で探る材質と技法。190p., 京都書院。
- 降幡順子・沢田正昭 (1997) 酸化鉄系赤色顔料の基礎的研究。日本文化財科学会第14回大会研究発表要旨集, p. 76-77。
- 島地 謙・伊東隆夫編 (1988) 日本の遺跡出土木製品総覧。296p., 雄山閣。

第V章 まとめ

第1節 遺構について

1. 時期区分

今回の調査では、中世から近世に属する井戸6基、溝状遺構9条、土坑6基、暗渠3基、ピット59基の総数83基が確認された。本遺跡においては、層位的な遺構の時期区分はできないため、①出土資料による遺構廃絶年代の推定、②遺構の切合関係、③遺構の主軸方位の違い、④文献史料による土地利用上の改変などに基づき、時期区分を行った(表V-2)。この結果、中世、近世に大別した。近世については、さらにI期:17世紀後半、II期:18世紀前半(宝永元年~享保9年の柳沢氏領有期)、III期:18世紀中葉から19世紀初頭、IV期:19世紀中葉から幕末の4つに細分した。

2. 調査区の位置

本発掘調査地は中世段階では戦国期城下町の南端部にあたり、近世段階においては、近世甲府城の「山手御門」北側に位置する内郭の武家屋敷地に位置し、「懐宝甲府絵図 第一版、第二版」(山梨県立図書館蔵)(図V-1)では、「桜井」、「北条、久田」の姓を記した部分にあたる。

3. 遺構変遷の概観

<中世(図V-3:中世)>

中世の遺構としては、16世紀後半の遺物(志戸呂製品など)を少量出土した1号井戸、1号土坑、1号溝状遺構(1号土坑との切合関係より3号土坑、8号溝状遺構も本段階に属する可能性がある)がある。周辺遺跡(甲府城下町遺跡(日向町遺跡第1地点)、甲府城下町遺跡(桜シルク跡)A・B区など)を含め遺構の分布は、散在的で積極的な土地利用が見られない状況である。

<近世(図V-3:近世I~IV期)>

I期では5号溝状遺構が確認され、肥前系唐津の大鉢の伏せた状態及びかわらけや鎌などの出土遺物により墓坑と思われる。甲府城下町遺跡(桜シルク跡)A区の調査成果と合わせ、柳沢氏入部以前の調査区周辺は空地であった可能性が考えられる。

II期では該期の遺物を少量出土した杭列を伴う3号溝状遺構があり、該期絵図の「甲府御城下絵図」(柳沢文庫蔵)に見られる「藪田五郎右衛門」の屋敷地裏手側(北端)を東西方向に延びる区画との関わりが示唆される。

III期では6号土坑(木棺を伴う墓坑)及び5号~6号井戸が確認されている。該期絵図の「甲府城下町絵図」(坂田家蔵)における調査地点は空地であり、6号土坑はこの段階の埋葬の可能性もある。5号~6号井戸は該期の陶磁器、土器、木製品、銭貨などが出土し、また覆土からは炭化物が検出されたことから享和3年(1803年)年4月3日の大火によって廃絶された井戸の可能性もある。

IV期では2号~4号井戸、2号土坑、4号・7a・7b号溝状遺構、1号~3号暗渠が確認されている。2号~4号井戸は該期の陶磁器、土器、土製品をはじめ多量の木製品が出土している。2号土坑は、金属製品(煙管、不明銅製品など)が出土し、墓坑と考えられ、該期絵図の「甲府郭内外邸第図」(山梨県立図書館蔵)及び「甲府城下絵図」(山梨県立図書館蔵)における調査地点が空地であり、この段階の埋葬の可能性が



懐宝甲府絵図 第一版(嘉永2年(1849年))
山梨県立図書館蔵



懐宝甲府絵図 第二版(嘉永2年(1849年)以降)
山梨県立図書館蔵

V-1 甲府城下町絵図(部分)

V-2 遺構変遷

時代	時期区分		年代	井戸	溝状遺構	土坑	暗渠	土地区画有無	拝観者	絵図
	甲府城支配者	地震・火災								
中世		1498年明応地震	1500							
			1550	1号	1	1				
I 期	徳川義武	1605年慶長参勤	1600							「権託諸国城図」 寛永9(1632)年～寛文元(1061)年 城山藩政管理地籍所蔵
	幕府直轄 甲府城番		1650		5			不明		甲府城内屋敷図 元禄2(1689)年～宝永元(1704)年 柳沢文庫蔵
II 期	徳川綱豊		1700						不明	
		1703年元禄地震 1707年宝永地震								
III 期	柳沢吉保・吉里				3			土地区画あり	「蝦田五郎右衛門重守」 ：比定200年(1719年) 調査者	甲府城下絵図 宝永元年(1704)年～享保9 (1724)年 柳沢文庫蔵
								土地区画なし	「権託市正」 ＝蝦田五郎右衛門重守	甲府城下絵図 宝永元年(1704)年～享保9 (1724)年 柳沢文庫蔵
IV 期		1727年火災						土地区画なし 空地		甲府城下町絵図 元文3(1738)年 板田家蔵
		1782年天明地震 1803年火災	1750 1800		6 B・E			土地区画なし 空地		
V 期	幕府直轄 甲府勤番支配							土地区画なし 空地	2 1・2・3	甲府城内内外邸第図 文政年中(1818～1830) 山梨県立図書館蔵
								土地区画あり	「桜井」名あり	甲府城下絵図 弘化2(1845) 山梨県立図書館蔵
VI 期			1850	2・3・4	4			土地区画あり		徳宝甲府絵図 第一版 嘉永2(1849)年 山梨県立図書館蔵
		1854年安政東海地震						土地区画あり	「急急」土倉敷(1400位) 文久元年(1861)年町奉行小笠 田道・久吉宅(500位) 文久元年(1861)年甲府藩士小笠 田年(1838)年甲府勤番士	徳宝甲府絵図 第二版 嘉永2(1849)年以降 山梨県立図書館蔵
VII 期								土地区画なし 空地	7a・7b	甲府絵図 文久2(1862)年 特許文庫(東北大学付属図書館)蔵
			1900					土地区画なし 空地		山梨県下甲府之図 明治9(1876)年 山梨県立図書館蔵
近代								土地区画なし 空地		甲府市全図 明治37(1904)年改正 山梨県立図書館蔵
		1923年大正関東地震						土地区画なし 空地		甲府市全図 大正10(1921)年 山梨県立図書館蔵
現在 (昭和末期)								土地区画なし 空地		甲府市全図 昭和4(1929)年 山梨県立図書館蔵

ある。4号溝状遺構は、18世紀中葉～幕末段階の陶磁器をはじめ土器、土製品、石製品(礎)、金属製品(寛永通宝、煙管、釘など)などが多量に出土しており、N-20°-Eの軸線をとる。該期絵図の「徳宝甲府絵図第一版、第二版」(山梨県立図書館蔵)(図V-1)には、「桜井」、「北条、久田」の居住者の氏名が見られ、この段階の屋敷を南北に区画する境界の堀か溝跡と考えられる。7a・7b号溝状遺構は18世紀後半～明治初期にかけての陶磁器、土器などの他、瓦がまとまって出土しているが、該期絵図に対応すると考えられる区画が見られないため、今後検討を要するものである。1号～3号暗渠は19世紀代の陶磁器が僅かに出土しているのみで時期決定は困難であるが、該期の屋敷内の居住に伴い配置された可能性がある。

以上のように、本調査区では戦国期の城下町形成を契機とする墓坑の構築及び近世期の武家屋敷の区別と井戸などの構築が確認された。特に本調査区周辺地域は、IV期後半(幕末期)の甲府勤番士の頻繁な異動が行われる以前、すなわちII期(柳沢市正の拝観)以降、IV期前半(19世紀前半)までは空地となり、他の武家屋敷地との土地利用の違いが確認され、幕末期の拝観者の経歴等から推測すると近世甲府城下町における「山流し地」としての土地利用を示唆する可能性がある。また、井戸の多さは甲府勤番士の屋敷地としてIV期以降の活発な土地利用と水の枯渇しやすい地理的影響によるものと考えられる。

V-3 4号溝状遺構 磁器・陶器・石器・土器 器種組成表

器種	磁器		陶器		石器		土器		その他		合計	
	検出数	重量										
磁器	1	1.0	1	1.0	1	1.0	1	1.0	1	1.0	1	1.0
陶器	1	1.0	1	1.0	1	1.0	1	1.0	1	1.0	1	1.0
石器	1	1.0	1	1.0	1	1.0	1	1.0	1	1.0	1	1.0
土器	1	1.0	1	1.0	1	1.0	1	1.0	1	1.0	1	1.0
その他	1	1.0	1	1.0	1	1.0	1	1.0	1	1.0	1	1.0
合計	5	5.0	5	5.0	5	5.0	5	5.0	5	5.0	5	5.0

第2節 遺物について

1. 廃棄のあり方について

今回の調査で検出された遺物は、16世紀後半、17世紀後半、18世紀前半、18世紀中葉から幕末の遺物群に大別され、総破片数2,054点、総重量60,149.22g（木製品、自然遺物を除く）である。特に18世紀中葉以降の遺物が多く、これは享和3年（1803年）の火災後の片づけ（第5・6号井戸）や幕末期の甲府勤番士の屋敷引払い（第2～4号井戸、第4号溝状遺構）に伴う廃棄と思われる遺構が存在するためである。本項では廃棄に関するデータを比較的良好に得られた第4号溝状遺構を対象として本遺跡における廃棄活動の一端を捉えてみたい。

＜遺構の性格＞ 既述したように本遺構は、甲府勤番支配時代の武家屋敷地を区画する境界の塀か溝跡として掘削された可能性が高く、幕末期の甲府勤番士の屋敷引払いの際にごみ捨て場として利用されたと考えられる。＜遺構の規模＞ 平面形は南北方向に長い長方形を呈し、北端及び南端は調査区外へ延びており未検出であるが、調査区内では南北約26.7m、東西約2m、確認面からの深さは最大で1mを測り、その容量は53.4m³である。

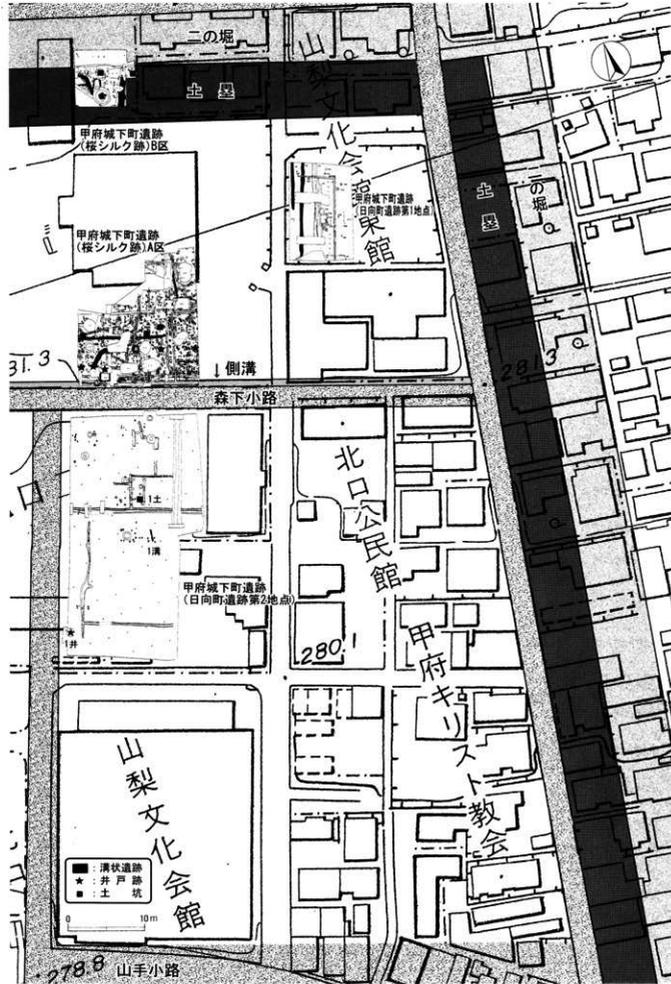
＜遺物の総量・密度＞ 遺物の材質は、陶磁器類をはじめ土器、土製品、石製品、金属製品などがあり、総破片数940点、総重量28202.40g（表Ⅲ-10）で、本遺跡における総破片数の46%、総重量の47%の遺物が出土している。遺物包含密度（遺物総重量を遺構の容量で除する）は528（g/m³）である。

＜遺物の検出状況＞ 本遺構の北端及び南端は未検出であるが遺物の平面分布からは、調査地点に遺物が集中する傾向が捉えられた。また垂直分布からは、遺構が半分程度（第5層以下）埋没した後の覆土上層から一括して各時期のすべての材質の遺物が出土し（PL-7～10）、炭化材の集中出土地点（PL-6）も確認された。

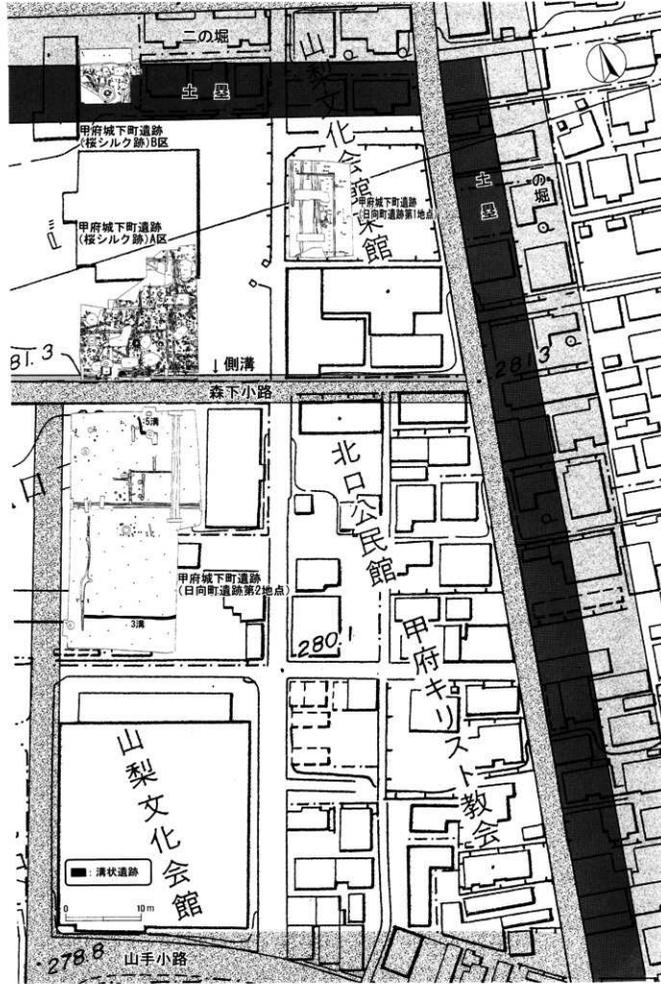
＜遺物の製作年代＞ 各材質の中で数量的に最も多く確認された磁器・陶器・土器の製作年代は18世紀中葉～幕末期であり、屋敷引き払い時期の幕末期に比較的近い時代に製作された製品が多い状況である。また、18世紀中葉以降では波佐見系磁器の「くらわんか手」の中碗、小皿、瀬戸・美濃系陶器の小碗、仏花瓶、灯明具、在地系の火鉢などが確認され、19世紀以降では燗德利などの新たな酒器の出現、小碗、土瓶などの煎茶道具の増大、土鍋、行平など陶器の鍋類の出現など、時期差による器種組成の違いが見られ、時期ごとの生活の変化に伴い器種組成が組み替えられていく状況が理解される。

以上のように本遺構では、本遺跡の他の遺構に比べ大規模で（遺物総量が多い）積極的な（遺物包含密度が高い）廃棄が確認された。また磁器・陶器・土器の個別別資料が多く含まれ、これらの器種組成（小・中碗、小皿・中皿、灯明皿、焼塩壺、火鉢、七厘、燗德利、土瓶、土鍋、中碗・土瓶蓋、中壺など）が生活用具をほぼ網羅しており、少なくとも一世帯以上の生活用具がセットで廃棄されている状況が捉えられた（表IV-3）。

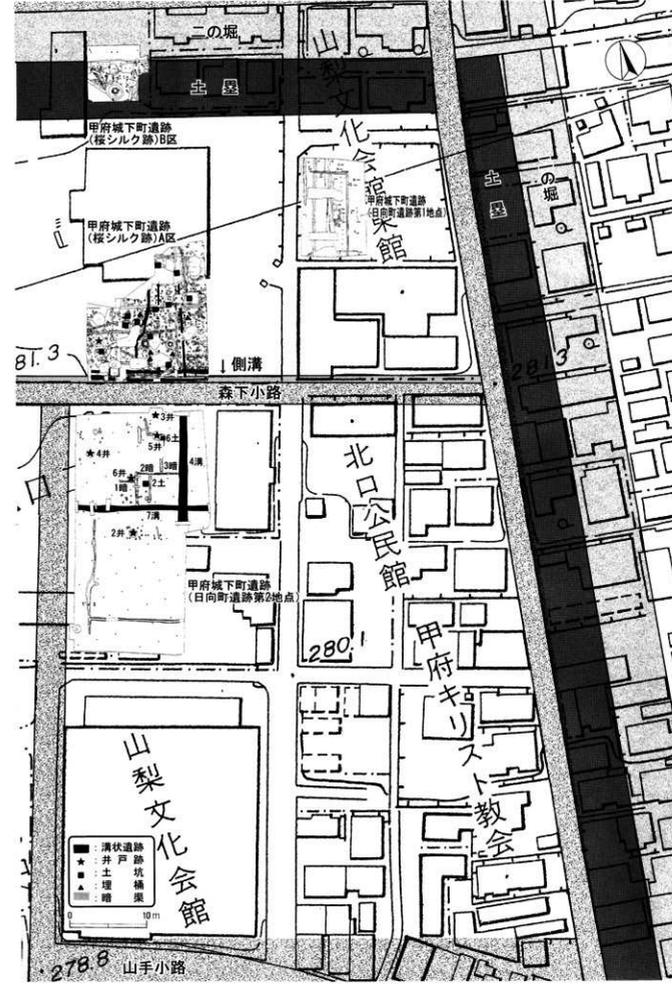
今後、他の遺構（井戸に関わる祭祀の問題など）や周辺の近世遺跡における廃棄のあり方を含めて検討し、考古学的方法による江戸時代の人々の生活復元に結びつける分析を行っていきたい。



(中世)



(近世I・II期)



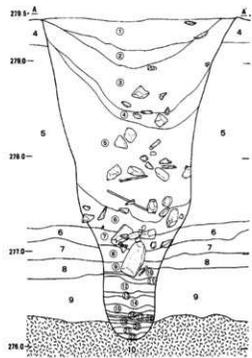
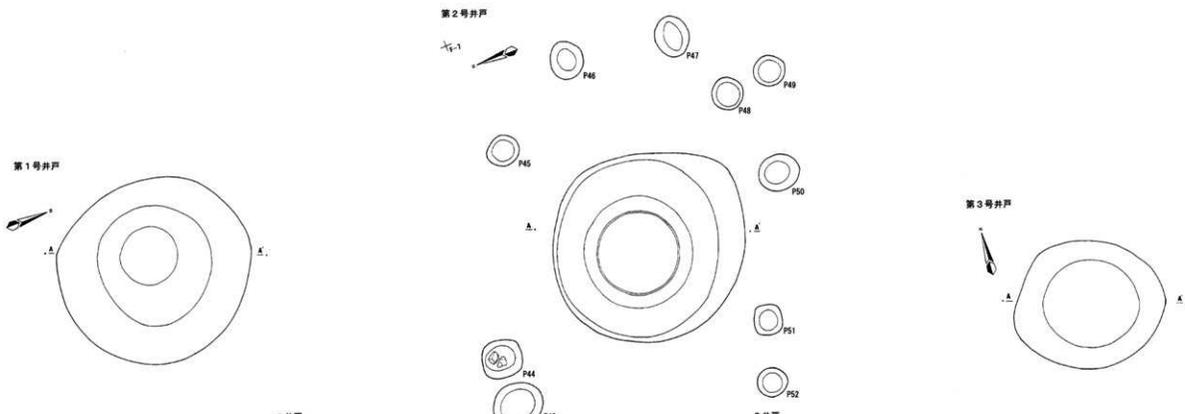
(近世III・IV期)

V-5 検出遺物の様相 (1) (第4号溝状遺構)

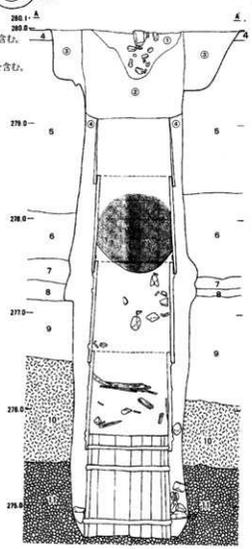
材質 産地	磁器		陶器				炆器		土器			金属製品
	肥前	瀬戸・美濃	瀬戸・美濃	京都・信楽	不明	備前	堺・明石	在地系	泉州	不明		
I 1650												
II 1700												
III 1750												
IV 1800												
1850												
明治以降												

V-6 検出遺物の様相 (2) (その他)

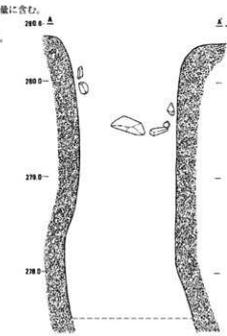
遺物名	2号井戸			3号井戸						4号井戸	5号井戸				6号井戸		1号溝	3号溝	5号溝			7号溝			2号土坑	5号土坑	遺構外								
	磁器	土器	金属製品	磁器	陶器			土器			木製品	磁器	陶器	土器		金属製品	磁器	陶器	陶器	陶器	土器			磁器	陶器	土器	金属製品	陶器	磁器						
産地	肥前	在地系		肥前	肥前(現川)	瀬戸・美濃	不明	在地系			泉州		瀬戸・美濃	肥前	肥前	在地系	金属製品	肥前	瀬戸・美濃	中国系	志戸呂	肥前	肥前(唐津)	在地系	肥前	瀬戸・美濃	肥前	在地系	肥前	瀬戸・美濃	肥前	瀬戸・美濃			
中世Ⅰ																																			
1600																																			
1650																																			
I期																																			
1700																																			
II期																																			
1750																																			
III期																																			
1800																																			
III期																																			
1850																																			
1900																																			
明治以降Ⅰ																																			



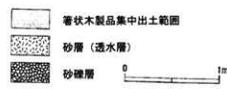
- 1号井戸**
- ① 暗褐色土 炭化物、粘土を多量に含む。
 - ② 暗褐色土 炭化物、粘土を多量に含む。
 - ③ 暗褐色土 下部に1.0m大の粘土ブロック多量に含む。
 - ④ 暗褐色土 やや砂質。
 - ⑤ 暗褐色土 やや砂質、こぶし大から人頭大の礫を含む。
 - ⑥ 暗褐色土 やや砂質、こぶし大から人頭大の礫を含む。
 - ⑦ 暗褐色土 やや粘性あり。
 - ⑧ 暗褐色土
 - ⑨ 暗褐色土 砂含む。
 - ⑩ 暗褐色土 ローム、砂少量含む。
 - ⑪ 暗褐色土
 - ⑫ 青灰色砂
 - ⑬ 青灰色砂
 - ⑭ 青灰色砂
 - ⑮ 暗褐色土 砂少量含む。
 - ⑯ 青灰色砂 砂少量含む。
 - ⑰ 青灰色砂
 - ⑱ 青灰色砂
 - ⑲ 暗褐色土 砂を多量に含む。
 - ⑳ 暗褐色土 やや砂が粗くなる。
 - ㉑ 青灰色砂
 - ㉒ 青灰色砂 やや砂が粗くなる。



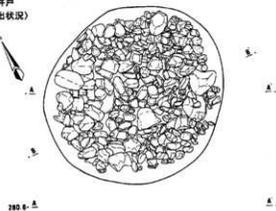
- 2号井戸**
- 1 暗褐色土 こぶし大から人頭大の礫を多量に含む。
 - 2 暗褐色粘土
 - 3 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。
 - 4 暗褐色土



- 基本層序 (1・2・3~6号井戸掘出地点)**
- 4 暗褐色土 (地山層) 粘性、しまり強い。
 - 5 黄褐色土 水分により褐色又は緑色に黄色。
 - 6 緑色砂質粘土 1~10cm大の小礫石を含む。
 - 7 黒色粘土 (木性増殖土) 混入物なし。
 - 8 暗青灰色砂
 - 9 緑色砂質粘土
 - 10 暗緑灰色砂 (透水層)
 - 11 暗青灰色砂礫



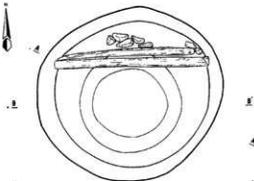
第4号井戸
(掘検出状況)



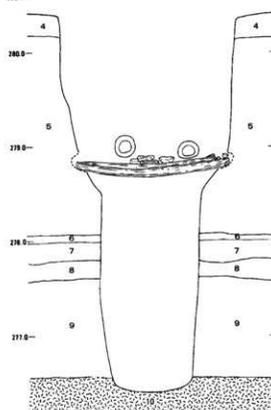
280.4 ±



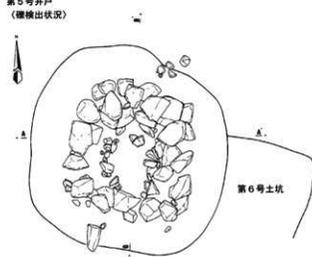
(完備状況)



280.8 ±



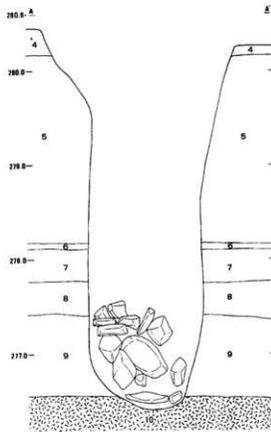
第5号井戸
(掘検出状況)



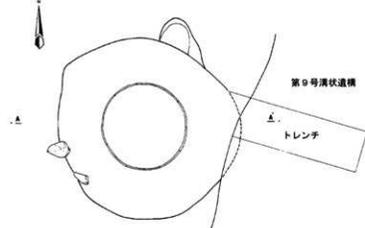
280.4 ±



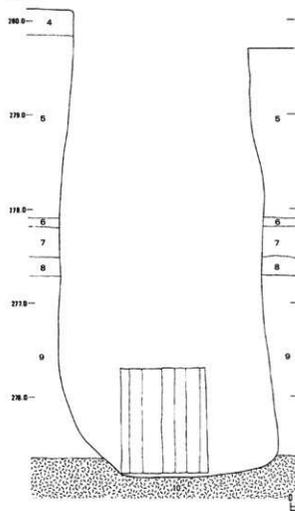
(完備状況)



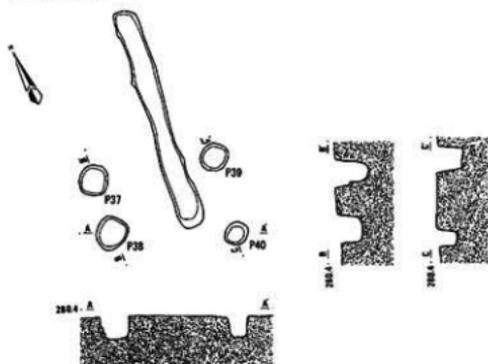
第6号井戸



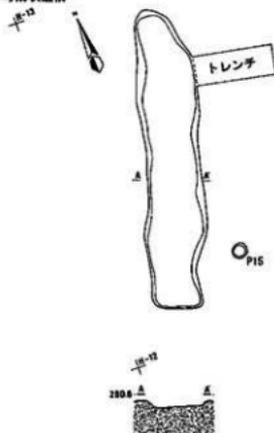
280.3 ±



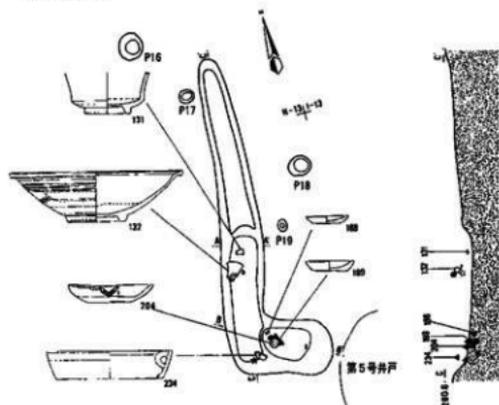
第1号溝状遺構



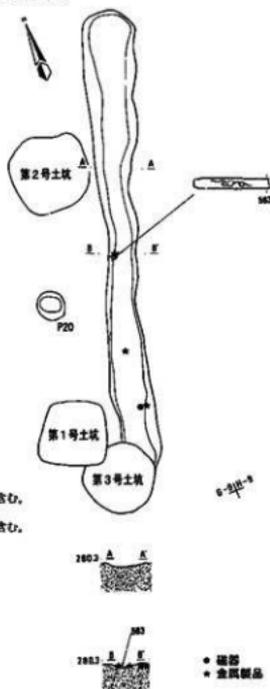
第6号溝状遺構



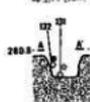
第5号溝状遺構



第8号溝状遺構



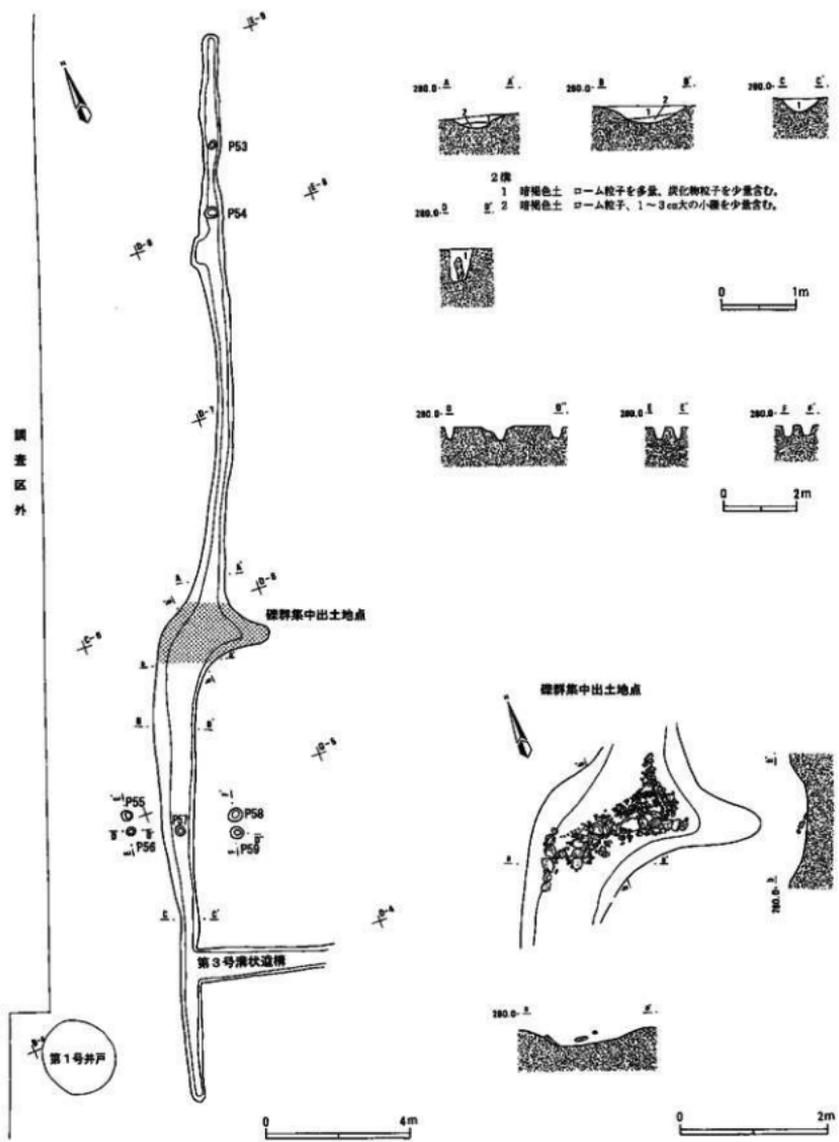
- 200.0 A A G 溝
- 1 暗褐色土 2mm~1cm大のロームブロック、炭化物多量に含む。
 - 2 暗褐色土 砂、小礫多量に含む。
 - 3 暗褐色土 2mm~1cm大のロームブロック、炭化物多量に含む。



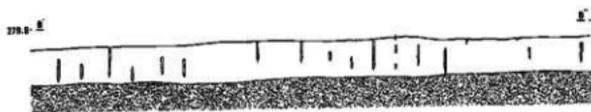
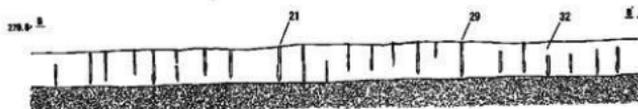
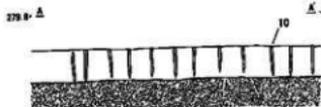
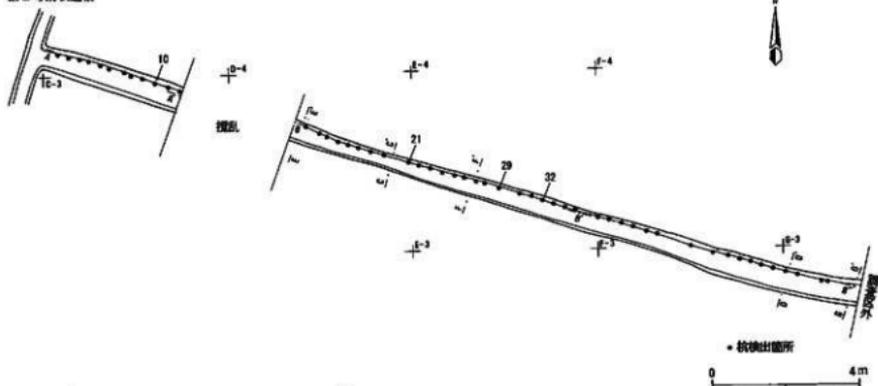
- 磁器
- 陶器
- ▲ 土器
- ◆ 金属製品
- ◇ 石器

- 磁器
- ◆ 金属製品





第2号清状遺構

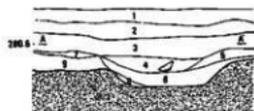
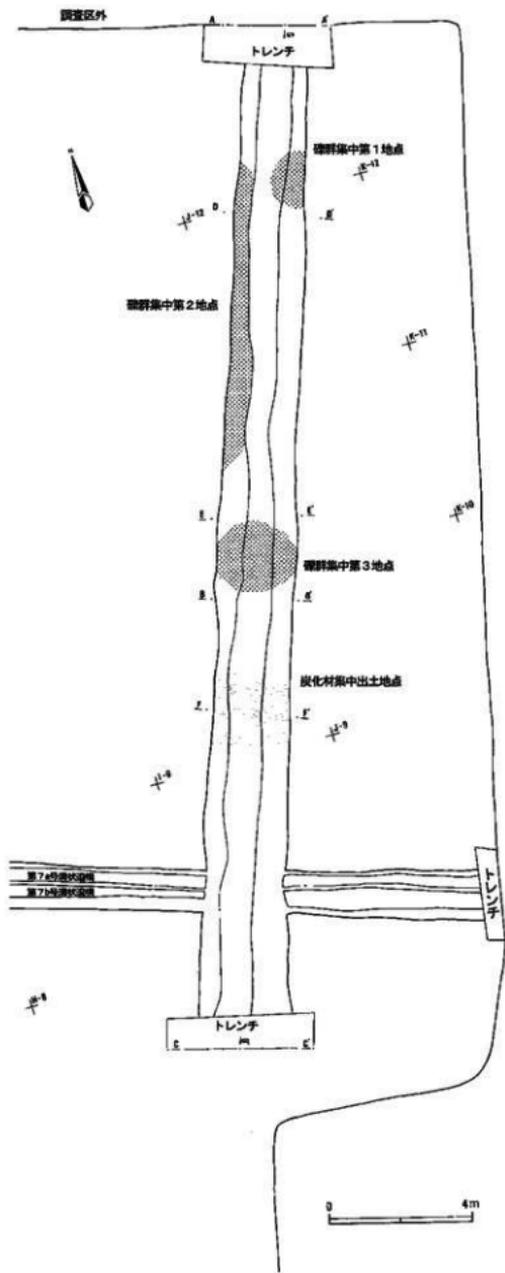


3段 1 暗褐色土。ロ—A粒子、炭化物粒子が多量に含む。

0 2m



0 4m



200.8 E E



200.4 E E



- 4区
- 1 表土層 小礫を多量に含む。
 - 2 灰褐色土
 - 3 灰褐色土 ローム粒子、炭化物、砂を多量に含む。
 - 4 緑褐色土 ローム粒子、5cm以下の小礫を少量、炭化物を多量に含む。
 - 5 緑褐色土 鉄分を少量含む。
 - 6 緑褐色土 1m²のロームブロック、小礫を多量に含む。
 - 7 緑褐色土 2m²~4m²のロームブロック多量に含む。
 - 8 緑褐色土
 - 9 緑褐色土 遺物を含む
 - 10 明黄色土 (地山層の表面)

0 2m



200.5 E E



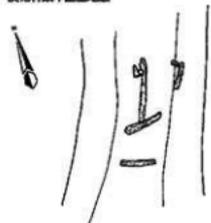
200.6 E E



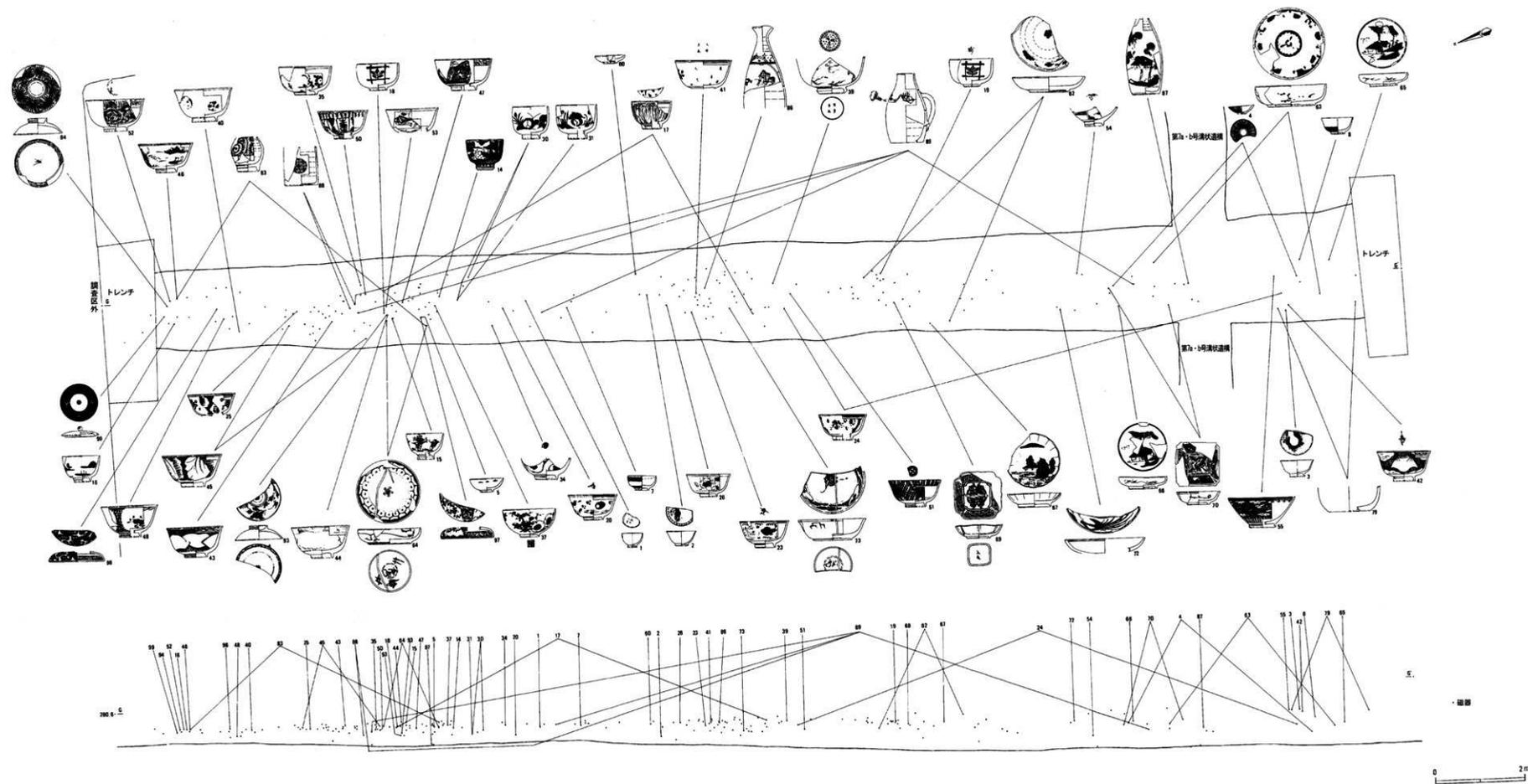
200.8 E E

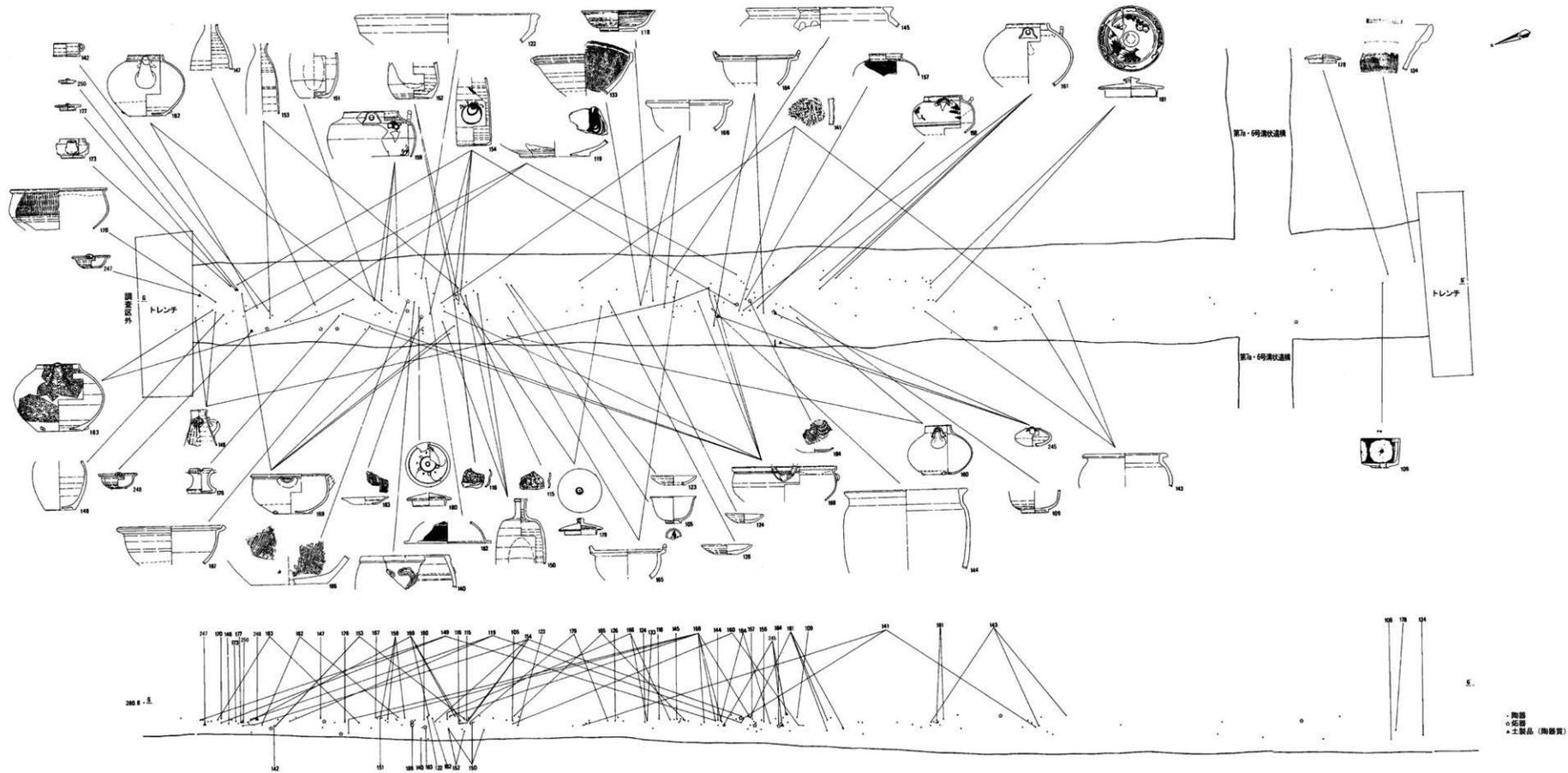
0 4m

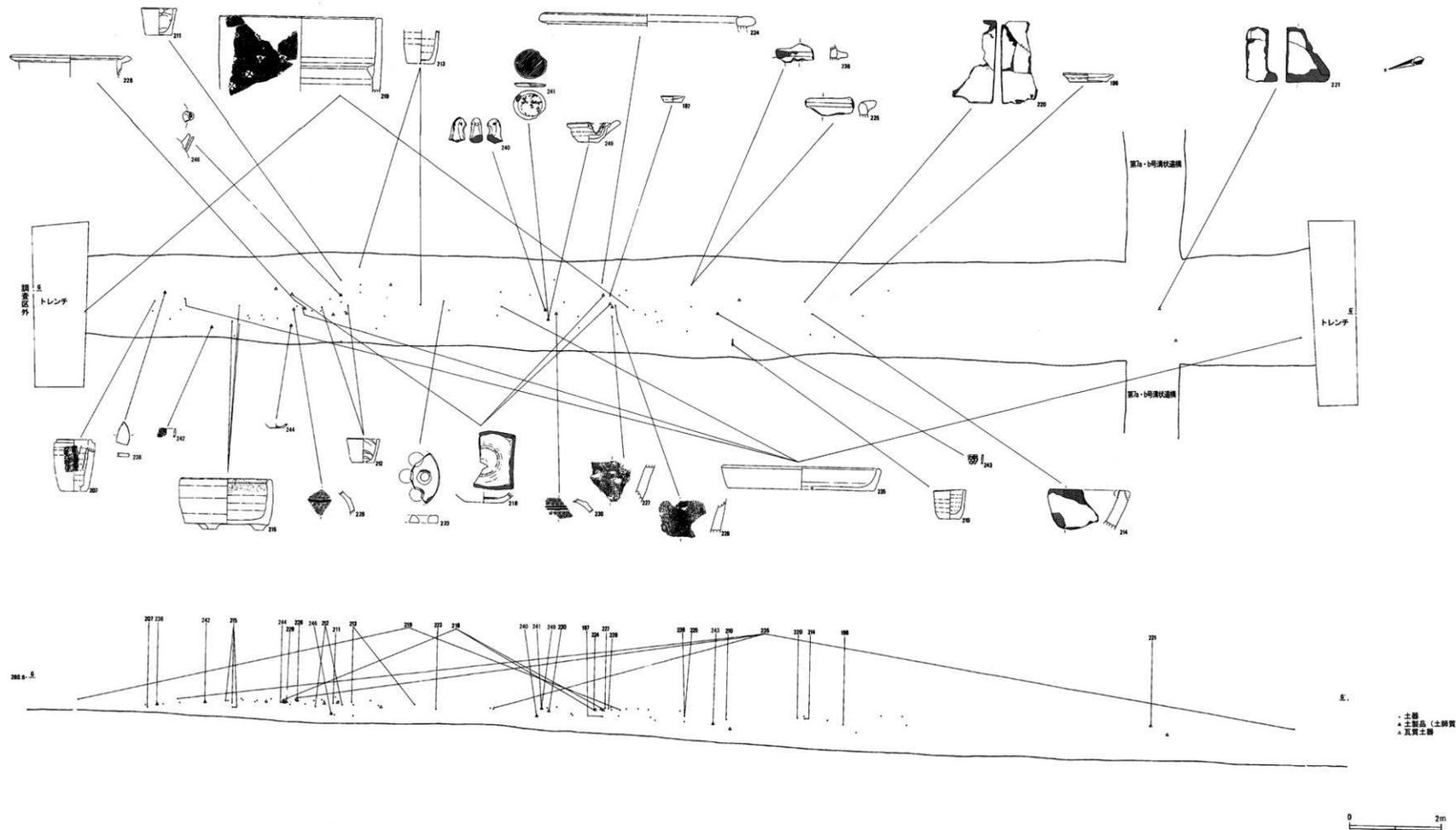
炭化材集中出土地点

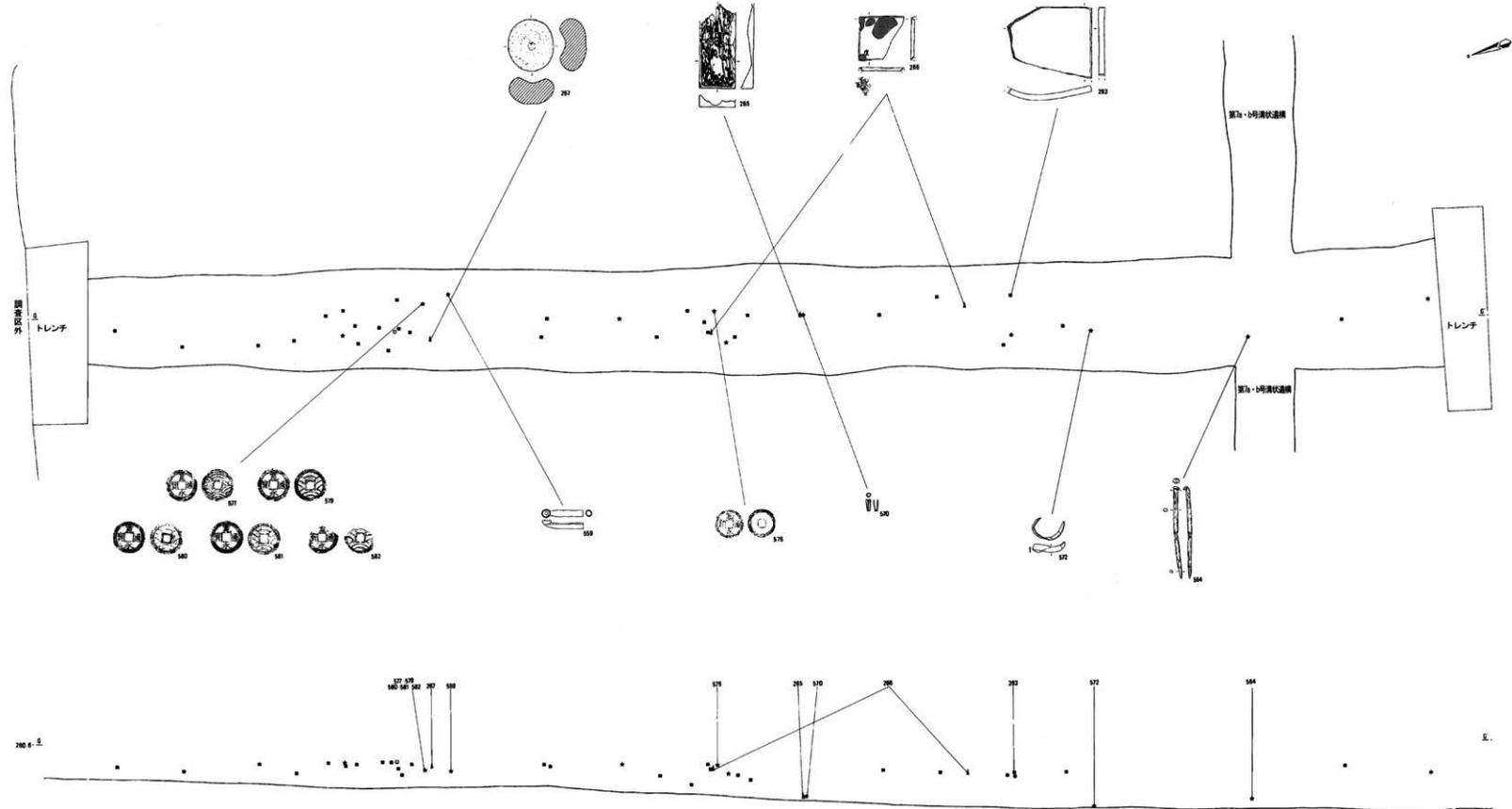


0 2m



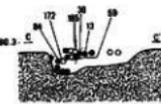
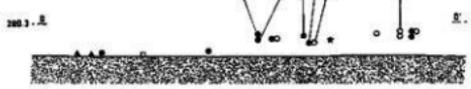
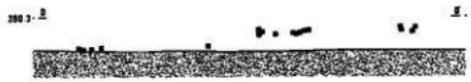
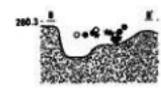
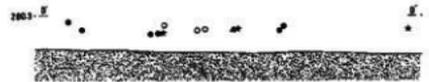
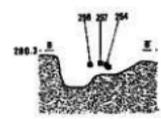
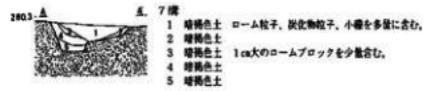
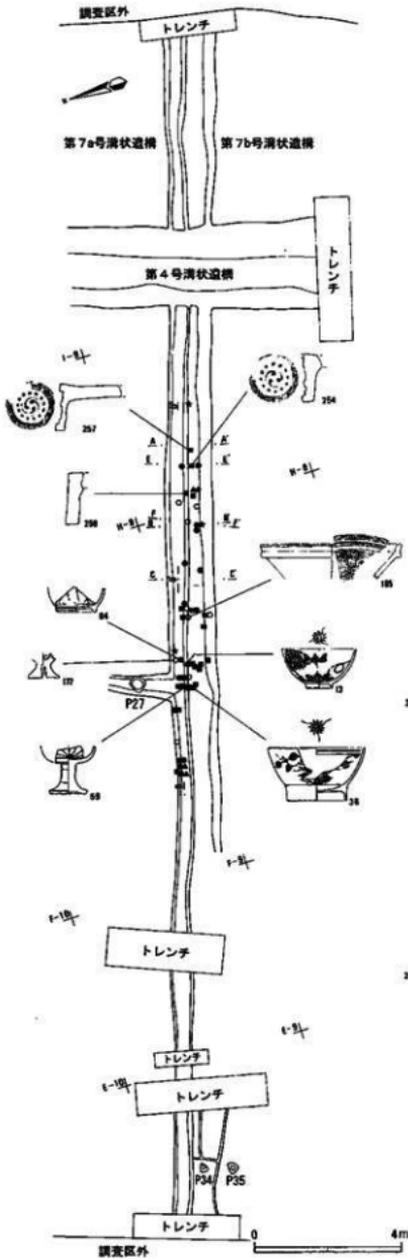






- 瓦
- 金属製品
- 石材類
- ガラス
- 自然遺物
- 炭化材



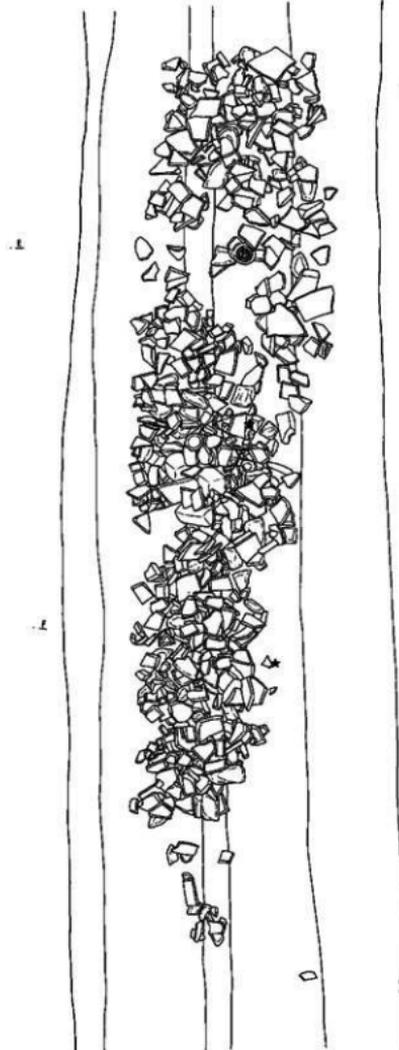


- 磁器
- 陶器
- ▲ 土器
- ▽ 瓦
- ◆ 金属製品
- ◇ 炭化材



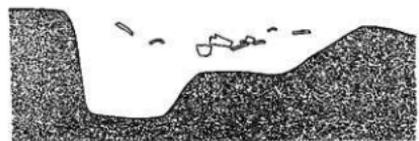
第7a号溝状遺構

第7b号溝状遺構



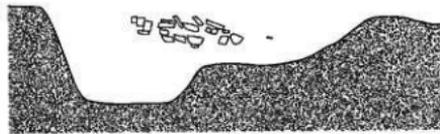
E.

280.2. E.



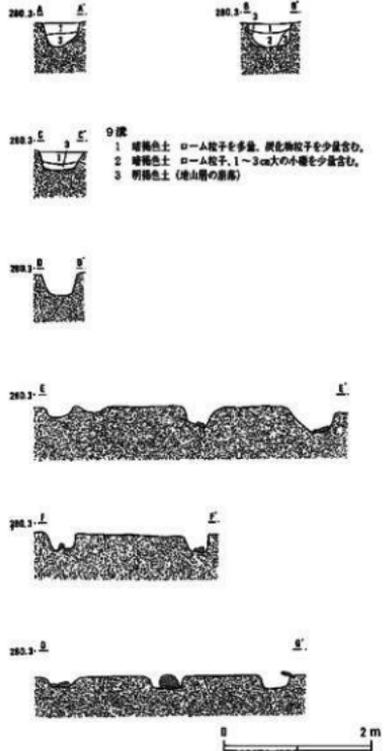
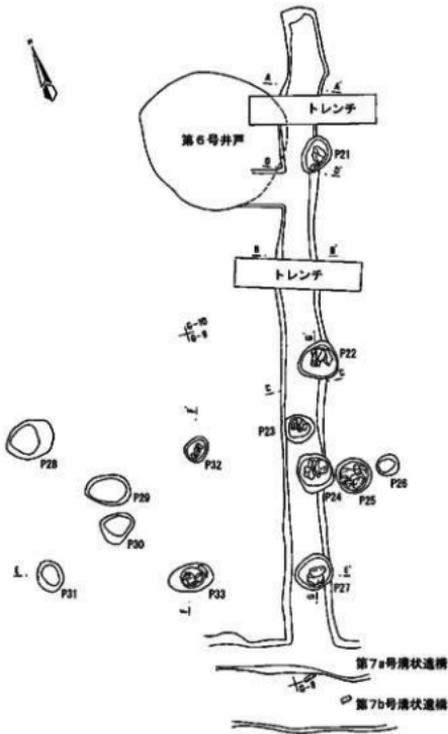
E.

280.3. E.

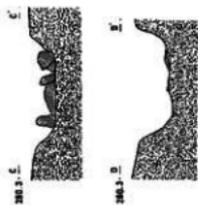


★ 金属製品

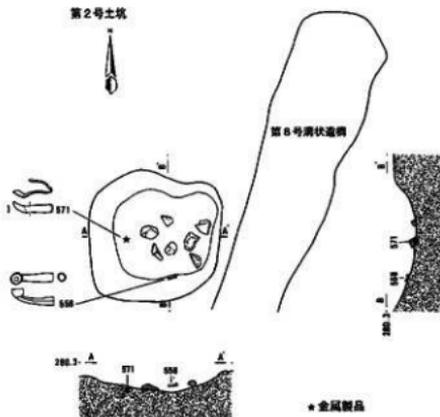




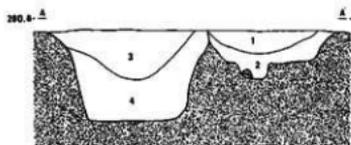
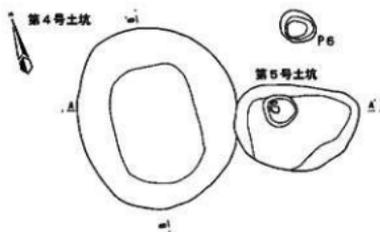
第1・3号土坑



第2号土坑



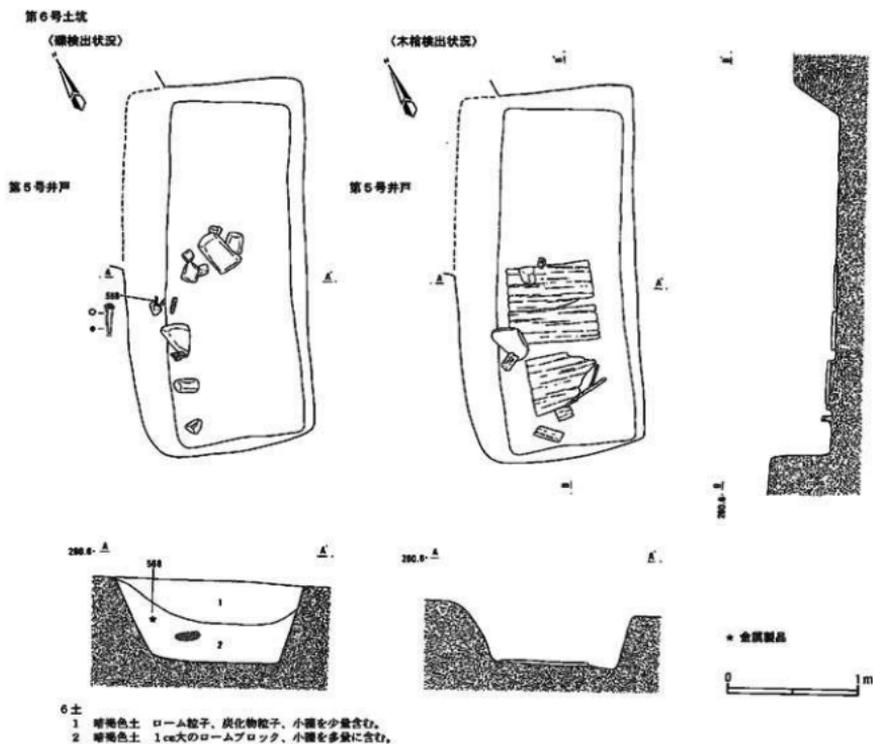
第4・5号土坑



4・5土

- 1 黒褐色土 5mm~1cm次のローム粒子、炭化物を多量に含む。
- 2 暗褐色土 底部にロームブロックを多量に含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 4 茶褐色土 ロームブロックを多量に含む。

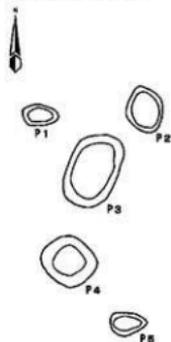




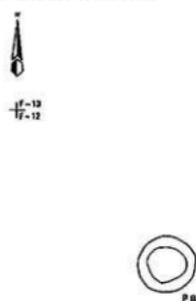
0土

- 1 暗褐色土 ローム粒子、炭化物粒子、小礫を少量含む。
2 暗褐色土 1cm大のロームブロック、小礫を多量に含む。

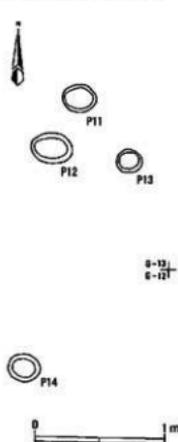
E-13グリッド周辺ピット群

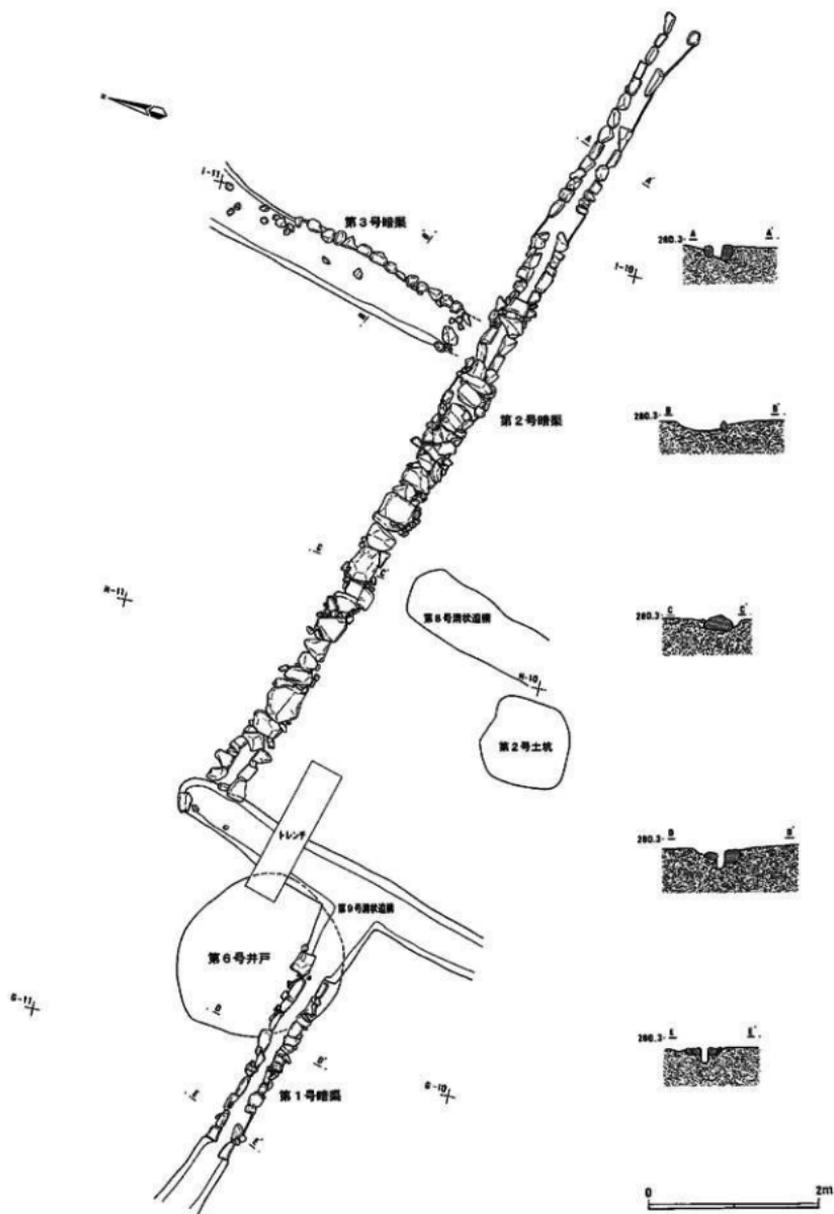


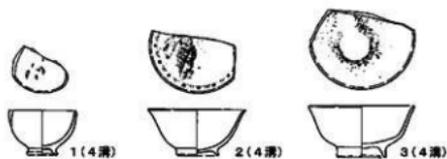
F-12グリッド周辺ピット群



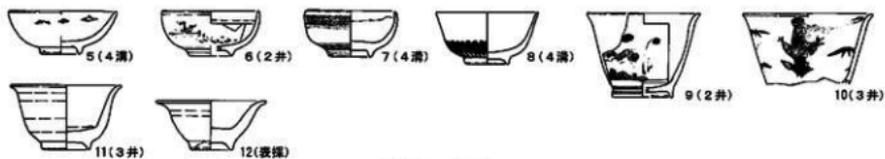
G-12・13グリッド周辺ピット群



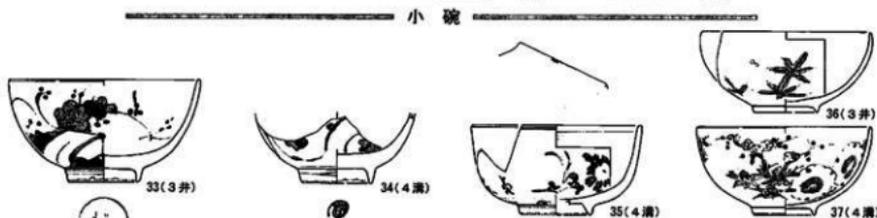




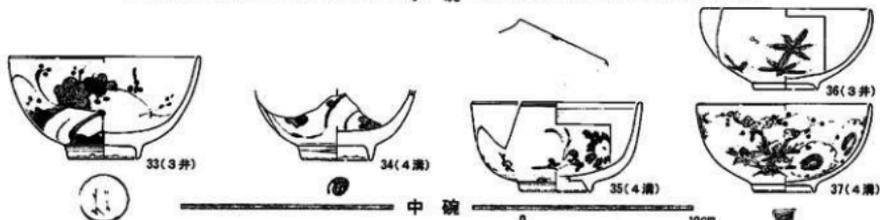
薄手酒杯



紅猪口・小坏

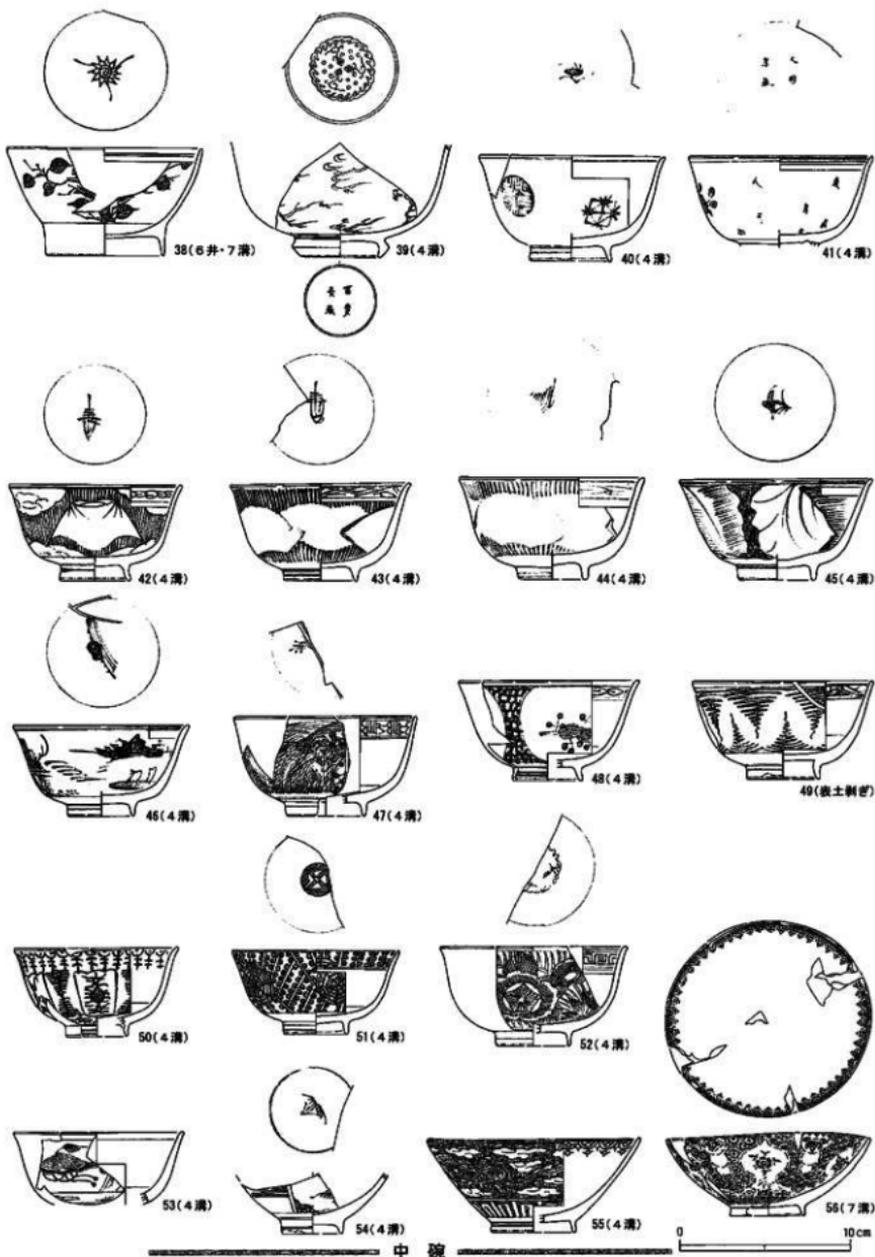


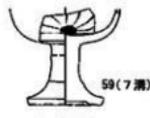
小碗



中碗

0 10cm

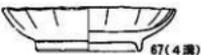
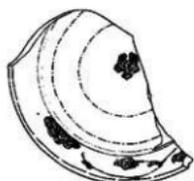




極小皿



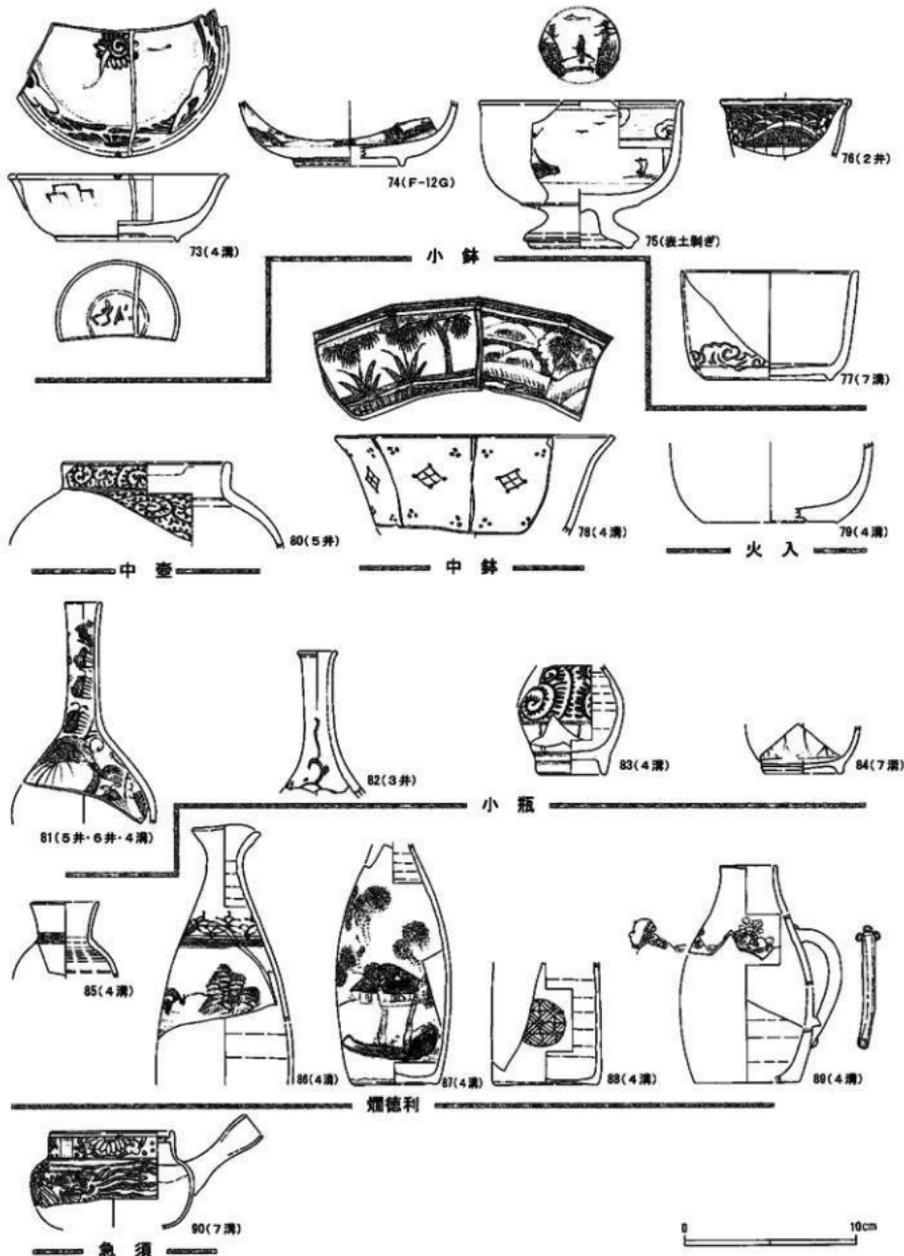
大碗

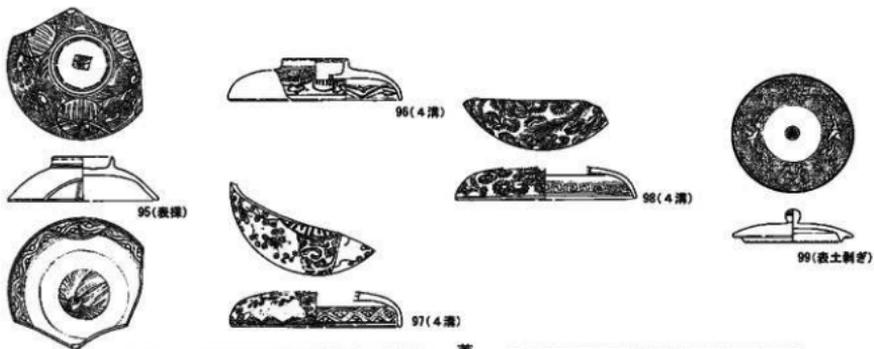
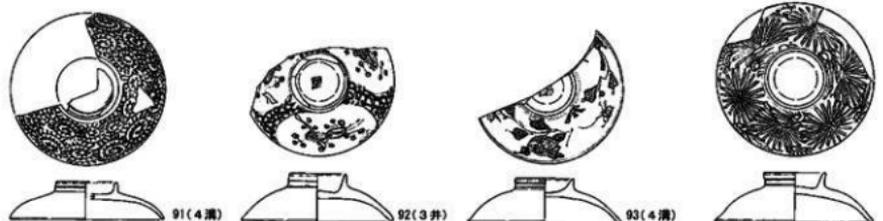


五寸皿

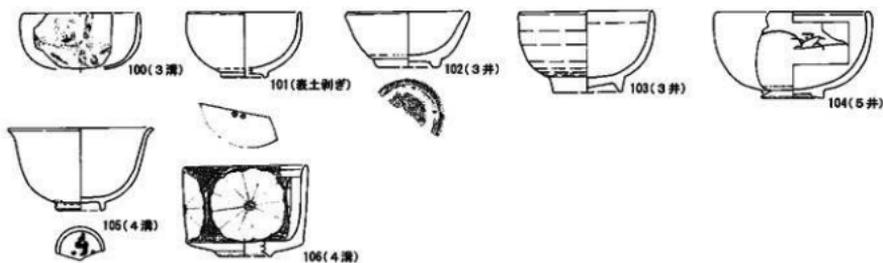


小皿

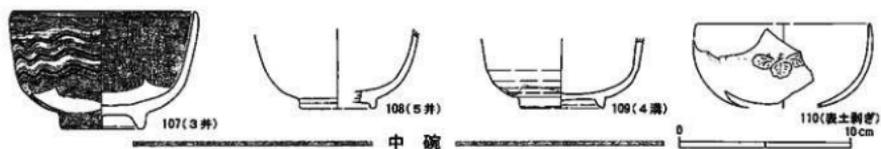




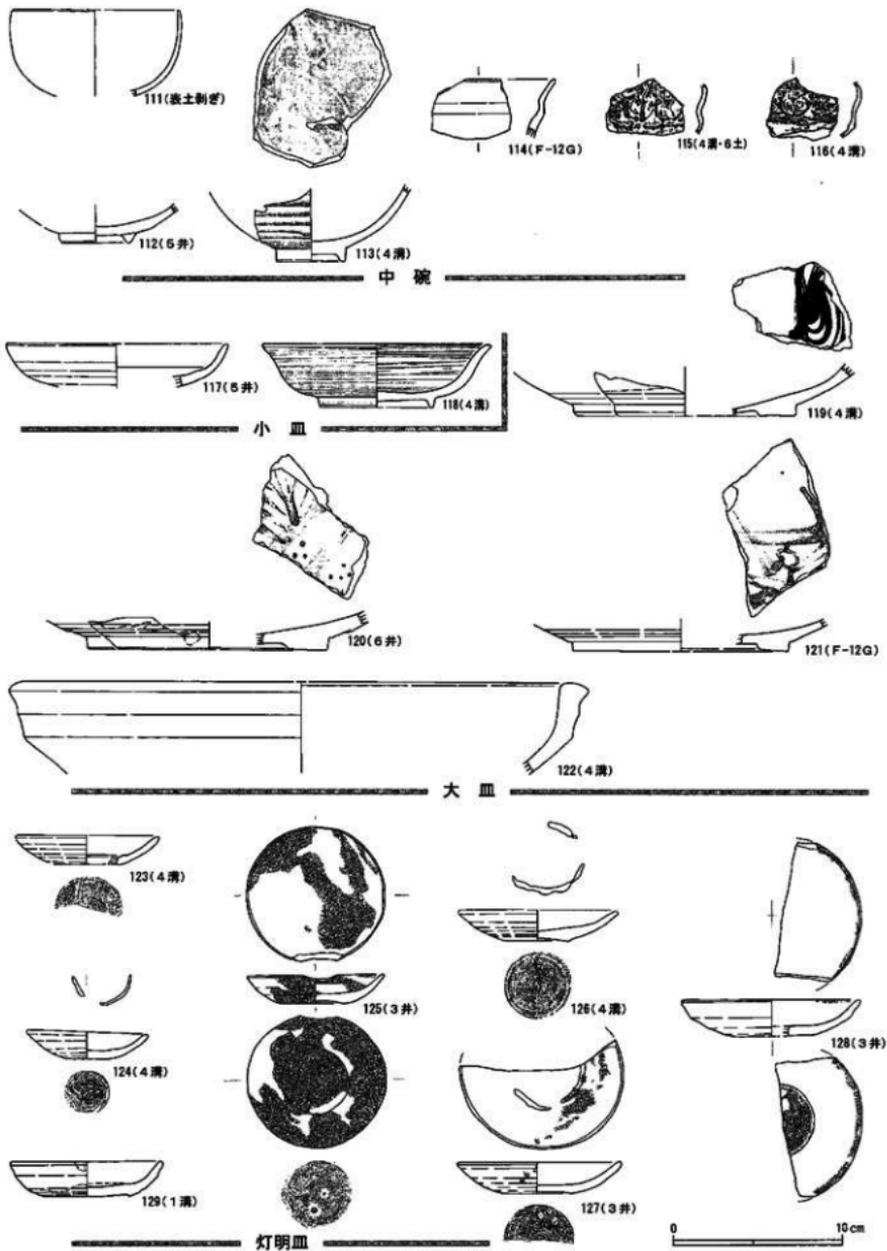
蓋



小碗

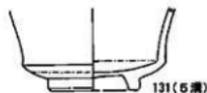


中碗



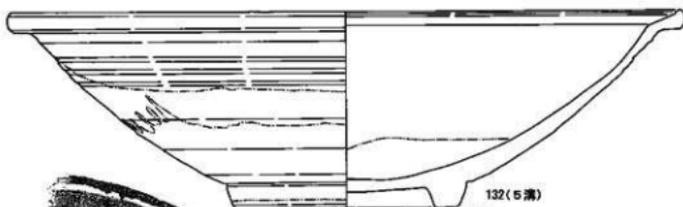
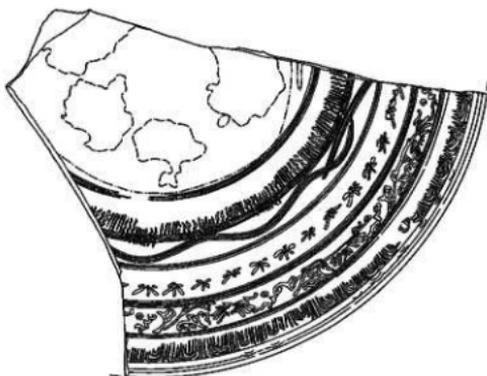


130(3并)



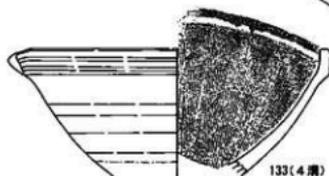
131(5并)

小鉢

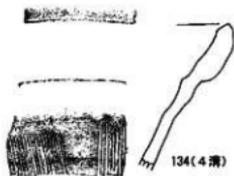


132(5并)

大鉢

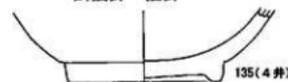


133(4并)



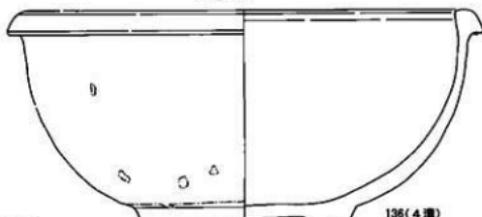
134(4并)

顔撞鉢・撞鉢



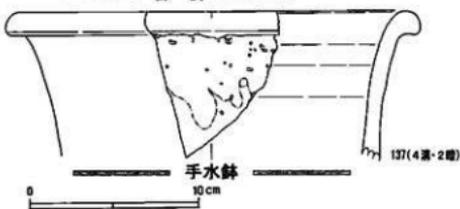
135(4并)

縁鉢



136(4并)

捏鉢



137(4並・2樽)

手水鉢



138(4并)

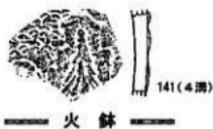
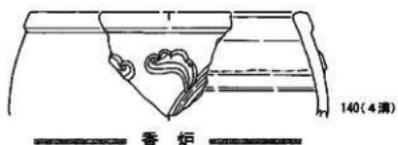
火入



139(G-3 G)

香炉

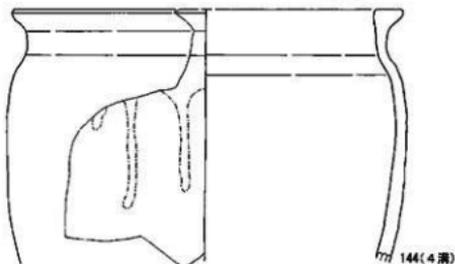
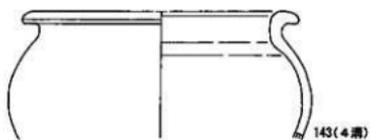




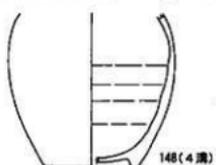
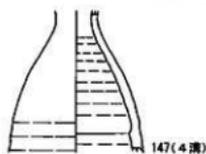
香炉

火鉢

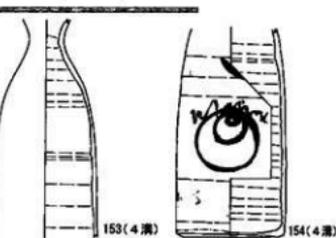
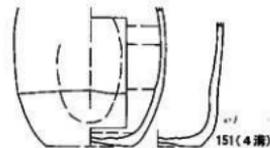
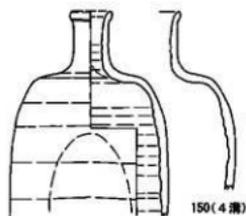
餌猪口



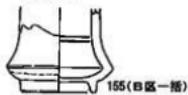
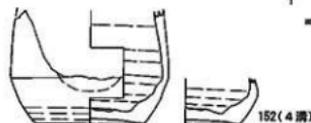
甕



小瓶

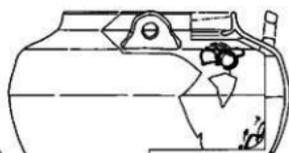
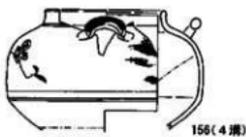


燗徳利

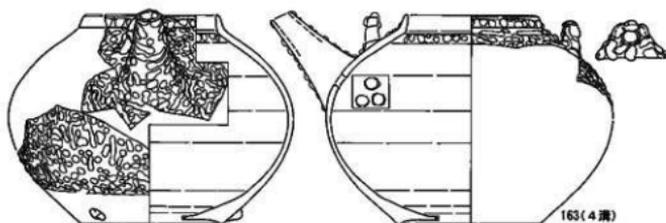
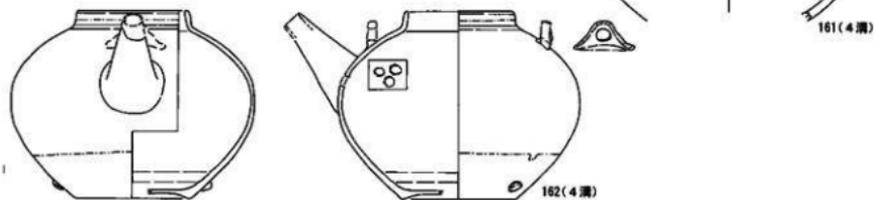
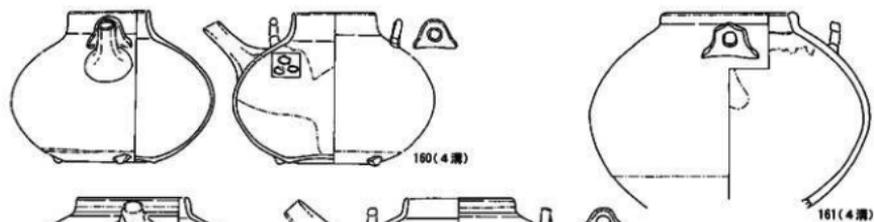


中瓶

仏花瓶



土瓶



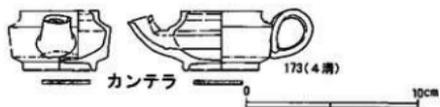
土瓶

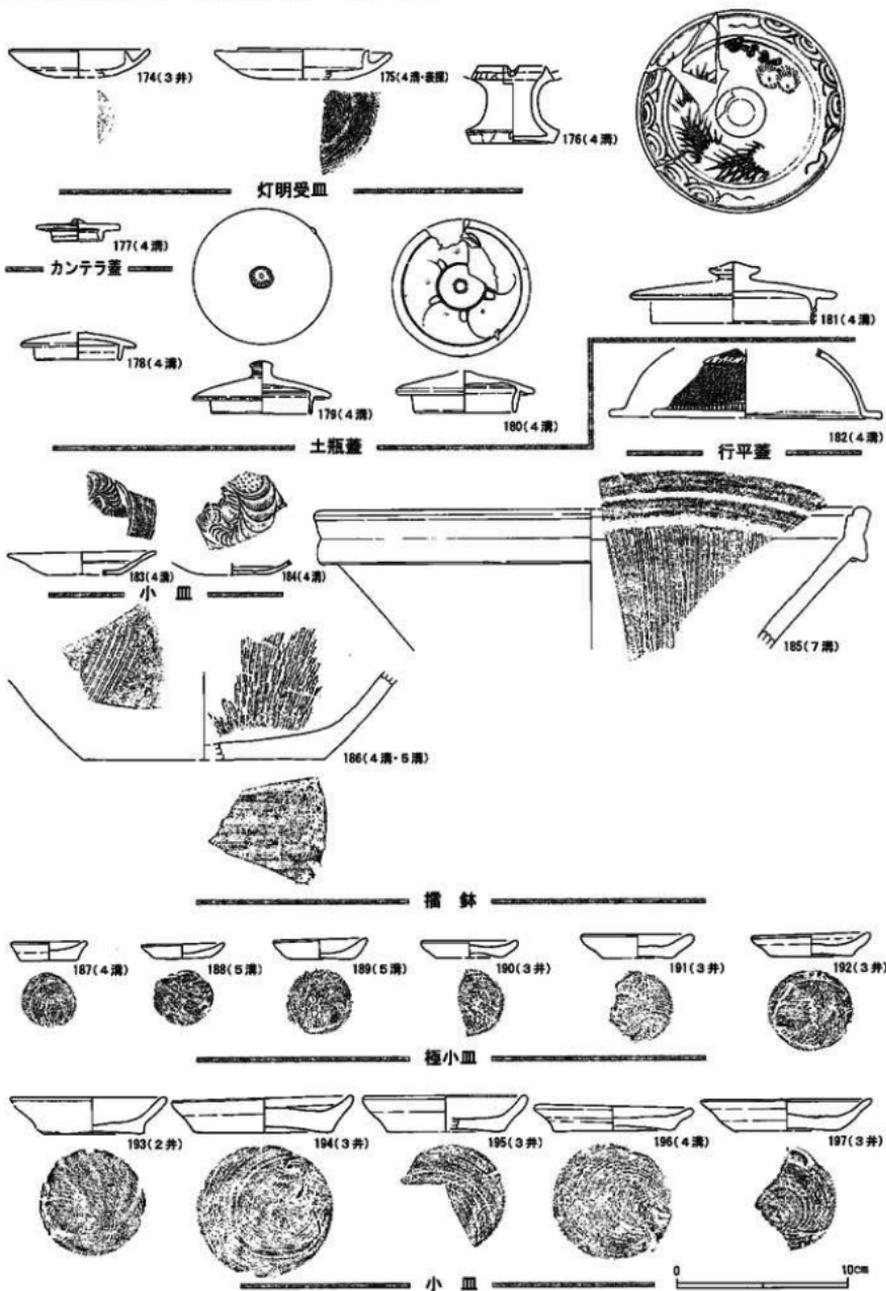


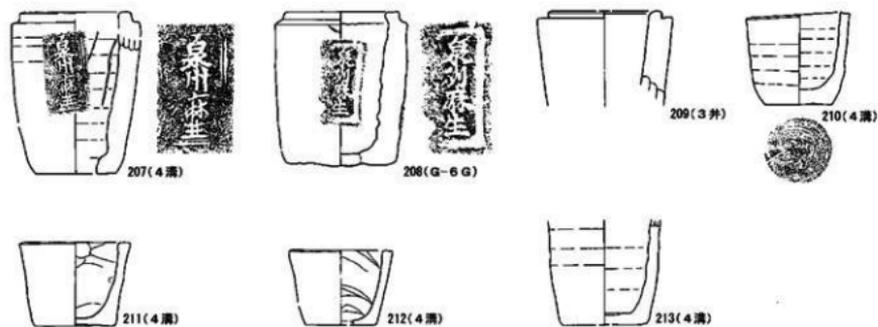
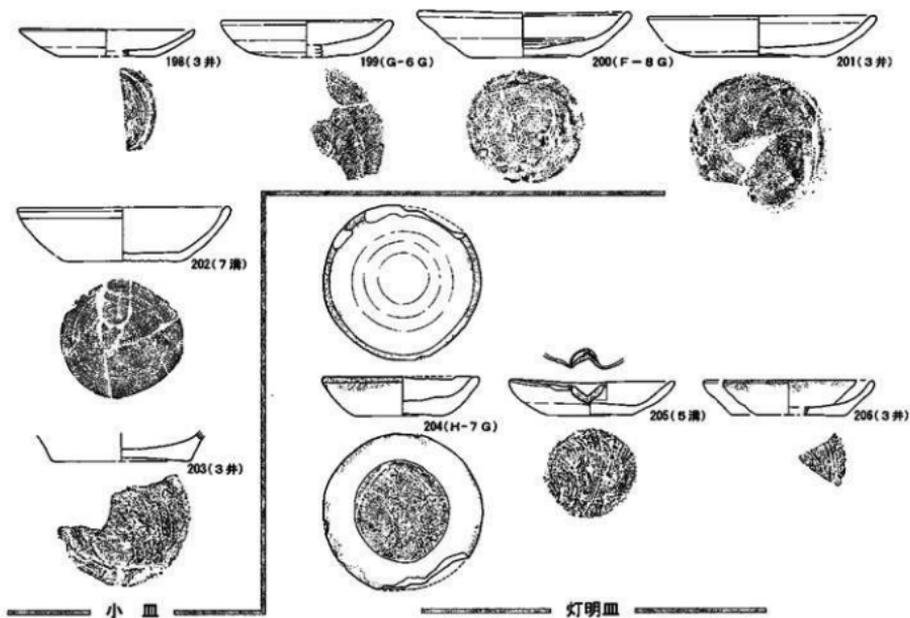
土鍋



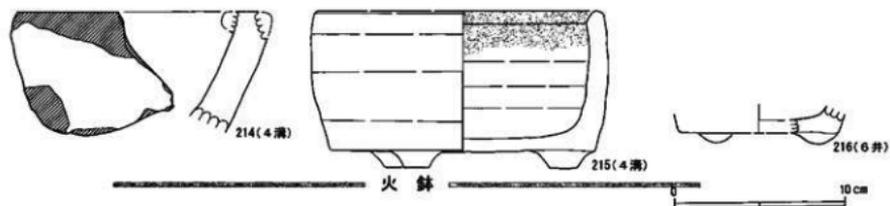
行平

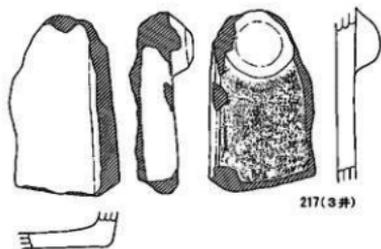






焼壺壺

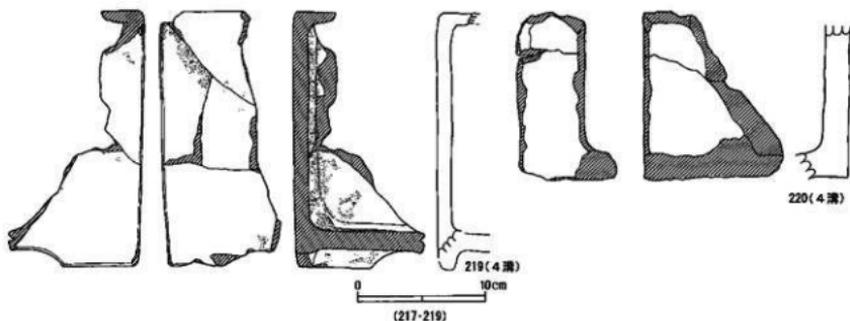




217(3片)

218(4溝)

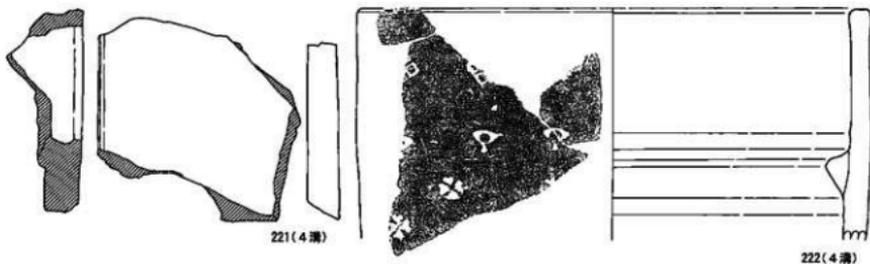
火鉢



219(4溝)

220(4溝)

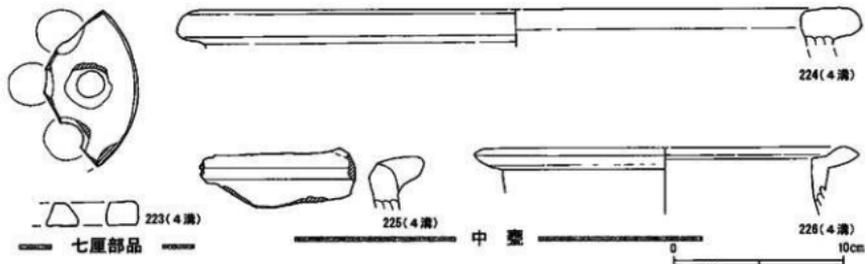
(217-219)



221(4溝)

222(4溝)

七厘・焜炉



223(4溝)

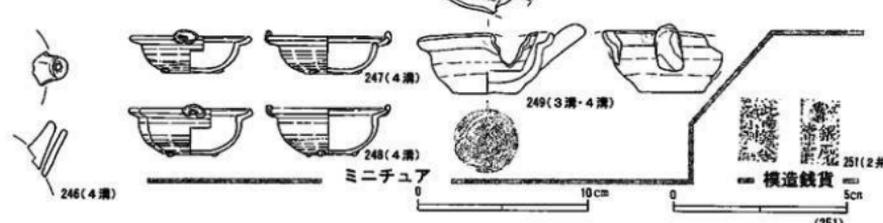
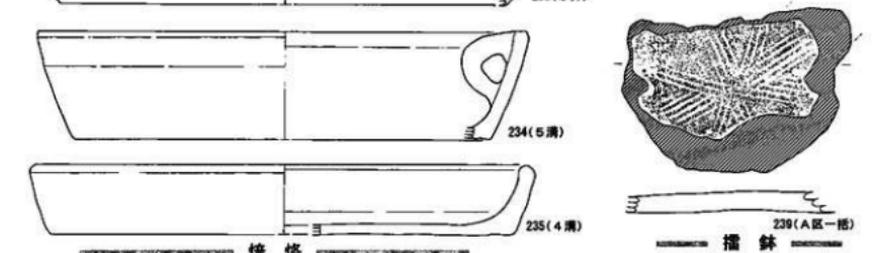
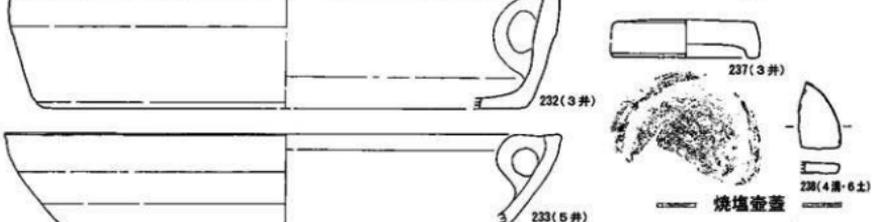
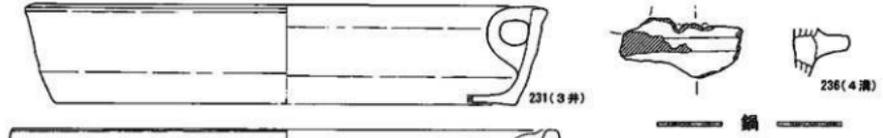
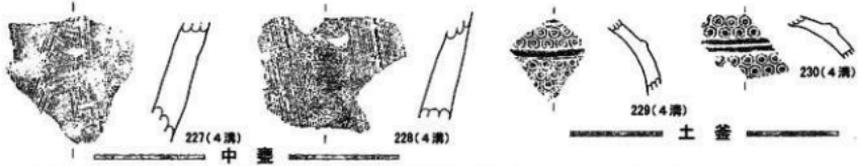
224(4溝)

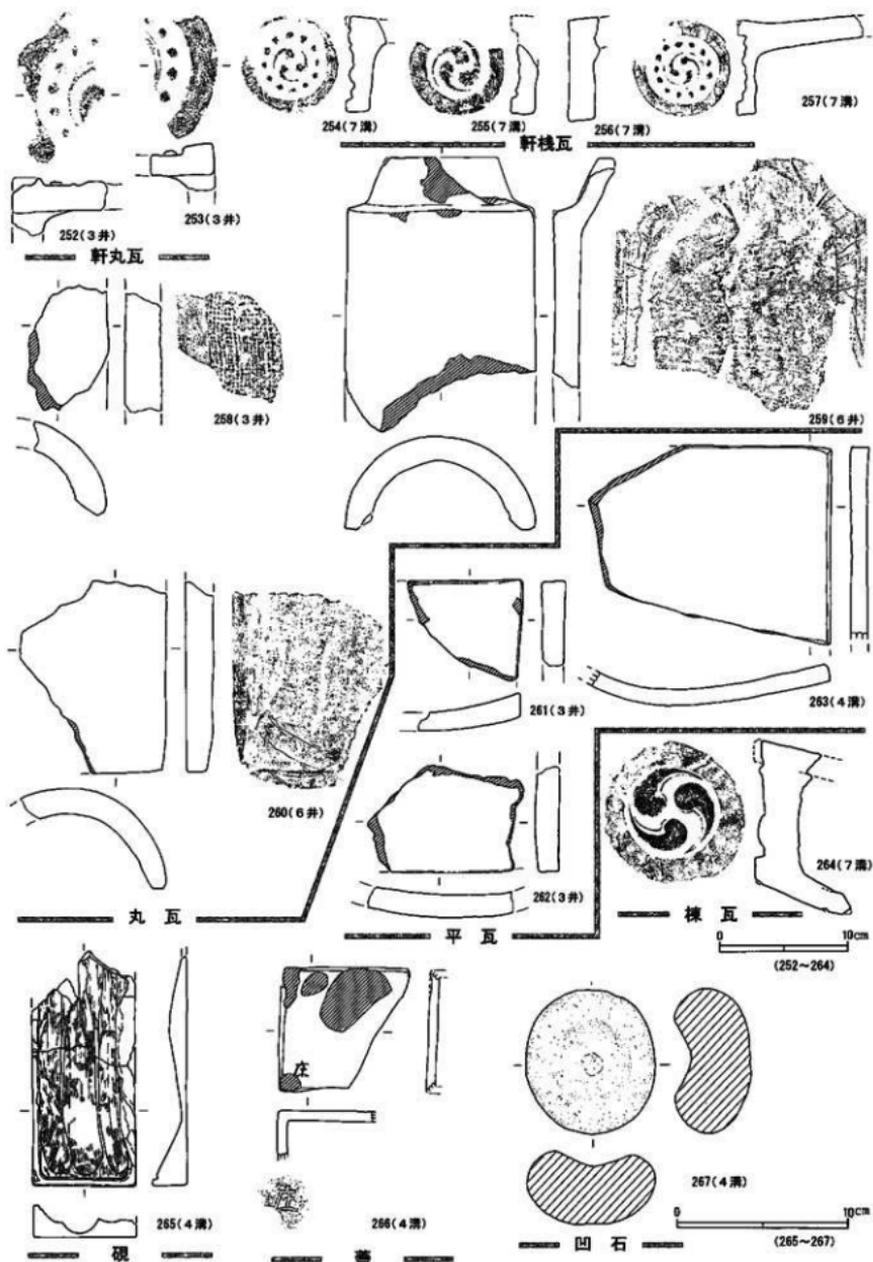
225(4溝)

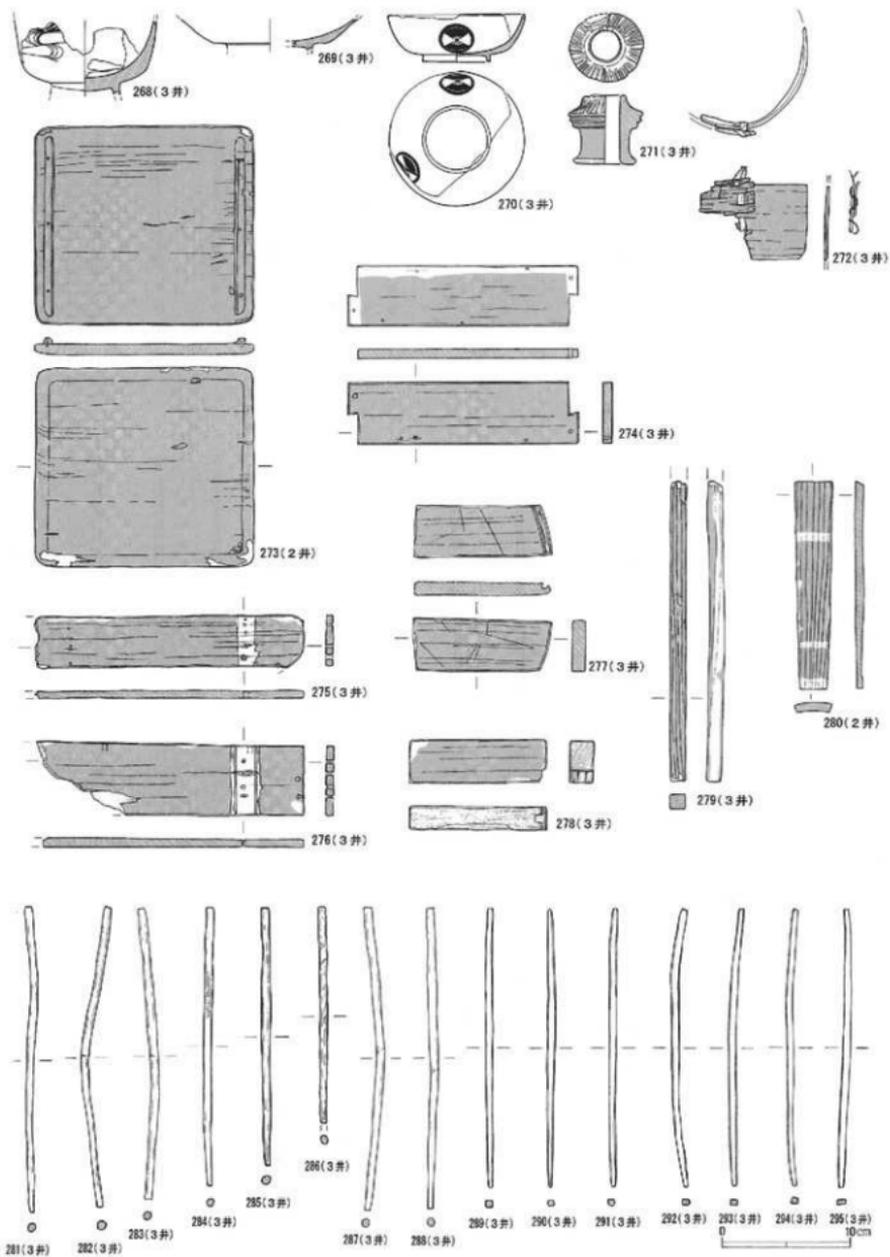
228(4溝)

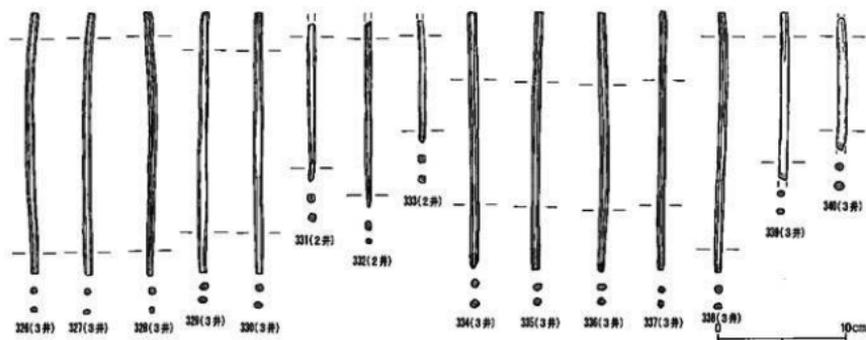
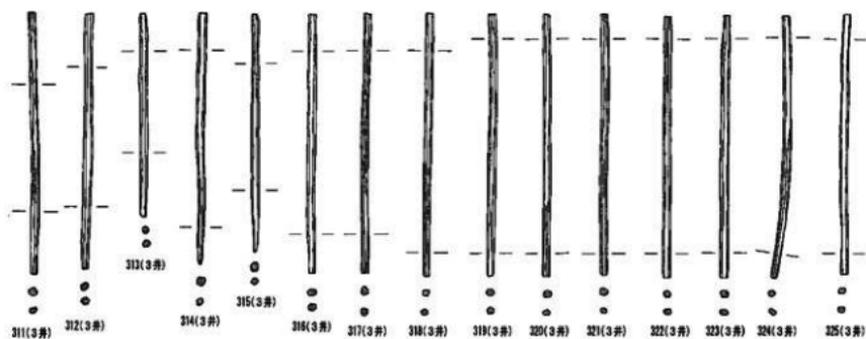
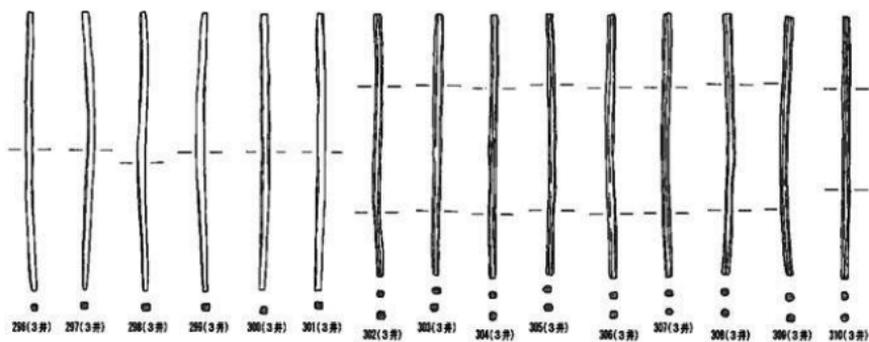
七厘部品

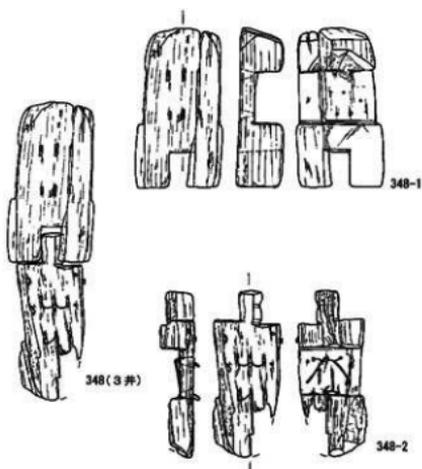
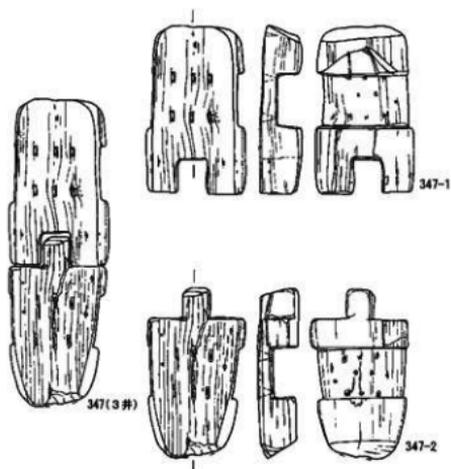
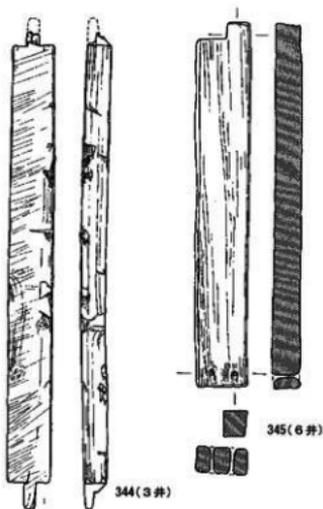
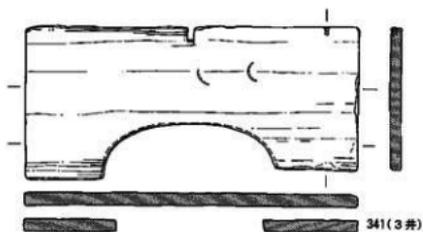
中壺

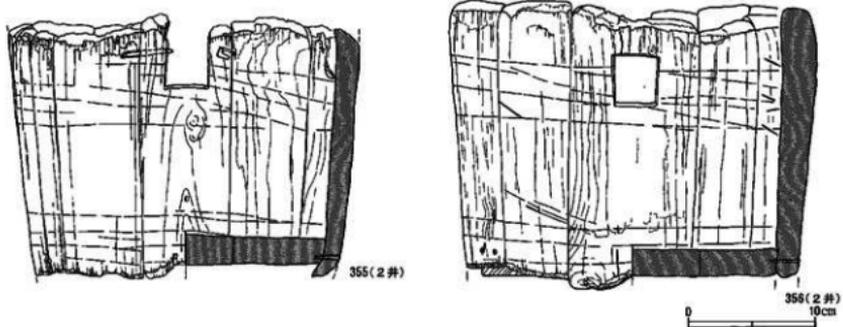
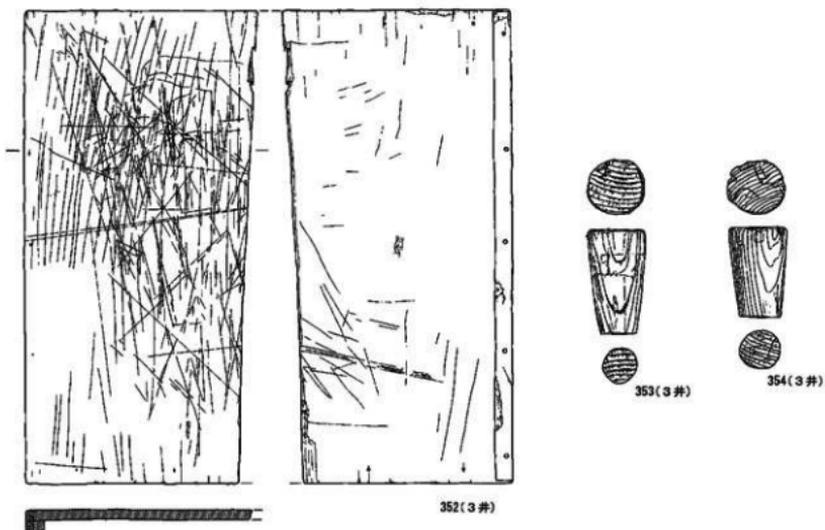
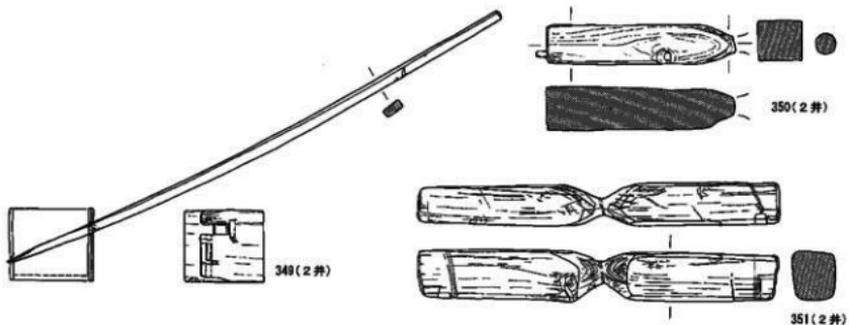


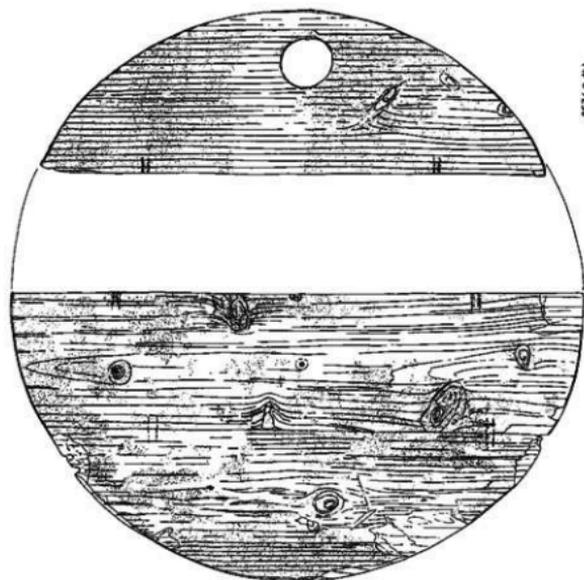








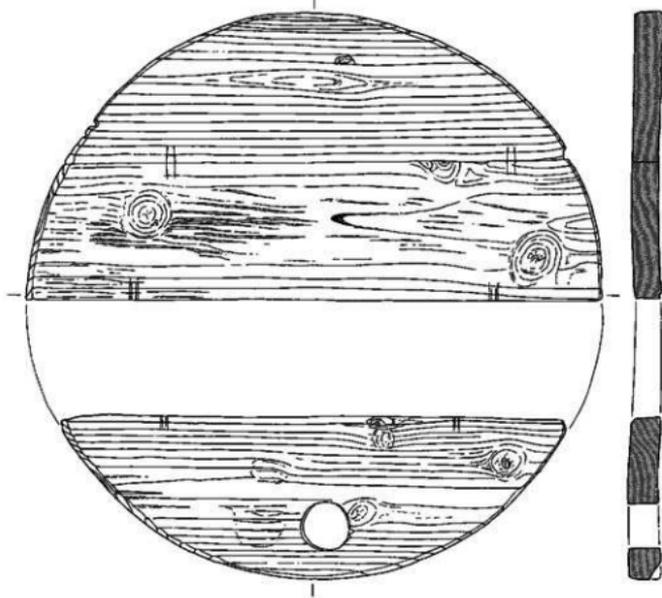


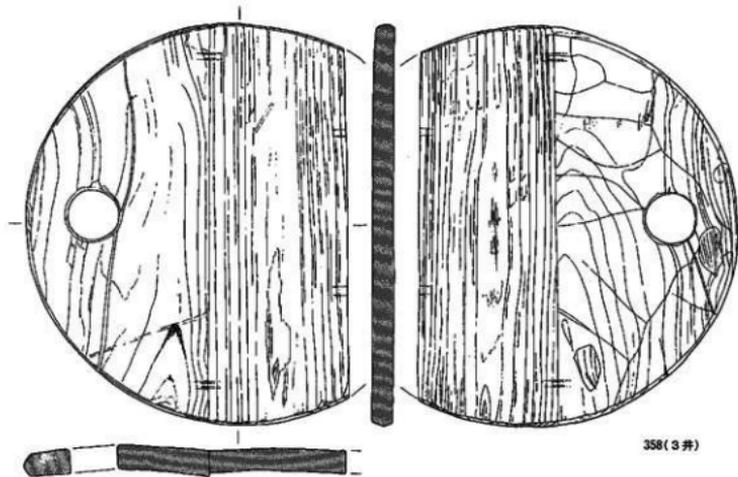


357(3并)

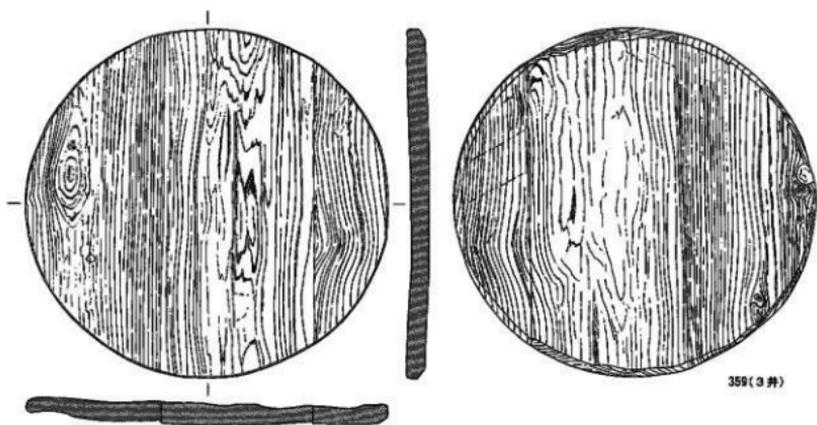


分器部組立図

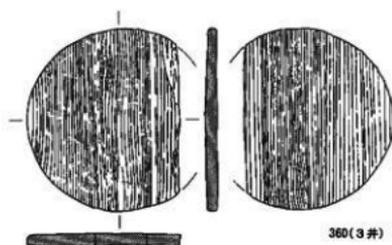




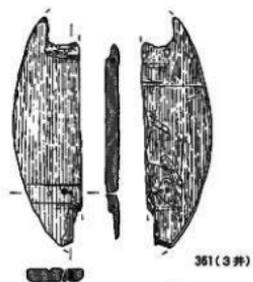
358(3并)



359(3并)

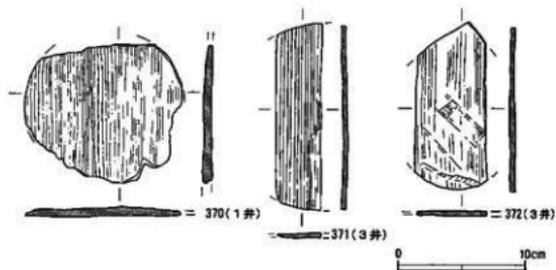
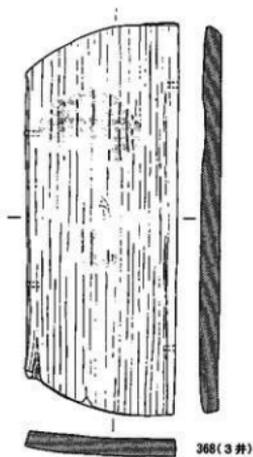
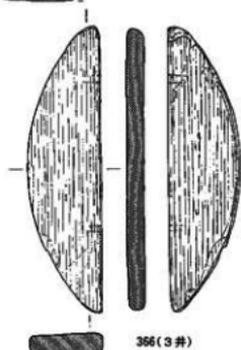
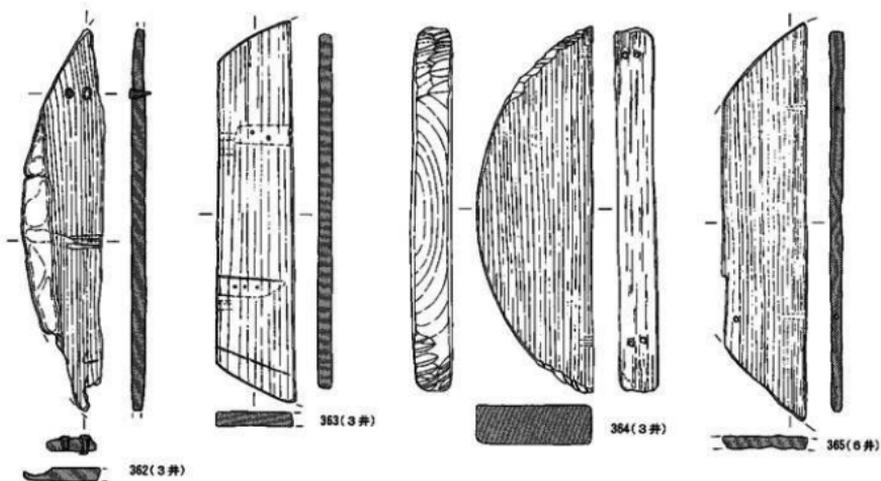


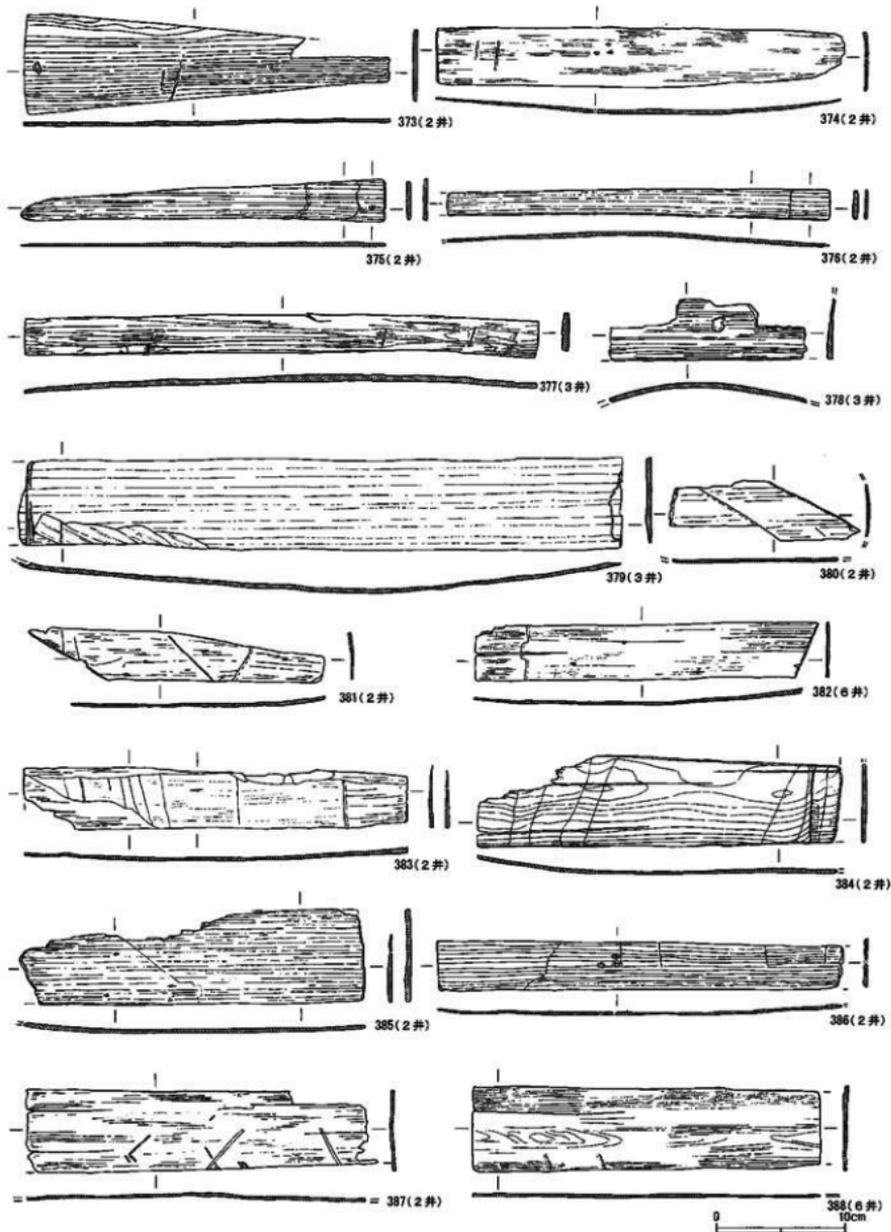
360(3并)

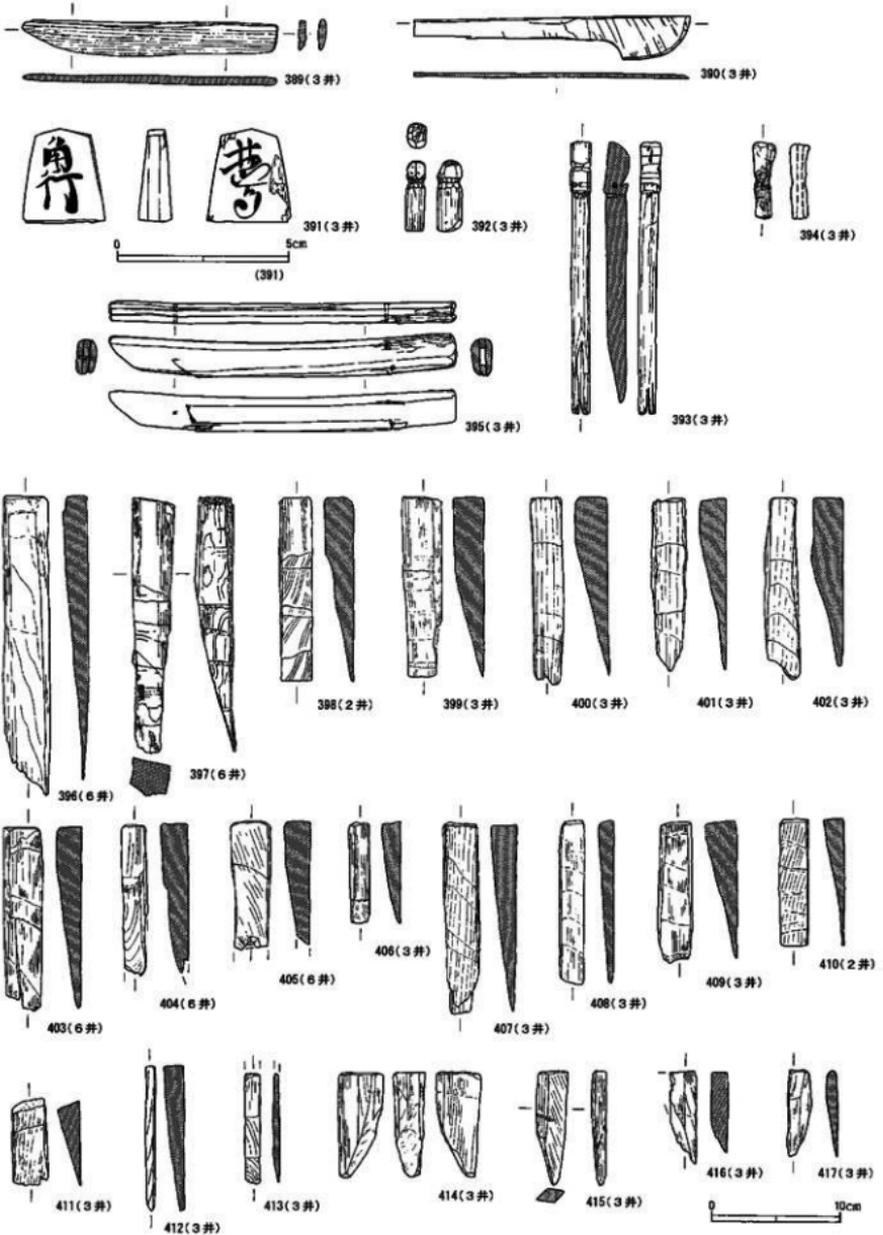


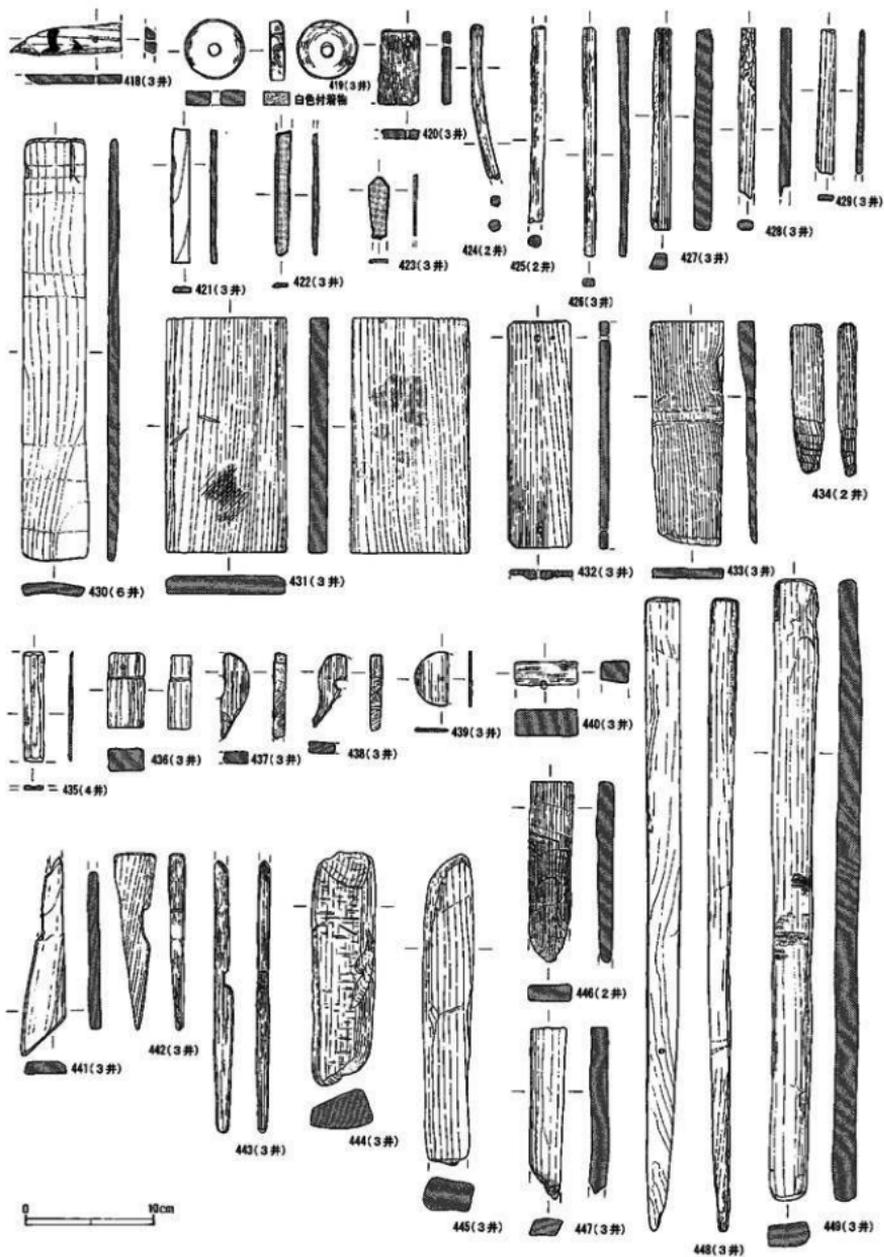
361(3并)

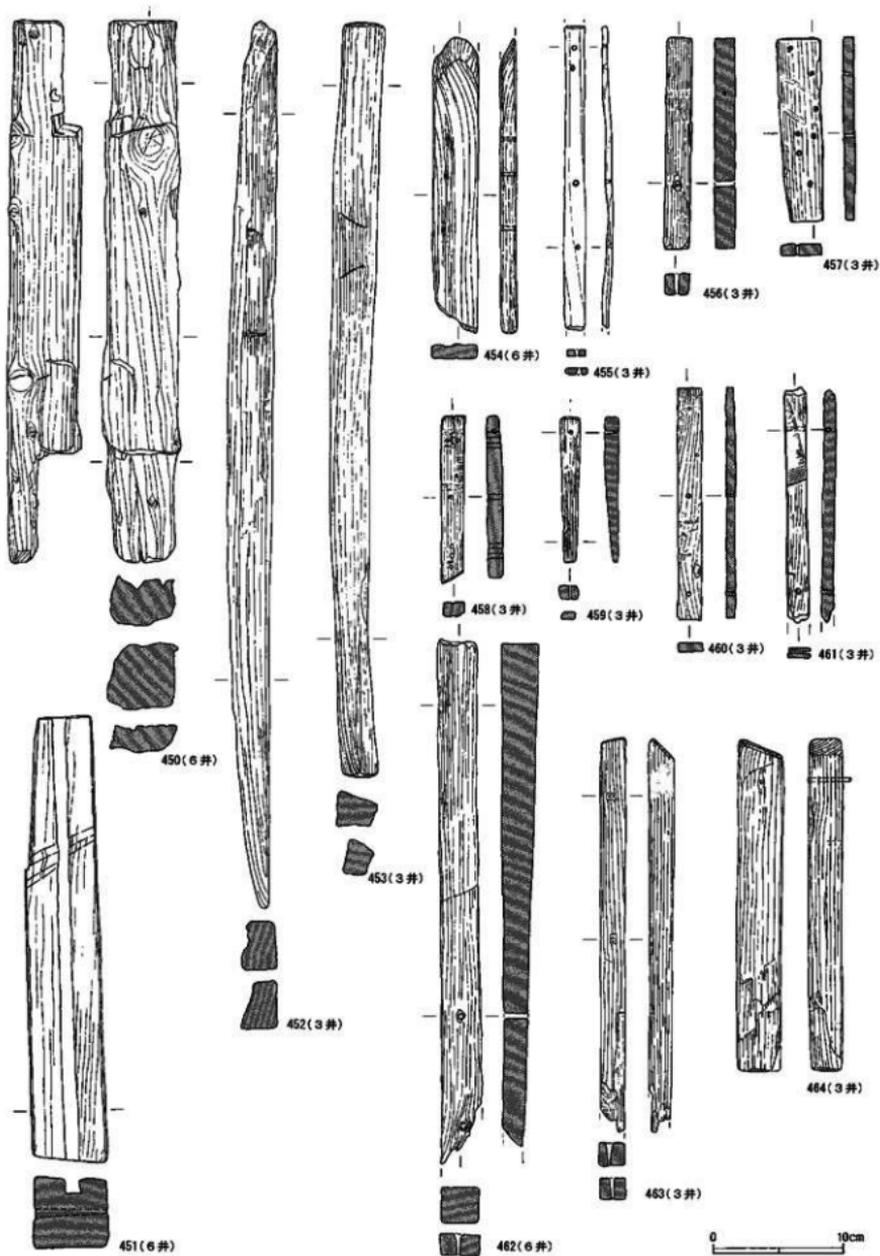


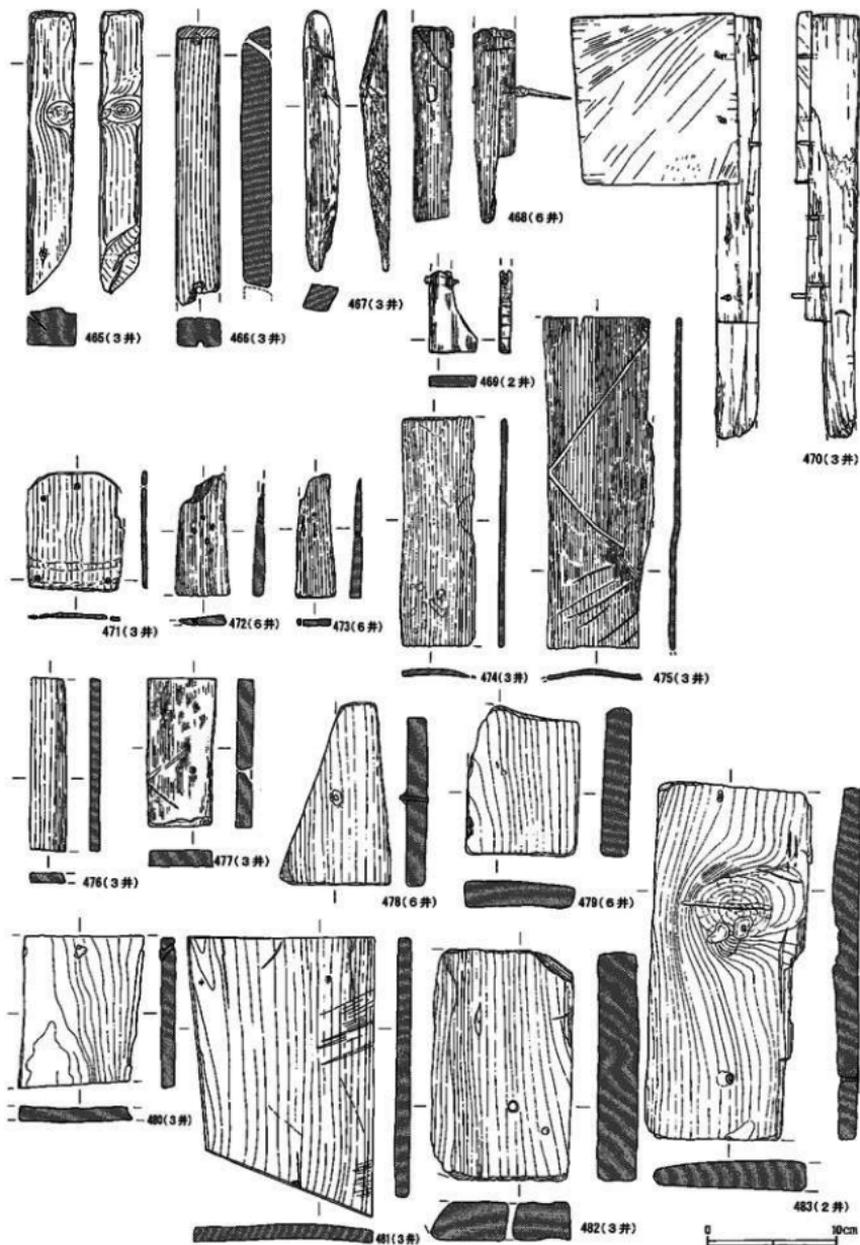


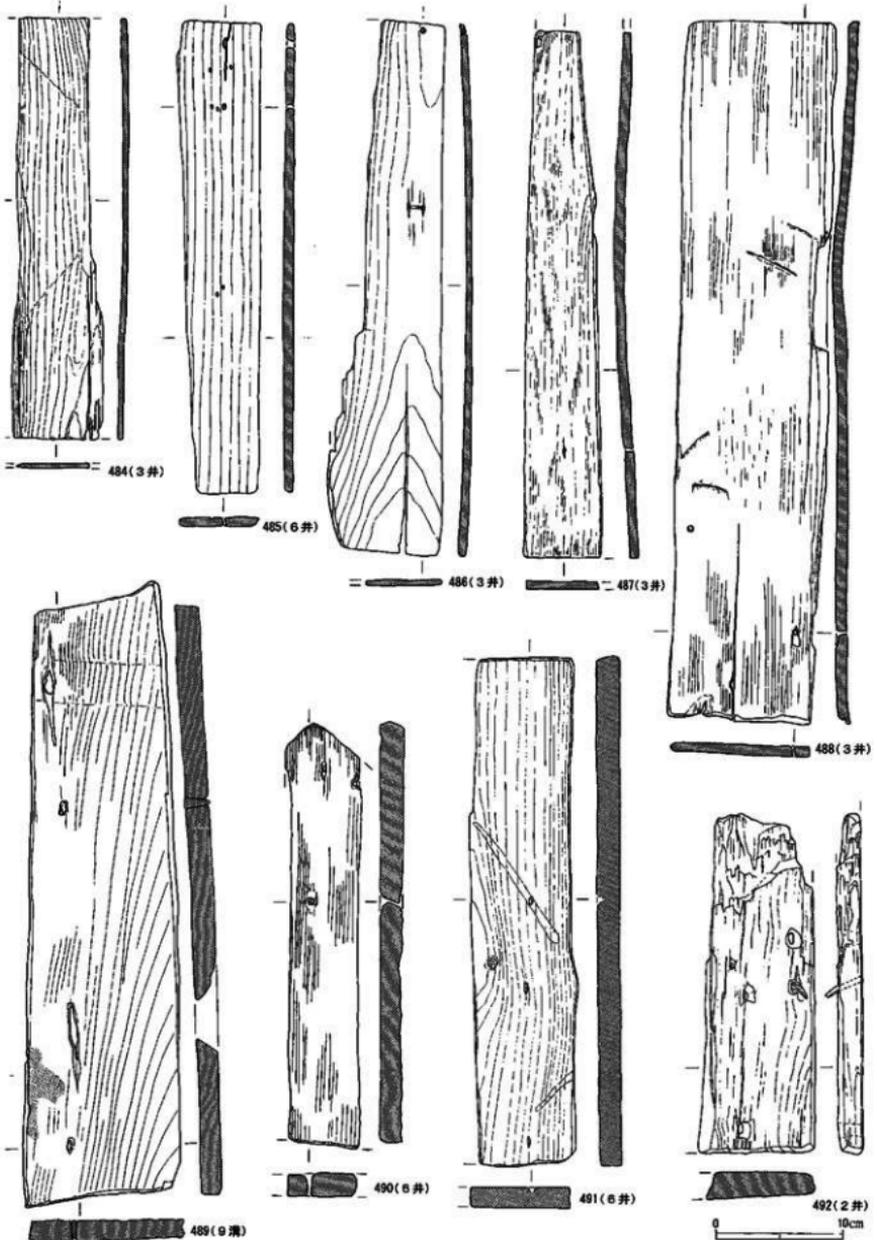


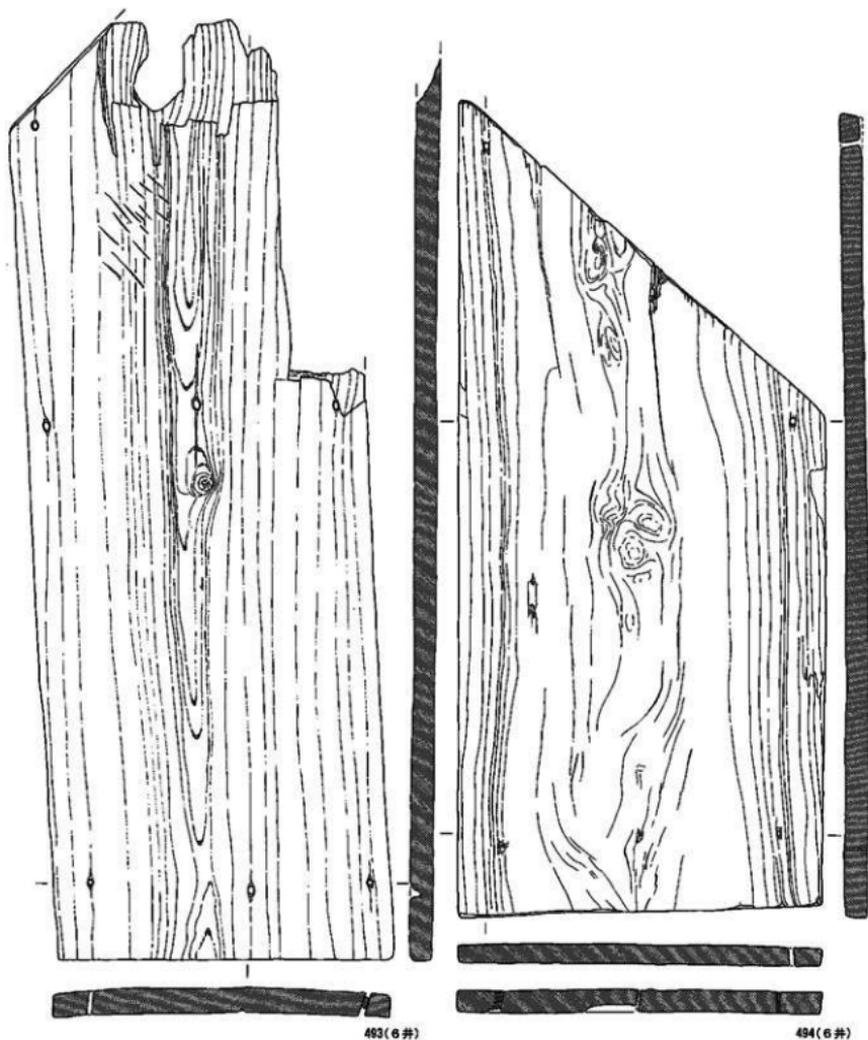


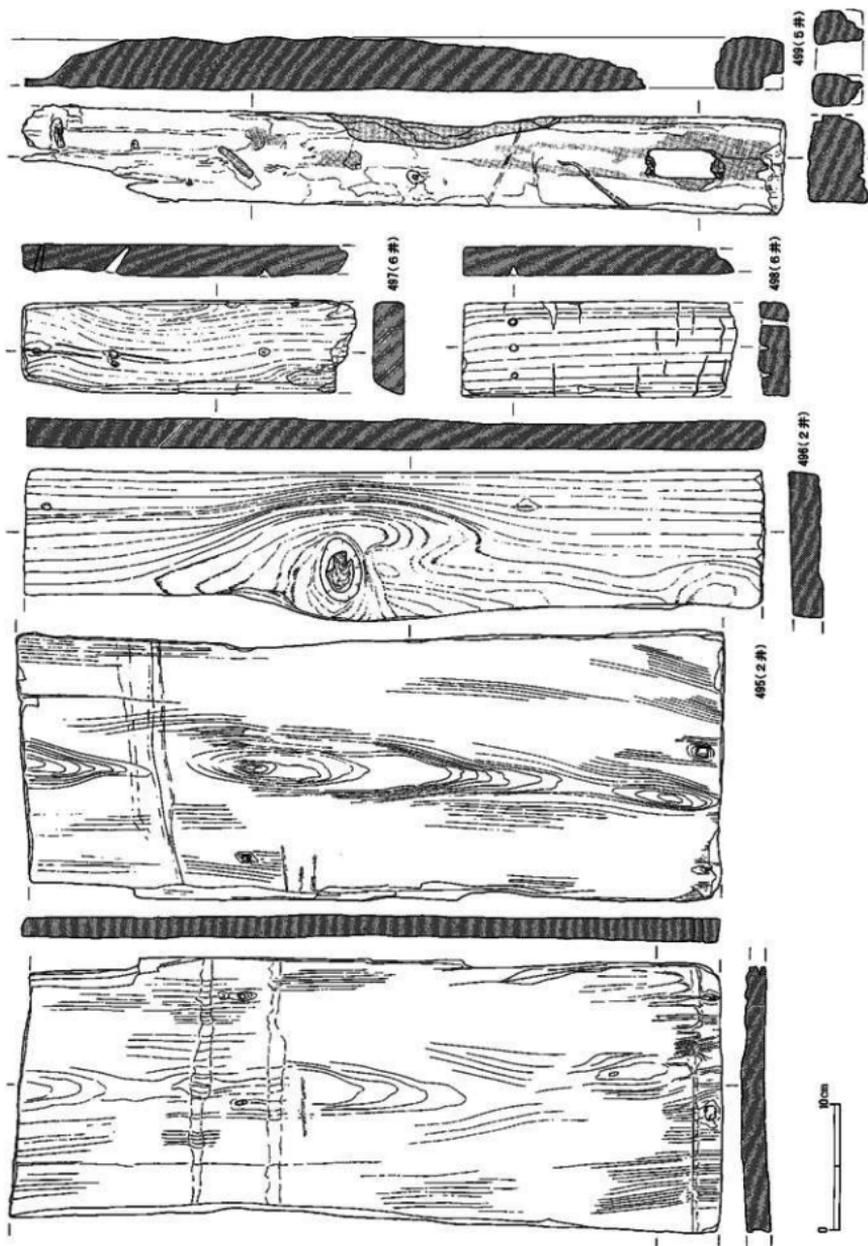


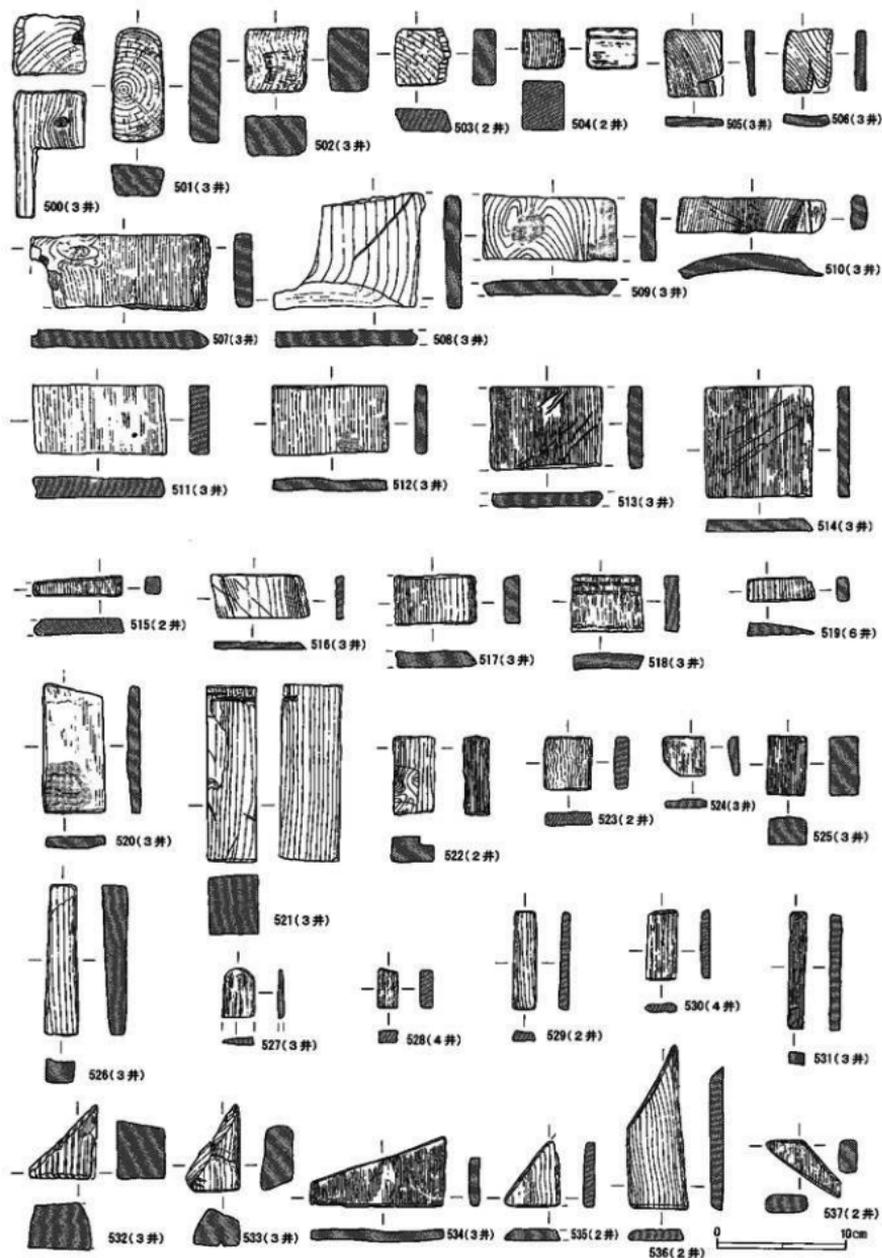


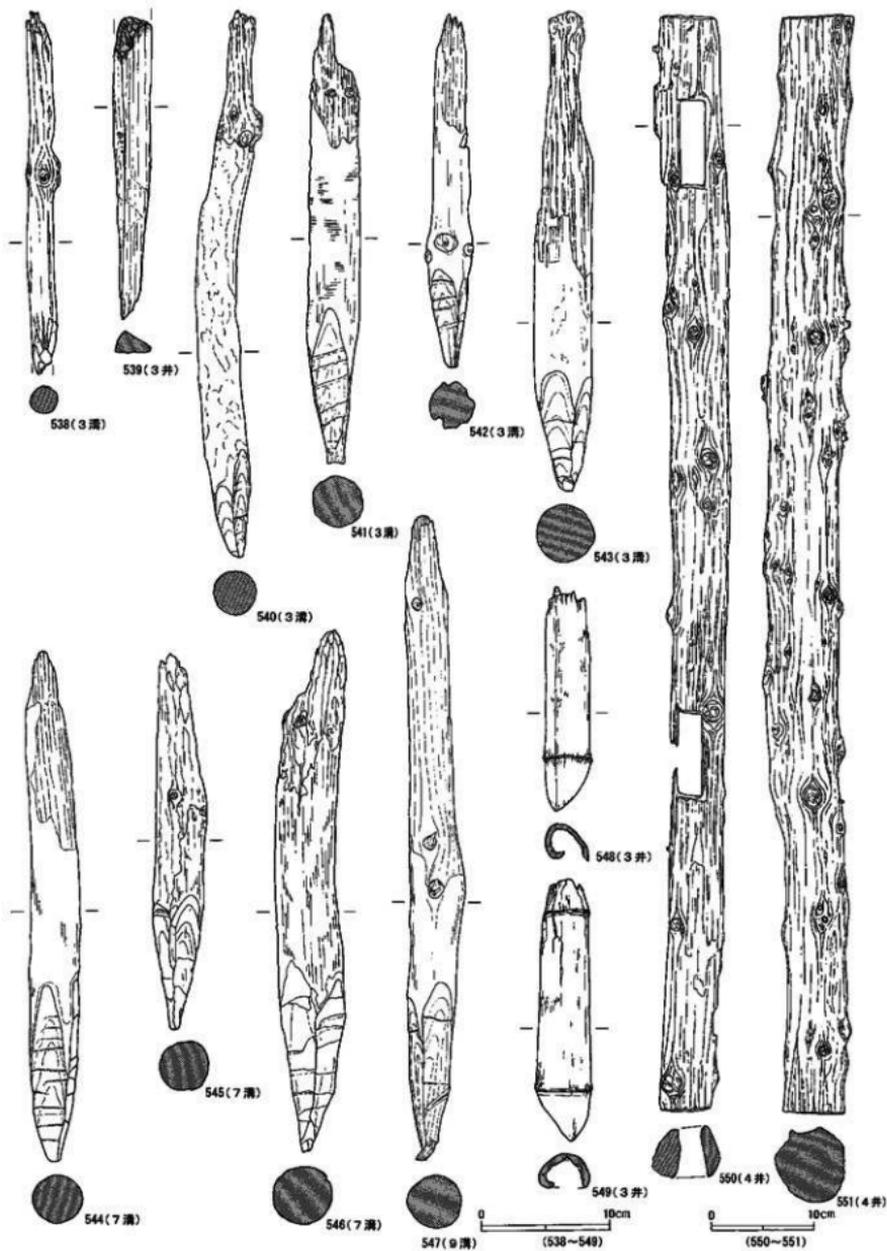










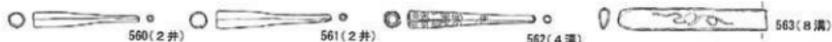
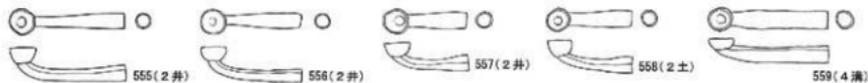




0 10cm

(552~554)

箭・縄



0 10cm

鉄・銅製品

(555~573)



0 5cm

(574~584)

銭貨

写真図版



第2号井戸桶出
(井戸桶5段目)



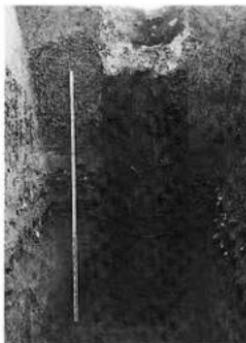
A区 全景



B区 全景



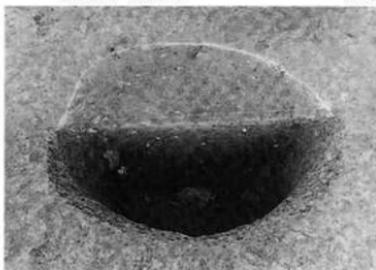
第1号井戸（東から）



第2号井戸検出状況（西から）



第2号井戸半截状況（西から）



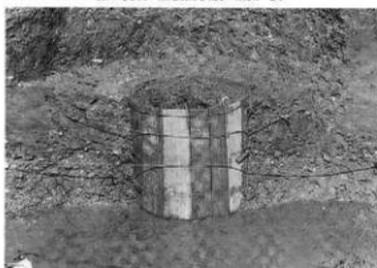
第3号井戸半截状況（南から）



第4号井戸確検出状況（南から）



第5号井戸確検出状況（東から）



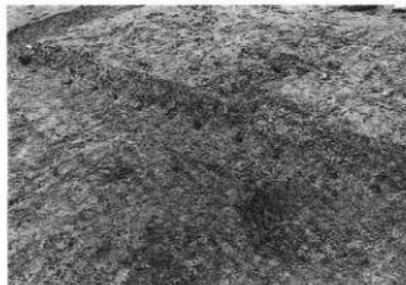
第6号井戸確検出状況（南から）



第1号溝状遺構 (南から)



第2号溝状遺構確認状況 (北から)



第3号溝状遺構 (南から)



第4号溝状遺構 (北から)



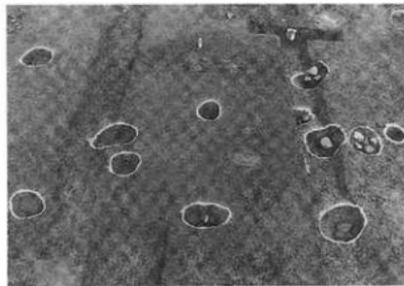
第4号溝状遺構確認状況 (南から)



第5・6号溝状遺構 (南から)



第8号溝状遺構 (南から)



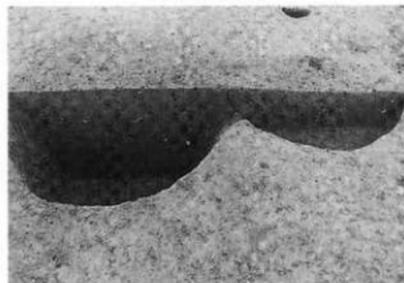
第9号溝状遺構・第21～33号ビット (南から)



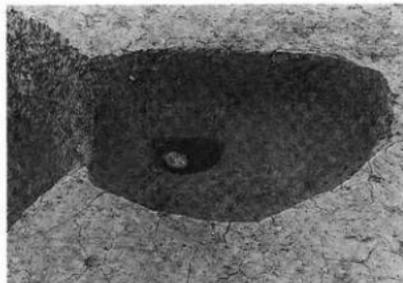
第1号土坑（西から）



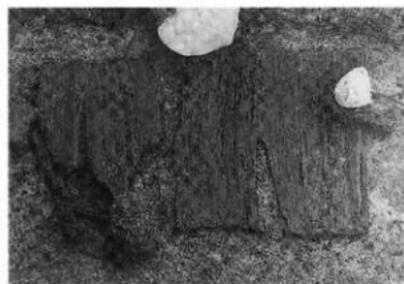
第2号土坑（南から）



第4・5号土坑半断面状況（南から）



第5号土坑（南から）



第6号土坑木棺横切状況（東から）



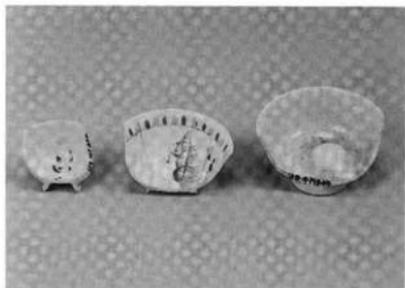
第1号暗渠（西から）



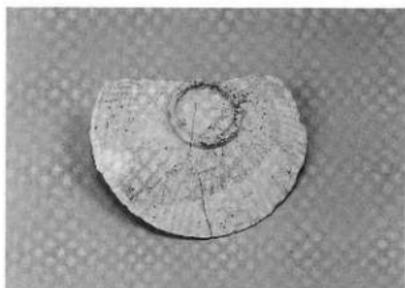
第2・3号暗渠（南から）



第41～50号ビット（南から）



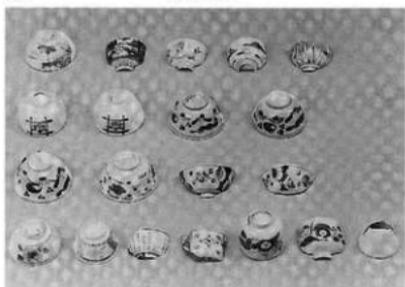
磁器 薄手酒杯



磁器 紅猪口 (1)



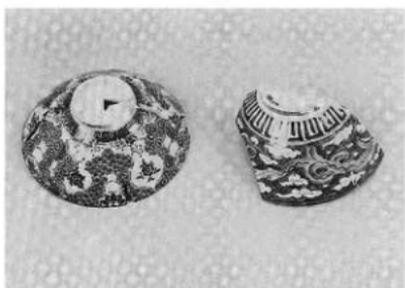
磁器 紅猪口 (2)・小杯



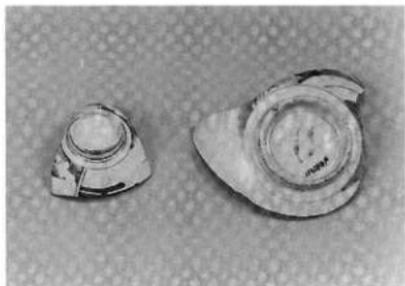
磁器 小碗



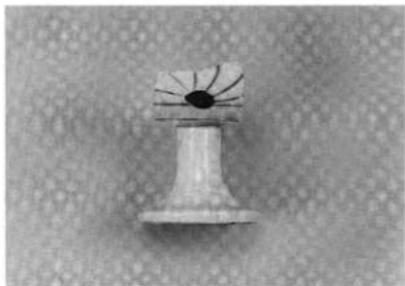
磁器 中碗 (1)



磁器 中碗 (2)



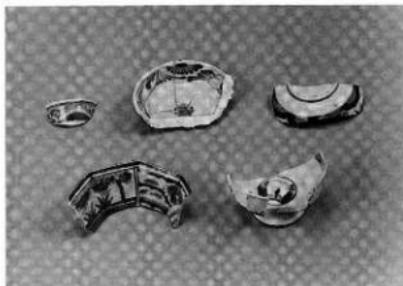
磁器 中碗 (3)・大碗



磁器 仏瓶器



磁器 種小皿・小皿・五寸皿



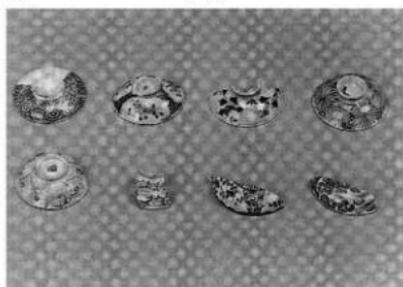
磁器 小鉢・中鉢



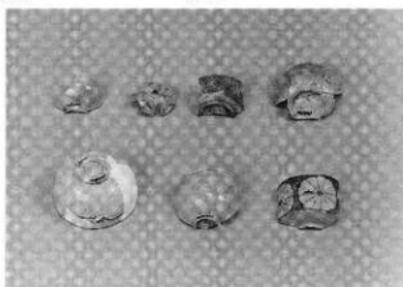
磁器 小瓶



磁器 燗徳利



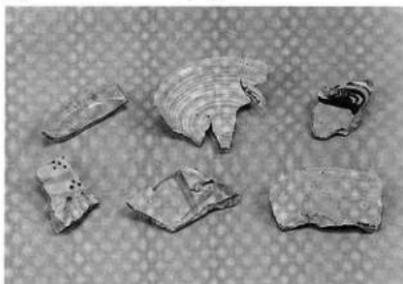
磁器 蓋



陶器 小碗



陶器 中碗



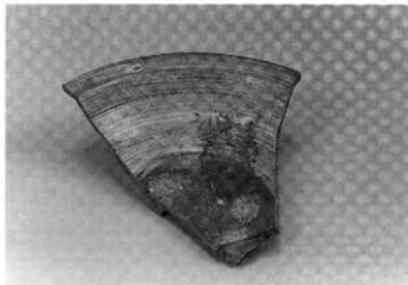
陶器 小皿・大皿



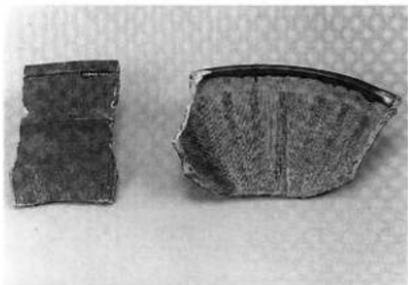
陶器 灯明皿



陶器 小鉢



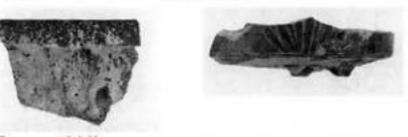
陶器 大鉢



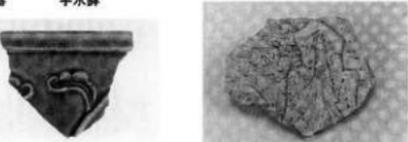
陶器 楳鉢・楳鉢



陶器 楳鉢



陶器 手水鉢



陶器 香炉

陶器 火鉢



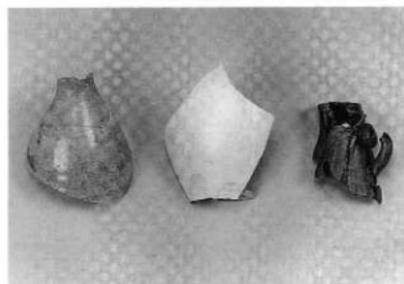
陶器 飯猪口



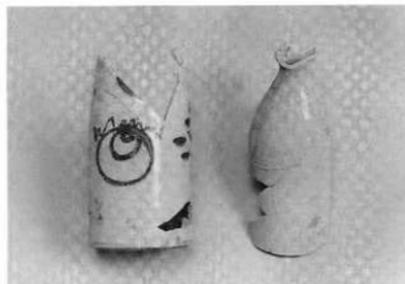
陶器 小壺・中壺



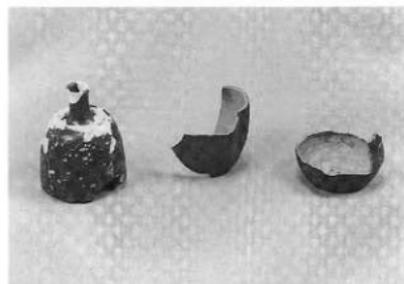
陶器 水壺



陶器 小瓶



陶器 燗徳利



陶器 中瓶



陶器 土瓶



陶器 仏花瓶



陶器 土鍋・行平 (1)



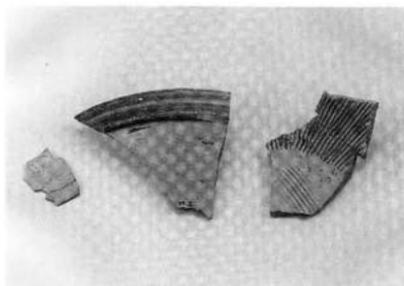
陶器 行平 (2)



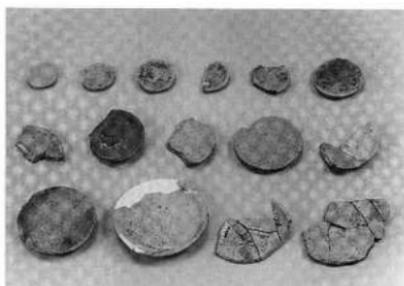
陶器 茶燗・カンテラ・灯明受皿



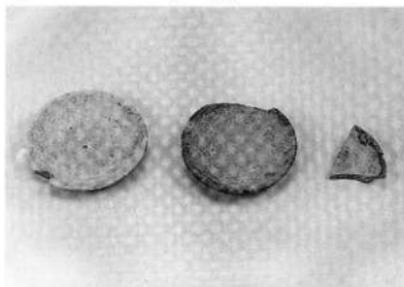
陶器 土瓶蓋・カンテラ蓋



拓器 小皿・福鉢



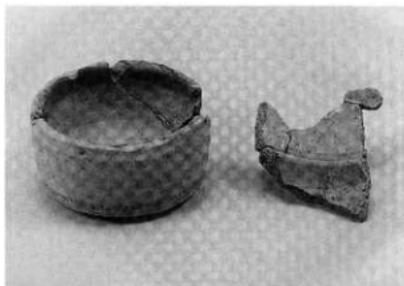
土器 極小皿・小皿



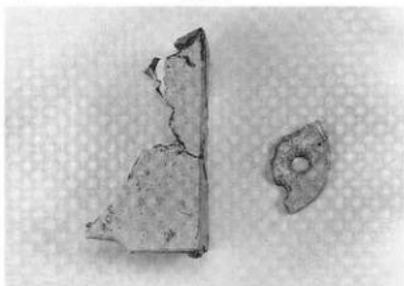
土器 灯明皿



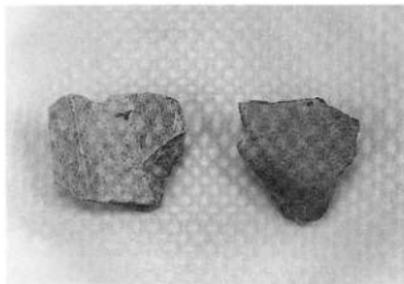
土器 焼塩壺



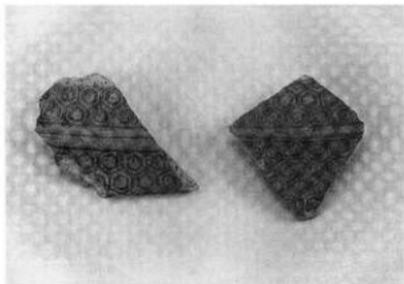
土器 火鉢・七厘(1)



土器 七厘(2)・さな



土器 中壺



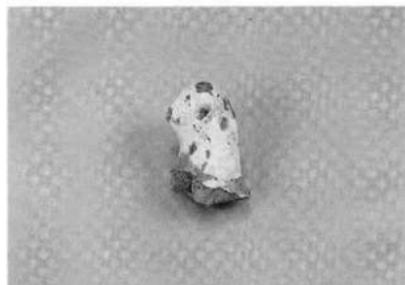
土器 土釜



土器 钵 片



土器 燒埴壺蓋



土製品 片



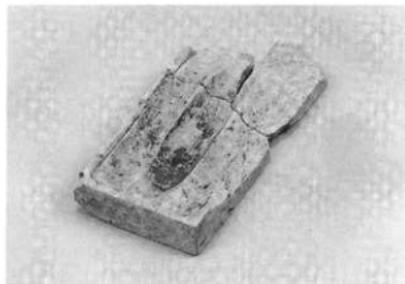
土製品 ミニチュア



土製品 模造銭貨



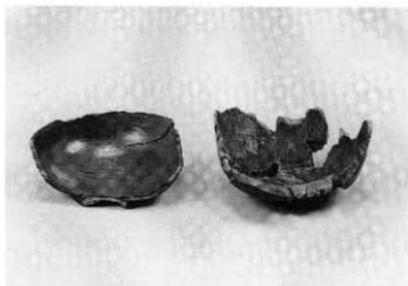
瓦 丸瓦・平瓦・棧瓦・棟瓦



石製品 硯



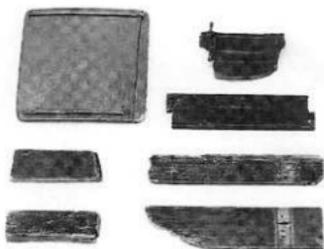
石製品 蓋



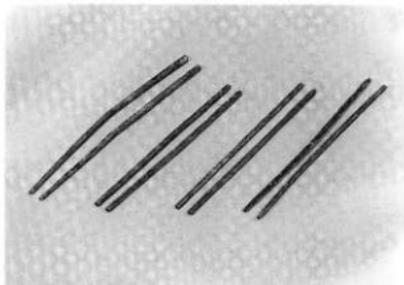
木製品 漆器



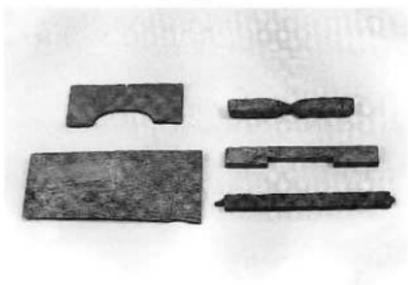
木製品 傘部材



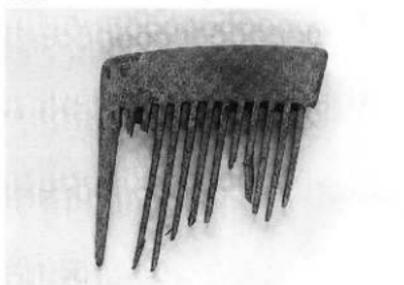
木製品 蓋・箱物・曲物



木製品 箸



木製品 簪類



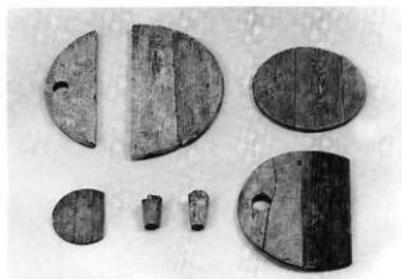
木製品 櫛



木製品 下駄



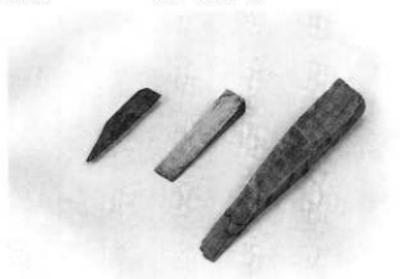
木製品 柄杓



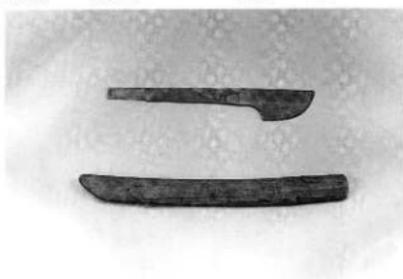
木製品 樽蓋・桶底板・栓



木製品 駒・人形 木製品 木札



木製品 楔



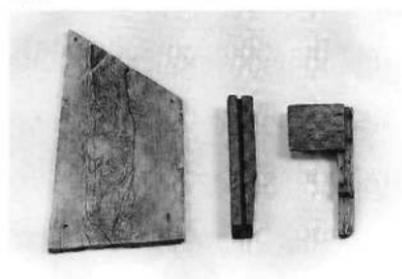
木製品 筥・刀柄



木製品 不明製品



木製品 加工木 (1)



木製品 加工木 (2)



木製品 木っ端



木製品

竹筒



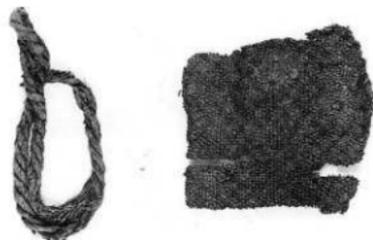
木製品

桐木



木製品

葺



木製品 縄

木製品 布



金属製品

短管



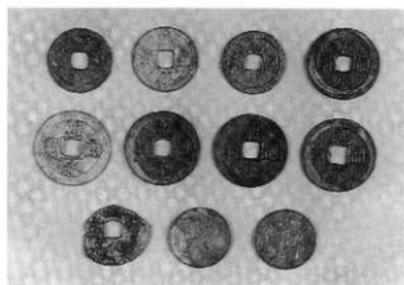
金属製品

鎌・釘



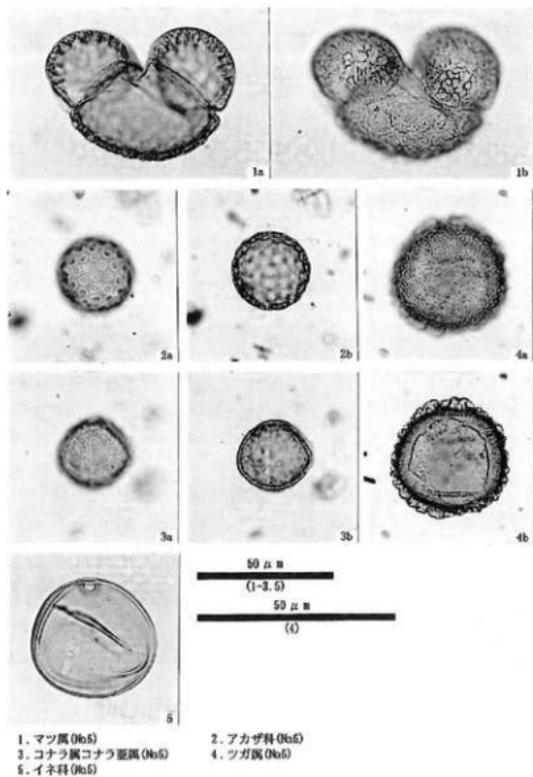
金属製品

小柄・その他



金属製品

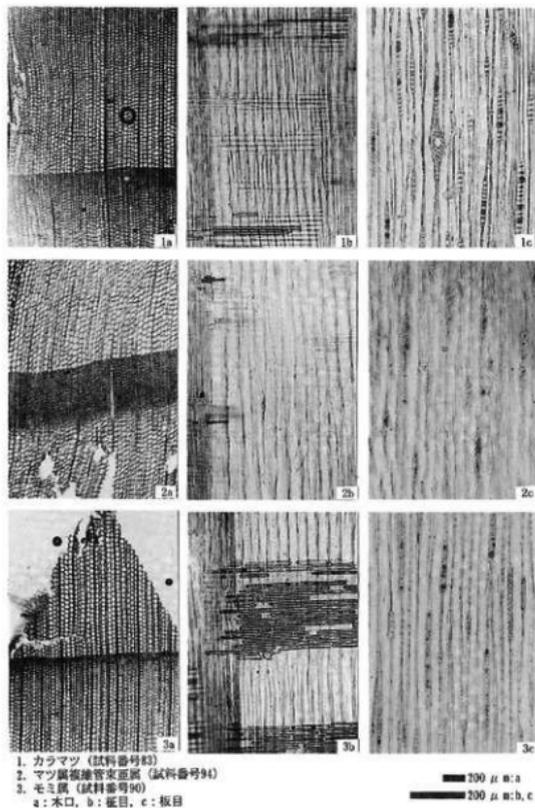
銭貨



1. マツ属 (0b5)
3. コナラ属コナラ亜属 (0b5)
5. イネ科 (0b5)

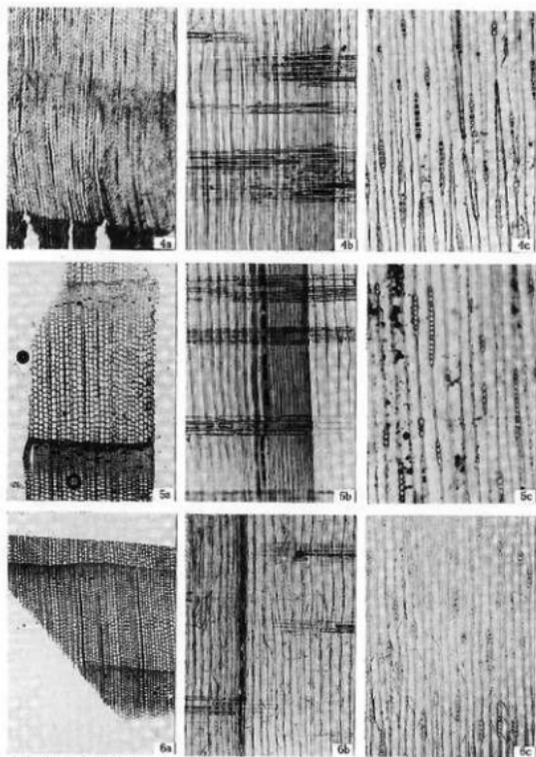
2. アカザ科 (0b5)
4. ツガ属 (0b5)

花粉化石



1. カラマツ (試料番号83)
 2. マツ属短葉種系亜属 (試料番号94)
 3. モミ属 (試料番号90)
- a: 木口, b: 径目, c: 板目

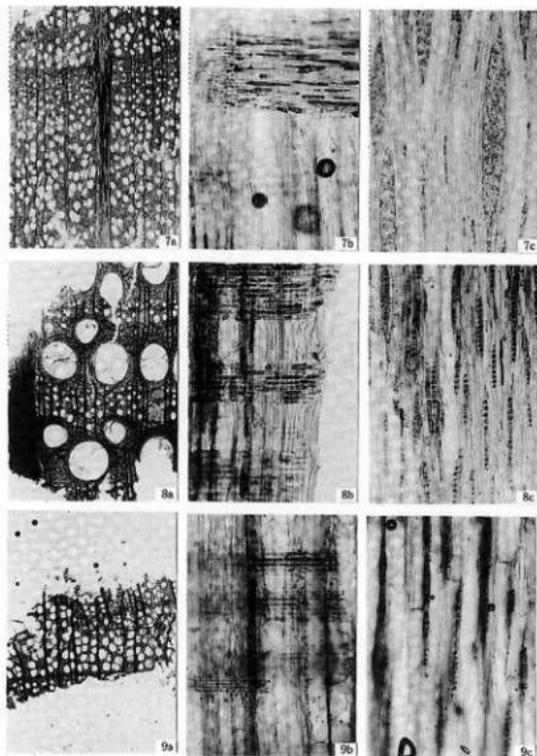
木材(1)



4. ツガ属 (試料番号27A)
 5. スギ (試料番号60)
 6. ヒノキ (試料番号8B)
 a: 木口, b: 径面, c: 横目

200 μ m
 700 μ m

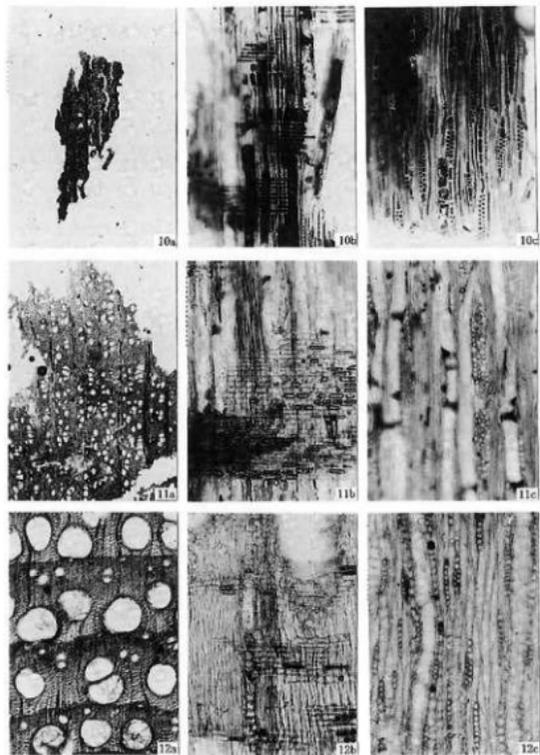
木材(2)



7. ブナ属 (試料番号76)
 8. コナラ属コナラ三頭コナラ節 (試料番号74)
 9. カツラ (試料番号44)
 a: 木口, b: 径面, c: 横目

200 μ m
 200 μ m

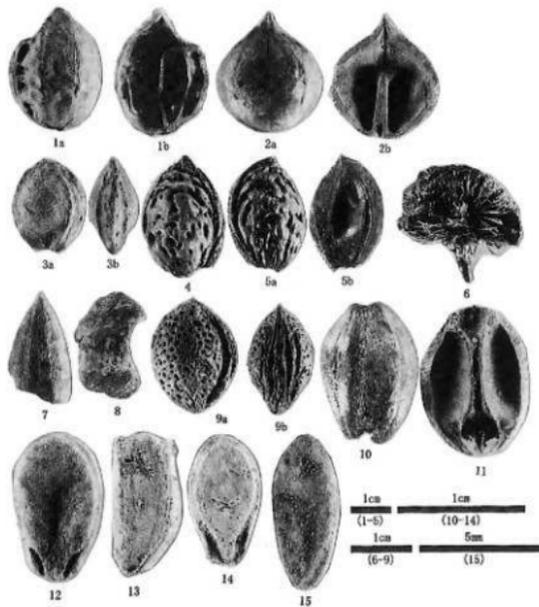
木材(3)



10. イスノキ (試料番号103)
 11. サクラ属 (試料番号150)
 12. トネリコ属 (試料番号96)
 a: 木口, b: 径目, c: 板目

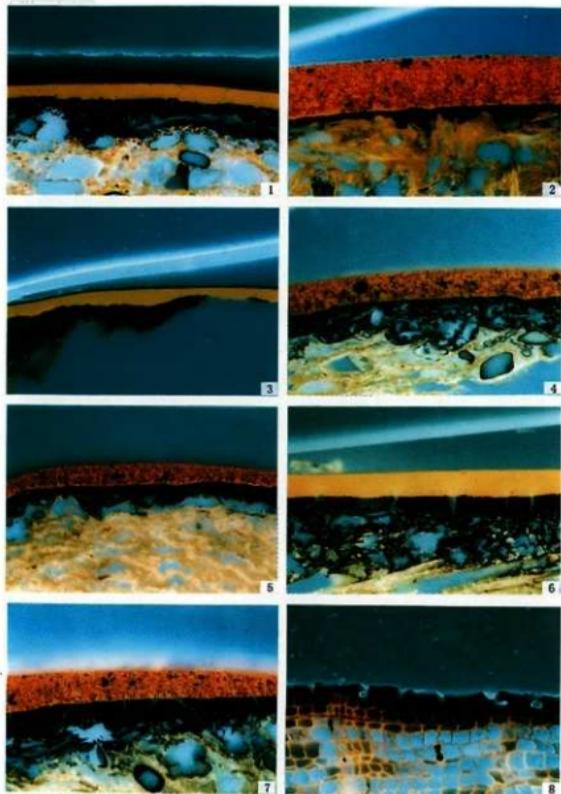
200 μ m: a
 200 μ m: b, c

木材(4)



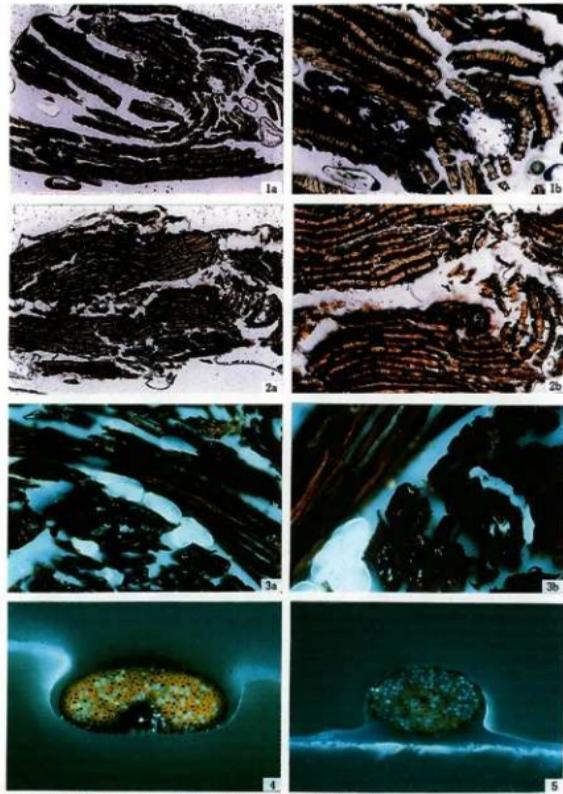
1. オニグルミ 核 (No. 5)
 2. ヒメグルミ 核 (No. 3)
 3. アンズ 核 (No. 1)
 4. モモ 核 (No. 3)
 5. モモ 核 (No. 5)
 6. スギ 球果 (No. 3)
 7. カヤ 種子 (No. 5)
 8. ウメ 核 (No. 5)
 9. センダン 核 (No. 5)
 10. センダン 核 (No. 5)
 11. ヒョウタン類 種子 (No. 3)
 12. トウガン 種子 (No. 5)
 13. ヒョウタン類 種子 (No. 3)
 14. ニホンカボチャ近縁種 種子 (No. 5)
 15. メロン類 種子 (No. 3)

種実遺体



1. 漆塗膜の漆断面 (試料番号13a; 外側) 2. 漆塗膜の漆断面 (試料番号13a; 内側)
 3. 漆塗膜の漆断面 (試料番号13b; 外側) 4. 漆塗膜の漆断面 (試料番号14; 外側)
 5. 漆塗膜の漆断面 (試料番号14; 内側) 6. 漆塗膜の漆断面 (試料番号16; 外側)
 7. 漆塗膜の漆断面 (試料番号16; 内側) 8. 漆塗・黒の漆断面 (試料番号11)

漆断面



1. 綿の横断面 (4号井戸; 綯) 2. 綿の横断面 (2号井戸内4段目; 綯)
 3. 布の縦織 (3号井戸; 縦織) 4. 麻の毛 (2号井戸内; 麻(大))
 5. 麻の毛 (2号井戸内; 麻(小))

700 μm: 1a, 2a
 200 μm: 1b, 2b, 3a
 100 μm: 3b, 4, 5

繊維断面

甲府城下町遺跡（日向町遺跡第2地点）報告書抄録

ふりがな	こうふじょうかまちいせき（ひゅうがまちいせきだいにちてん）							
書名	甲府城下町遺跡（日向町遺跡第2地点）							
副題	山梨県北口駐車場建設に伴う発掘調査報告書							
シリーズ	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第220集							
編著者名	保坂和博							
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター							
所在地	〒400-1508 山梨県東八代郡中道町下曾根923 TEL 055-266-3016							
発行者	山梨県教育委員会 山梨県土地開発公社							
発行年月日	2004年（平成16年）3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 (新)	東経 (新)	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
こうふじょうかまちいせき (ひゅうがまちいせきだいにちてん) 甲府城下町遺跡 (日向町遺跡第2地点)	やまなけいこうふしまたくち 山梨県甲府市北口 2丁目11	19201		35° 40' 07"	138° 34' 15"	2001(平成13)年 11月1日～ 2002(平成14)年 2月15日	2400㎡	山梨県北口 駐車場建設 に伴う事前 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
甲府城下町遺跡 (日向町遺跡第2地点)	城下町	中 近 近 世 世 代	井戸・溝状遺構・ 土坑・ピット・ 暗渠	磁器(肥前系、瀬戸・美濃系) 陶器(肥前系、瀬戸・美濃系、京焼 系、信楽系) 灰器(備前系、堺系) 土器(在地系、泉州系：焼塩釜) 石製品(硯) 金属品(煙管・銭貨等) 木製品(漆製品、符祺の駒、人形、 刀鞘、箸、櫛、下駄、曲物、 桶等)			武家屋敷で使用さ れた陶磁器を検出	

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第220集

甲府城下町遺跡（日向町遺跡第2地点）

—山梨県北口駐車場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

印刷日 2004年（平成16年）3月29日
 発行日 2004年（平成16年）3月31日
 編集 山梨県埋蔵文化財センター
 山梨県東八代郡中道町下曾根923
 TEL 055(266)3016
 発行 山梨県教育委員会 山梨県土地開発公社
 印刷 株式会社アド井上
 TEL 055(273)6141

